平成２５年度
富山市モビリティ・マネジメント
教育推進事業支援業務
報告書
（資料編）

平成２６年３月

富山市

目　　次

１．学習プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２．アンケート調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８２

３．富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会・・・・・・・・・８５
（１）第１回協議会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８５
（２）第２回協議会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２１

４．検討部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７２
（１）第１回検討部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７２
（２）第２回検討部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８１
（３）第３回検討部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８９
（４）第４回検討部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９６
（５）第５回検討部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０３
（６）第６回検討部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０９
（７）第７回検討部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１９

５．第８回日本モビリティ・マネジメント会議発表ポスター・・・・・２２２

６．第５回ＥＳＴ交通環境大賞の結果について・・・・・・・・・・・２２４

７．富山市のりもの語り教育推進協議会規約・・・・・・・・・・・・２２６

1. 学習プログラム

社会科 3 年生、社会科 4 年生、社会科 6 年生、総合的な学習の時間 3～4 年生、総合的な学習の時間 5～6 年生において、学習プログラムの製作を行った。

・社会科 3 年生

学習プログラム：市の様子
～富山市のいろいろなのりもの～

・社会科 4 年生

学習プログラム：富山県の交通の様子

・社会科 6 年生

学習プログラム：富山市の新しいまちづくり
～まちを元気にするライトレール

・総合的な学習の時間 3～4 年生

学習プログラム：「おでかけ定期券」ってなんだろう？

・総合的な学習の時間 5～6 年生

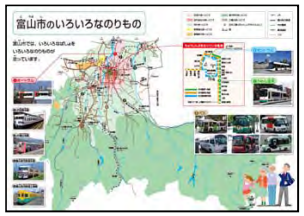
学習プログラム：環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう！

・学習教材のご提供

各プログラムにおいて、以下の教材をご用意しました。下記ＵＲＬからどなたでも自由にダウンロードできます。授業実施の際にご活用ください。

○指導案　　○児童用パンフレット
○ワークシート（※総合的な学習の時間 3～4 年生、5～6 年生のみ）
○教員用資料（※社会科 4 年生、総合的な学習の時間 3～4 年生、5～6 年生のみ）

参考：社会科３年生　児童用パンフレット（Ａ３サイズ）



学習教材のダウンロード（富山市教育センターＨＰ内）

http://www.tym.ed.jp/c10/link/fr_link-syu7.html

・実践校への支援

富山市のりもの語り教育に取り組む小学校に対して、学習教材に係る印刷費の支援や校外学習を行う場合の交通事業者との連絡調整、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の学校支援制度への申請サポート等を行っています。お気軽にお問合せください。

【問合せ先】　富山市交通政策課　TEL：０７６-４４３-２１９５

学習プログラム開発にあたり、平成 23 年度から 3 ヶ年にわたり交通エコロジー・モビリティ財団の支援を受け、以下の方々にご尽力いただきました。

・富山市立五福小学校　柳内誠治 校長　　・富山市立保内小学校　翁田秀則 教諭
・富山市立八尾小学校　津幡和英 教諭　　・富山市立五福小学校　藤嶋広樹 教諭
・富山市立呉羽小学校　堀　泰洋 教諭　　・富山市立東部小学校　渡辺純恵 教諭

平成２６年４月発行　富山市交通政策課、富山市教育委員会

富山市のりもの語り教育のすすめ

持続可能な社会のための交通環境学習

富山市のりもの語り教育とは

「富山市のりもの語り教育」とは、富山市における小学生を対象とした交通環境学習（注 1）の名称です。富山市では、公共交通（乗り物）の魅力を学ぶことで、児童に公共交通の必要性を理解してもらい、将来乗り物をかしこく使い分ける（注 2）意識を持ってもらうことを目指しています。

また、富山市のりもの語り教育は持続発展教育（ＥＳＤ）と非常に近い考え方をしています。そのため、ＥＳＤとして富山市のりもの語り教育に取り組むことを推奨しています。

※『富山市学校教育指導方針』の持続発展教育（ＥＳＤ）のページには、富山市交通環境学習に関する内容が掲載されています。

注１：交通環境学習

一人ひとりの移動手段や社会全体の交通流動を「人や社会、環境にやさしい」という観点から見直し、改善していくために自発的な行動を取れるような人間を育成することを目指した教育活動。（交通環境学習 HP　http://www.mm-education.jp/）

注２：乗り物をかしこく使い分ける

過度にクルマに依存するのではなく、近い場所は徒歩や自転車、公共交通が便利な場所はバスを使う等、クルマと公共交通をかしこく使い分けた交通行動をとること。

富山市のりもの語り教育を実施する必要性

富山市では、将来に向けて 3 つの大きな課題（注 3）があると考えています。それらの課題を解決するため、「くしとだんごのまちづくり（注 4）」を進めています。

富山市のりもの語り教育は、環境や福祉等について意識を向け、持続可能な社会のために自発的に考えて行動できる「将来の富山市民」育成に効果的な教育であるといえます。

注３：富山市の将来に向けた課題３つ

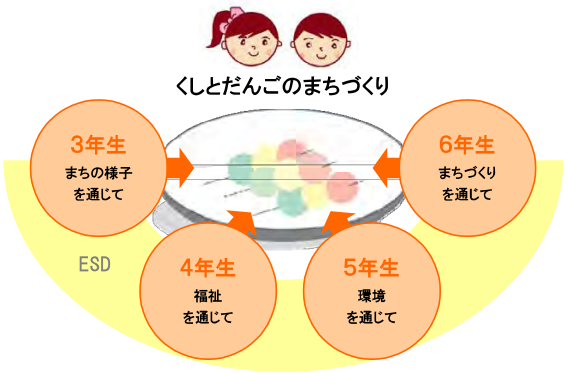
①車を自由に使えない市民にとって、極めて生活しづらいまち
②割高な都市管理の行政コスト
③中心市街地の空洞化による都市全体の活力低下と魅力の喪失
富山市の抱える３つの課題は、日本全体が直面する今後のさらなる少子高齢化によって深刻化すると考えられます。

注４：富山市のすすめる「くしとだんごのまちづくり」

「くしとだんごのまちづくり」とは、鉄軌道をはじめとする公共交通（くし）を活性化させ、その沿線に住居・商業・文化等の都市の諸機能（だんご）を集積させることによる、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりのことです。

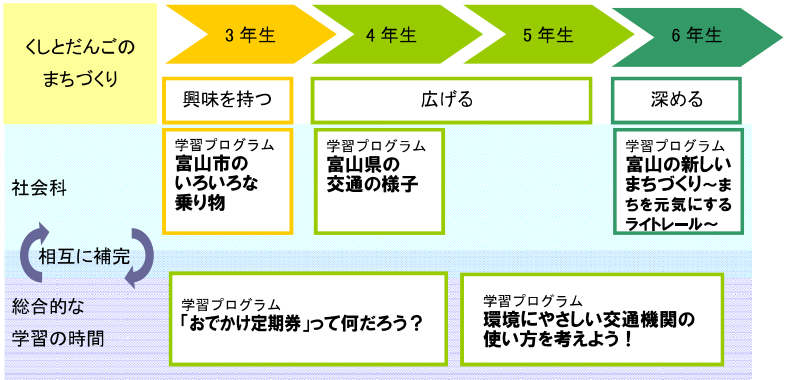
富山市のりもの語り教育の概要

３～６年生の４学年において、福祉や環境などの分野を通じて「くしとだんごのまちづくり」を学習することで、環境や社会について意識を向け、自発的に考えて行動できる「将来の富山市民」の育成を目指します。



また、３～６年生の４学年においてステップを踏みながら学習を進めることができるように、社会科と総合的な学習の時間の２教科における学習プログラムをご用意しました。

※3・4 年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』（P６～７）には、富山市のりもの語り教育に関する内容が掲載されています。



富山市のりもの語り教育の実施

・学習プログラムの内容

教科	学年	学習プログラム名	学習内容	実施単元名・時期
社会科	3	**富山市の いろいろな乗り物**	富山市にはいろいろな公共交通があること、ポートラムの特徴があることを知る。	・身近な地域 ・6～7 月
	4	**富山県の 交通の様子**	富山県の鉄道の様子について、市街地の分布と関連付けて理解する。	・富山県の広がり ・12 月
	5	―	―	―
	6	**富山市の 新しいまちづくり ～まちを元気にするライトレール～**	市のまちづくりに関心を持ち、進んで調べ、行政の仕事を理解する。	・わたしたちの願いを実現する政治 ・12 月

教科	学年	学習プログラム名	学習内容	実施教科 ・単元名分野・時期
総合的な 学習の時間	3～4	**おでかけ定期券って何だろう？**	「おでかけ定期券」の目的を調べる活動を通して、バス交通が高齢者にも使いやすく整備されていることに気づく。	・総合的な学習の時間 ・福祉
				・国語 ・だれもがかかわり合えるように ・4 年生 9 月
	5～6	**環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう！**	交通機関の環境に与える影響を考え、自分たちの交通機関の使い方と、富山市が進めている環境にやさしいまちづくりとを関連させながら、これからの交通機関の利用についての気付きを深めることができる。	・総合的な学習の時間 ・環境
				・社会 ・わたしたちの生活と環境 ・5年生2月
				・理科 ・人と環境 ・6年生2月

富山市のりもの語り教育

社会科

・３年生「富山市のいろいろな乗り物」

・４年生「富山県の交通の様子」

・６年生「富山市の新しいまちづくり」

総合的な学習の時間

・３～４年生「おでかけ定期券って何だろう？」

・５～６年生「環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう！」

平成２６年３月
富山市

社会科

３年生

「富山市のいろいろな乗り物」

学習プログラム

・指導案
・児童用パンフレット

平成２６年３月
富山市

指導案

社会科３年生　富山市のりもの語り教育　学習プログラム

「市の様子～富山市のいろいろなのりもの～」

○　学習のねらい

富山市内にある様々な公共交通の種類や広がりを調べ、市の特色やよさについて自分なりの考えをもつことができる。

○　対象学年・教科

３年生　社会「市の様子」

指導要領での位置づけ

内容（１）のア　身近な地域や市（区・町・村）の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物など

交通の様子について調べる際には、身近な駅やバス停とその周りの様子を観察、調査したり電車やバスなどの路線図や時刻表を手掛かりにしたりして、自分たちの住んでいる市と近隣の市の結び付きに気付くようにする。

○　時間数

２時間（単元は１２時間）

１	市の地図を見て
２	
３	市のさまざまな様子を調べよう
４	
５	市の様子調べ①（交通について調べよう） （モビリティ・マネジメント教育の一環として取り上げる）
６	
７	市の様子調べ② （地形や自然条件、土地利用について調べよう）
８	
９	
１０	
１１	市のしょうかいをしよう
１２	

○　準備物

プロジェクター、スクリーン、実物投影機

○　授業概要

１時間目　富山市にあるいろいろな乗り物の種類について資料をもとに調べ、どんな場所を通っているか考える。

２時間目　ポートラムの資料をもとに、公共交通の大切さについて考える。

※ライトレールや他の公共交通機関の利用体験をするのもよい。

■授業の展開例（１時間目）

	学習活動	指導上の留意点
15分	１公共交通の様子を資料からとらえる。 ■指示 ・児童用パンフレットの地図と写真を見ましょう。	・資料を見る際に次の点を明らかにして、必要なことをとらえることができるようにする。 〇自分たちの学校があるところはどの辺りか。 〇地図の色のちがいは何を表しているか。 ・土地の様子が想起できるように「わたしたちの富山市」も活用する。
	■発問１ ・富山市にはどんな種類の乗り物が走っていますか。	・資料の読み取りだけに終わらないように、「乗ったことがある」、「見たことがある」、「家族が利用している」などの生活経験を聞き出すようにする。 ・たくさんの人が利用する乗り物＝「公共交通」という用語を指導する。
20分	２土地利用と公共交通の関連を話し合う。 ■発問２ ・公共交通はどんなところを走っていますか。市の様子とくらべながら説明してみましょう。	・子どもたちの発言を次のような観点で類型化し、板書していくようにする。 〇土地の様子と関連させている。 〇土地利用と関連させている。 〇働く人と関連させている。 ・市の中心部にはセントラムやバス、その周辺の住宅の多いところには路面電車やバスが走っており、さらにその周辺の田や畑が多いところではバスだけしか走っていないところもあることに気付くようにする。 ・市の中心部に公共交通が多い理由に気付くようにする。
10分	３今日の学習の感想をノートにまとめる。	・公共交通は多くの人のくらしとつながっていることを示し、次時へのつながりとする。

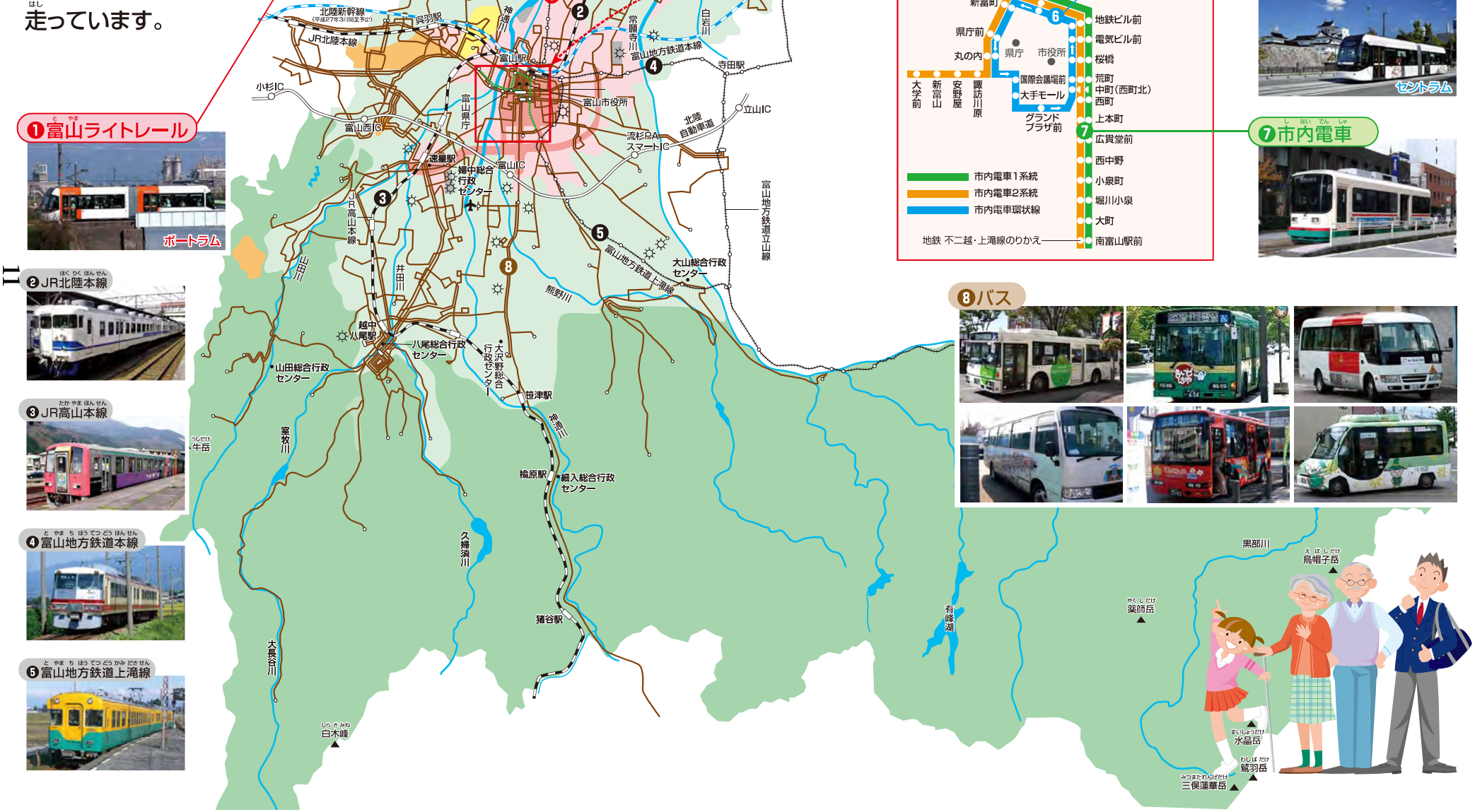
■授業の展開例（２時間目）

	学習活動	指導上の留意点
15分	１公共交通の役割について考える ■指示１ ポートラムと富山港線の写真を比べてみましょう。	・児童用パンフレット裏面の資料を使用する。
	■発問１ 写真を比べて気付いたことを発表しましょう。 〇通勤や通学の人が利用している。 〇ポートラムは色もきれい。座席や車内もきれい。 〇工場へ勤めに行く人や、市の中心部へ行く人が利用していると思う。	・車両の外観や利用する人の様子が分かる写真を提示し、どんな人が何のために利用しているのか考えさせるようにする。 ・公共交通の大切さに十分気付くことができるように、利用している人の気持ちも考えさせるようにする。 ・富山港線が廃線になることが決まった事実があることを伝える。理由として、自家用車の普及による利用者の減少があることも教師から伝える。
10分	２公共交通の大切さについて話し合う。 ■発問２ 富山港線がなくなったらどうなるでしょう。	・運転免許のない人（学生、高齢者も含む）の立場に気付くことができるようにする。 ・「くしとだんごのまちづくり」の用語を提示し、多くの人が行きたい場所に行けるように公共交通が整備されていることをおさえる。
10分	３ポートラムの特徴を知り、興味をもつ。 ■発問３ ポートラムについてどのようなことが分かりましたか。（児童用パンフレットで説明後）	・児童用パンフレットを活用し、ポートラムのよいところに気付くことができるように助言する。 ・新幹線開通後の相互乗り入れについて教師から説明してもよい。
10分	４富山市の乗り物についての学習の感想をまとめる。	

児童用パンフレット

富山市のいろいろなのりもの

富山市では、いろいろなばしょを
いろいろなのりものが
走っています。



富山港線とライトレールをくらべてみよう

どんなふうにかわっているかな？

	JR（富山港線）	ライトレール
駅・電停		
車体		
運賃の払い方	切符券売機 運賃箱	パスカ販売・積み増し機 カードリーダー
車内の様子		
乗り降りする場所の形		

時刻表

JR（富山港線）

富山駅発／平日　（平成16年1月）

時	分
6	00　19　52
7	30
8	01　34
9	58
10	
11	11
12	57
13	
14	04
15	08
16	14　38
17	16　54
18	26
19	11
20	08
21	23

（出典：「富山ライトレールの誕生」）

ライトレール

富山駅北発／平日

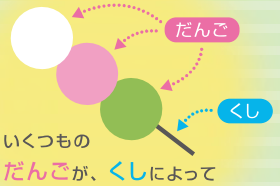
時	分
5	57
6	35　53
7	14　■24　35　■45　55
8	■05　15　■25　×35　■45　57
9	×■06　14　30　45
10	00　15　30　45
11	00　15　30　45
12	00　15　30　45
13	00　15　30　45
14	00　15　30　45
15	00　15　30　45
16	00　15　30　45
17	00　15　30　45
18	00　15　30　45
19	00　15　30　45
20	00　15　45
21	15　45
22	15　45
23	15

※×の列車は、越中中島止まりです。
※■は2番線発車です。　（出典：富山ライトレールHP）

富山市交通政策課　東福光晴さんのお話

くしとだんごのまちづくり

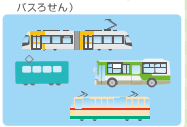
富山市では、すむばしょやかいものをするばしょ「だんご」を、子どもやこうれいしゃなど、だれでもりようできるこうきょう交通「くし」でつなげたまちをめざしています。



いくつもの**だんご**が、**くし**によってつながれています。

だんご
すむところ、かいものをするところ、はたらくところなどがあつまっているばしょ

くし
だんごどうしをつなげる電車やバスなどののりもの（てつきどうとうんこう本数が多いバスろせん）



くしが**だんご**をつなぐようなまちを、富山市はめざしています。

富山市交通政策課

社会科

４年生

「富山県の交通の様子」

学習プログラム

- 指導案
- 児童用パンフレット
- 教員用資料

平成２６年３月
富山市

指導案

社会科４年生　富山市のりもの語り教育　学習プログラム

「富山県の交通の様子」

○　学習のねらい

公共交通について考え、公共交通の大切さに気付くとともに、鉄道と市街地の関係について考えることを通して、富山県の鉄道の様子と主な都市との関係について理解する。

○　対象学年・教科

４年生　社会科「富山県の広がり」

学習指導要領での位置づけ

第３学年及び第４学年の目標と内容

(6)県（都、道、府）の様子について、次のことを資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、県（都、道、府）の特色を考えるようにする。
イ　県（都、道、府）全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置

「交通網の様子や主な都市の位置」を調べるとは、県内を通る主な道路や鉄道などの交通網、主な港や空港の位置、主な都市の位置を取り上げて調べ、白地図に書き表すことである。

主な道路としては高速道路、主な国道や県道などが、主な都市としては県庁のある市や人口が集中している市、交通の要衝となっている市などが、それぞれ考えられる。

実際の指導に当たっては、県の地図や立体地図などを活用して、主な地形や産業、道路や鉄道、都市などを調べ、白地図に書き表す活動を通して県全体の特色をとらえられることが考えられる。

これらの学習を通して、自分たちの住んでいる県の地形や産業などの特色を考えることができるようにする。

○　時間数　２時間（単元は８時間）

１次	富山県の地形の様子について知ろう。（２時間）	・　自分たちの富山県の様子に関心をもち、県の位置とその周りの県を理解する。 ・　白地図を利用し、富山県の地形の様子を知る。
２次	富山県の土地利用の様子や市町村の様子について調べよう。（２時間）	・　白地図を利用し、富山県の土地利用の特色を地形と関連付けて考える。 ・　富山県の市町村や主な都市について知る。
３次	富山県の交通の様子について知ろう。（２時間）	・　公共交通について考え、公共交通の大切さを考える。 ・　鉄道と市街地の関係について考えることを通して、富山県の鉄道の様子と主な都市との関係について考える。
４次	富山県の主な産業について知ろう。（２時間）	・　富山県の主な産業について調べ、白地図にまとめる。

○　準備物

プロジェクター、スクリーン、実物投影機

※　白地図（富山市小教研社会科部会編）を活用するとよい。

■授業の展開例（１時間目）

（１）ねらい

公共交通について考え、公共交通の大切さに気付くことができる。

（２）本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
５分	１.自分たちと公共交通とのつながりについて考える。 ■発問１ ・みんなが普段利用する乗り物は何ですか。 ■発問２ ・それぞれどんなときに利用しますか。	・　自分たちがよく車を利用しているのに対して、バスや電車といった公共交通は利用頻度が低いことに気付くように促す。
30分	２.鉄道やバスなどの公共交通の大切さや問題点について考える。 ■指示 ・「一人を１㎞運ぶために排出する二酸化炭素量の比較」のグラフを提示する。 ■発問３ ・環境に優しい電車やバスなのに、どうしてみんなはあまり利用しないのでしょう。	・　自分たちが一番利用している自家用乗用車よりも、バスや電車の方が環境に優しいことに気付くように促す。 ・　車は現在地から目的地まで行けるなど便利な面が見られることや、小学生は利用する機会があまりないことに気付くように促す。また、駐輪場の写真を基に、高校生になって通学に使うことが多くなることなど、現在は利用機会は限られているが、自分たちの将来にとって大切なものだということに気付くように促す。
	■指示 ・「公共交通の利用者数」のグラフを提示する。 ■発問４ ・グラフを見て、気付いたことを発表しましょう。 ■指示 ・「公共交通（電車）を利用する人」のグラフを提示する。 ■発問５ ・グラフを見て、気付いたことを発表しましょう。	・　全体的に見て、公共交通の利用者数が減少し、特に路線バスの利用者数が減少していることをおさえる。 ・　５０代や１０代の利用者が多いことに気付くように促す。駐輪場の写真と１０代の利用者が多いことから、学生が多く利用していることに気付くように促す。また、５０代の利用者が多く、若くなればなるほど利用者率が低くなることから、電車を利用せず、自家用車を利用する公共交通離れが起こっていることに気付くように促す。
10分	３．今日の学習の感想をノートにまとめる。	・　公共交通が多くの人々のくらしとつながっていることを示し、次時へのつながりとする。

■授業の展開例（２時間目）

（１）ねらい

鉄道と市街地の関係について考えることを通して、富山県の鉄道の様子と主な都市との関係について、理解できるようにする。

（２）本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
10分	１．鉄道と市街地の関係について考える。 ■「ＪＲ高山本線(電車)と市街地（住宅の多いところ）」の資料を提示する。 ■発問１ ・電車の駅と市街地にはどのような関係があるでしょう。	・　地図上のピンク色の部分は人口密集地域であり、市街地ということを確認する。その上で、電車の駅周辺に市街地が広がっていることに気付くように促す。富山駅周辺、越中八尾駅周辺の写真を基に、駅の周辺にはたくさんの人が住んでいることに気付くように促す。その際、速星駅や上滝駅、呉羽駅や水橋駅など具体的に例を示すことにより、電車が市街地を結んでいることに気付くように促す。
25分	２．富山県の交通の様子について考える。 ■指示 ・「富山県内の市街地（住宅の多いところ）と主な電車の駅」の資料を提示する。 ■発問２ ・電車の通り道を予想して、線をかきます。どんなことに気を付けてかけばよいでしょう。 ■指示 ・それでは、線をかいてみましょう。 ○　ＪＲ北陸本線 ○　ＪＲ高山本線 ○　ＪＲ城端線 ○　ＪＲ氷見線 ■指示 ・「ＪＲ北陸本線、ＪＲ高山本線、ＪＲ城端線、ＪＲ氷見線をかきこんだ地図」を提示する。 ■発問３ ・線をかきこんでみて、気が付いたことはありませんか。 ■指示 ・「富山県内の全ての鉄道をかきこんだ地図」を提示する。	・　次の考えを類型化し、板書した上で、作業するように促す。 ○駅を探して結ぶ。 ○駅の向きを考えて結ぶ。 ○市街地や市街地の近くを通るように結ぶ。 ・　一人一人が電車の通り道がかけるように机間指導を行う。 ・　富山市や高岡市といった大きな都市には、電車が集まっていることに気付くように促す。 ・　鉄道が富山県内のほとんどの市街地を通るとともに、大きな市街地に集まるなど、人口の多いところは交通の要衝となっていることに気付くように促す。 ・　富山県の鉄道の様子と主な都市との関係について、理解できるようにする。
10分	３．今日の学習の感想をノートにまとめる。	

児童用パンフレット

富山県の交通の様子

●交通とは?

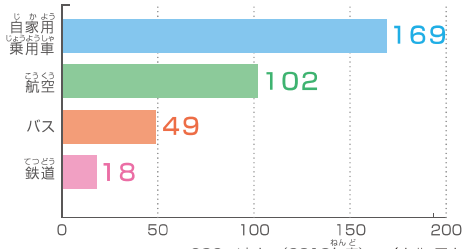
「人」や「もの」を運ぶための大切な働きです。

●公共交通とは?

交通のうち、「電車」や「バス」など、
だれでも利用できる乗り物のことをいいます。

環境に優しい公共交通(バスや電車)

1人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の量



g-CO2／人キロ(2010年度)　(出典:国土交通省HP)

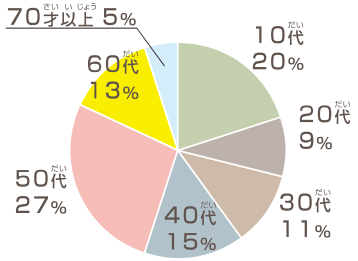
駐輪場(速星駅)

優先座席

パークアンドライド駐車場(越中八尾駅周辺)

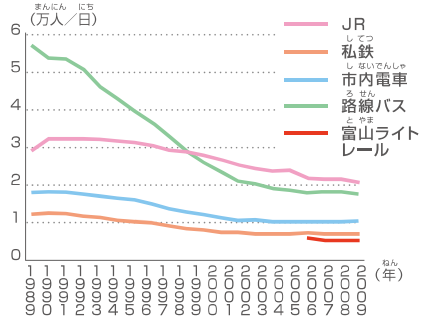
公共交通(電車)を利用する人

JR高山本線を利用する人(平日)



(出典:H20年度 富山市調査〈平日〉)

公共交通の利用者数



(出典:富山市統計書)

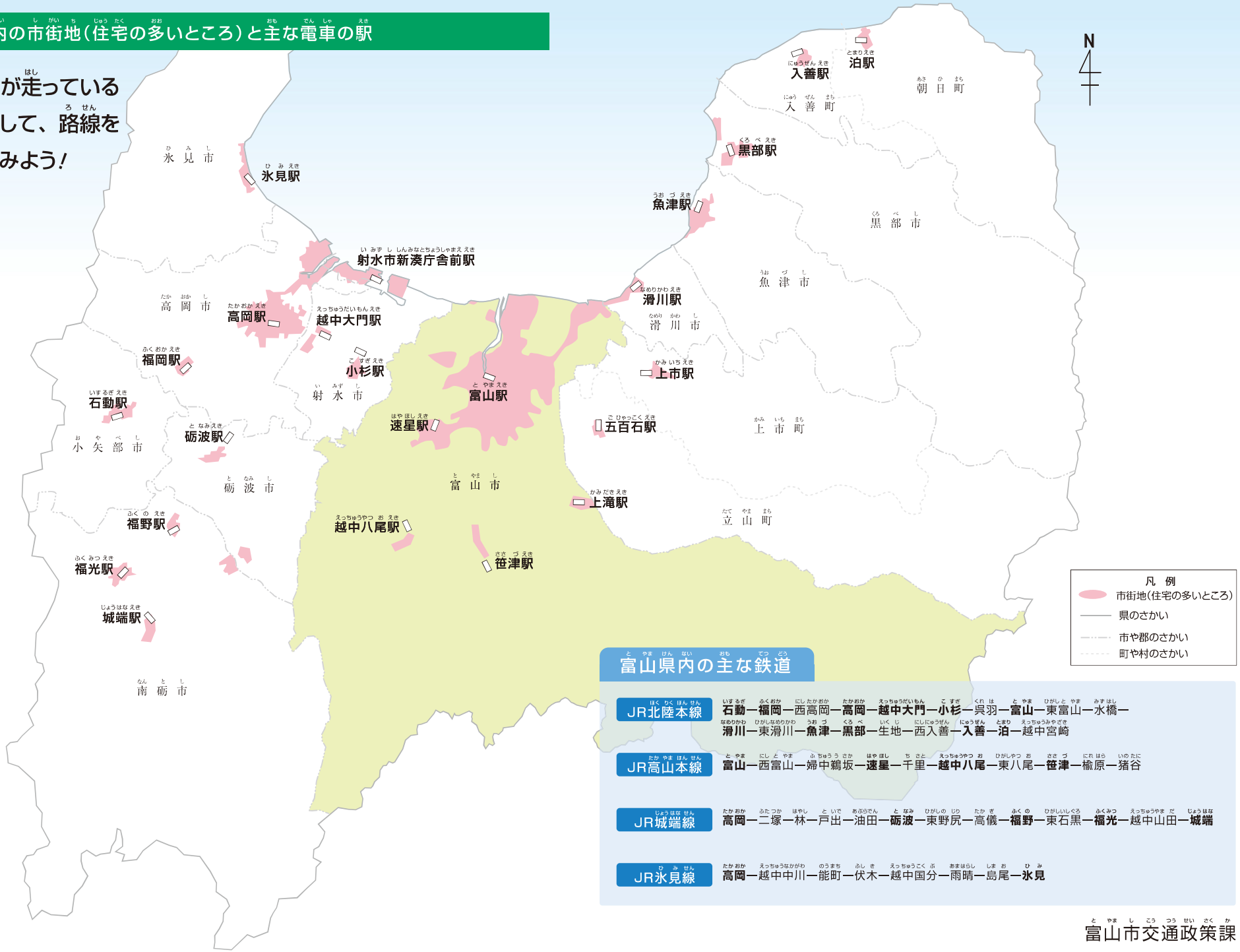
JR高山本線(電車)と市街地(住宅の多いところ)

富山駅周辺

越中八尾駅

富山県内の市街地（住宅の多いところ）と主な電車の駅

電車の線路が走っている場所を予想して、路線を書き入れてみよう！



富山県内の主な鉄道

JR北陸本線
石動―福岡―西高岡―高岡―越中大門―小杉―呉羽―富山―東富山―水橋―滑川―東滑川―魚津―黒部―生地―西入善―入善―泊―越中宮崎

JR高山本線
富山―西富山―婦中鵜坂―速星―千里―越中八尾―東八尾―笹津―楡原―猪谷

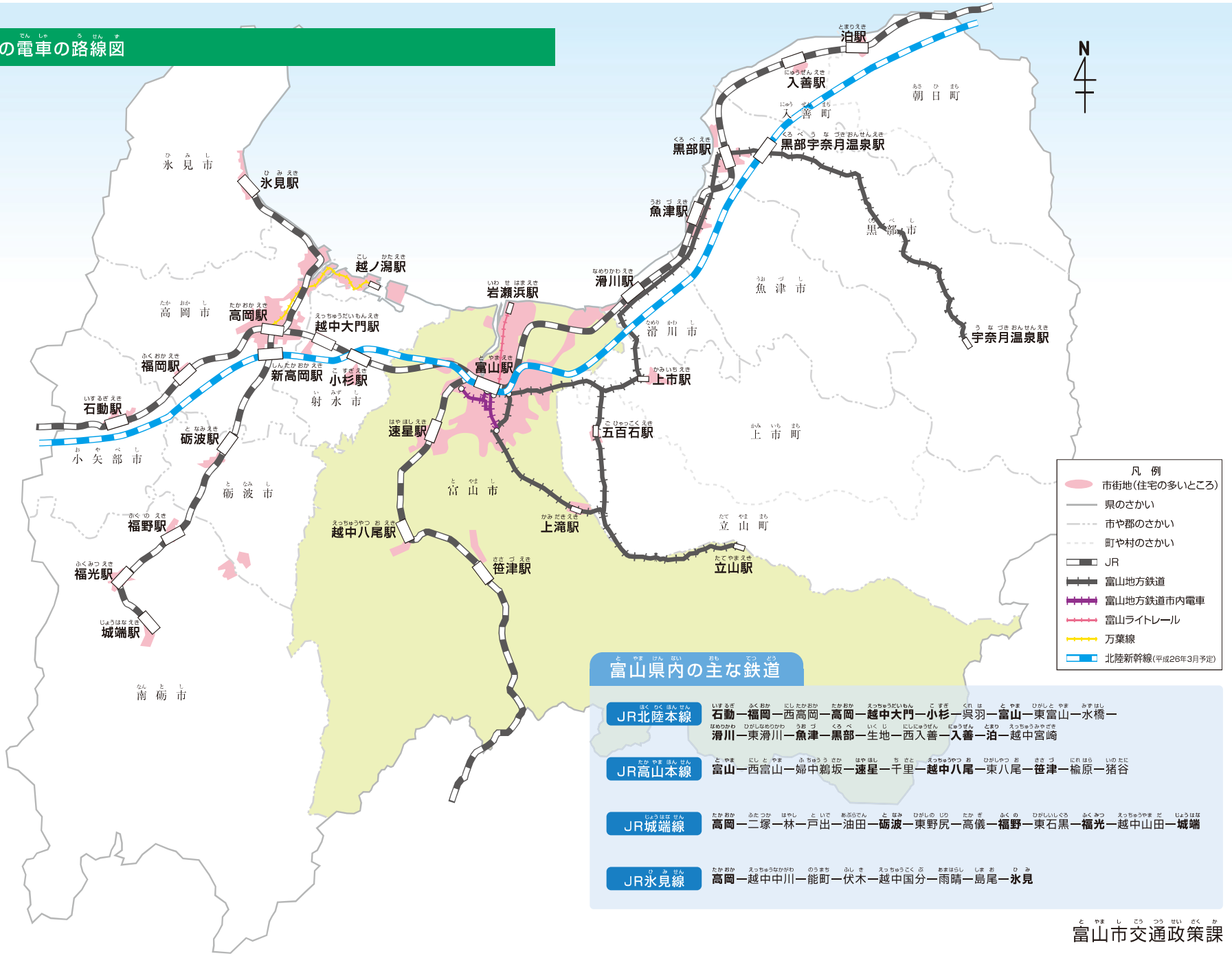
JR城端線
高岡―二塚―林―戸出―油田―砺波―東野尻―高儀―福野―東石黒―福光―越中山田―城端

JR氷見線
高岡―越中中川―能町―伏木―越中国分―雨晴―島尾―氷見

富山市交通政策課

教員用資料

富山県の電車の路線図



富山県内の主な鉄道

JR北陸本線
石動―福岡―西高岡―高岡―越中大門―小杉―呉羽―富山―東富山―水橋―滑川―東滑川―魚津―黒部―生地―西入善―入善―泊―越中宮崎

JR高山本線
富山―西富山―婦中鵜坂―速星―千里―越中八尾―東八尾―笹津―楡原―猪谷

JR城端線
高岡―二塚―林―戸出―油田―砺波―東野尻―高儀―福野―東石黒―福光―越中山田―城端

JR氷見線
高岡―越中中川―能町―伏木―越中国分―雨晴―島尾―氷見

富山市交通政策課

社会科

６年生

「富山市の新しいまちづくり」

学習プログラム

・指導案
・児童用パンフレット
・教員用資料

平成２６年３月
富山市

指導案

社会科６年生　富山市のりもの語り教育　学習プログラム

「富山市の新しいまちづくり　～まちを元気にするライトレール～」

○　学習のねらい

ライトレールを使った富山市の新しいまちづくりについて関心をもって調べる。

○　対象学年・教科

６年生　社会科「わたしたちの願いを実現する政治」

指導要領での位置づけ

内容の取り扱い

ウ　アの「地方公共団体や国の政治の働き」については、社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などの中から選択して取り上げ、具体的に調べられるようにする。

：

地域の開発を取り上げる場合、その事業について、計画から実施までの経過、規模や予算に着目し、その事業の実施に当たっては、市役所、県庁がそれぞれの地域の実態に応じて、住民の願いを取り入れながら、国と協力したり長期的な見通しを立てたりして、望ましい施策を決定し、実行していることを具体的に調べるようにする。

○　時間数

３時間

「公共交通を活用した富山市の新しいまちづくりについて調べよう」

新しい社会　６下　Ｐ２４～Ｐ２５　展開例

○　準備物

プロジェクター、スクリーン、実物投影機

○　授業概要

１時間目　ライトレールを活用した富山市の新しいまちづくりについて調べる。

２時間目　公共交通を活用した富山市の新しいまちづくりについて調べる。

３時間目　公共交通を活用した富山市の新しいまちづくりについて知る。

※　ライトレールの乗車体験をしたり、市役所出前講座を活用したりするのもよい。

■授業の展開例（１時間目）

（１） ねらい

ライトレールを活用した富山市の新しいまちづくりについて関心をもって調べることができる。

（２）授業の展開

時	学習活動	指導上の留意点
	ライトレールを活用した富山市の新しいまちづくりを調べよう １． ライトレールについて知る ２． 廃線の危機にあったことを知る。 なぜライトレールがつくられたのだろう？ ３．ライトレールがつくられた理由を話し合う。 ・ いつも通勤や通学に利用している人がいた。電車がなくなってしまうと、不便だから。 ・ お年寄りの場合は、運転できない人もいる。買い物や病院にも行けなくなったらとても困ると思う。 ライトレールはどのようにしてつくられたのだろう？ ４．ライトレールがどのようにしてつくられたかを知る。 ・ 富山港線を残してほしいという市民の願いを市や市議会に要望したのが始まり。 ・ 市や市議会は、市民の願いを受けて予算や計画を立てる。 ライトレールによってまちはどのように変化したのだろう？ ５．ライトレールによってまちがどのように変化したのかを知る。 ・ 通勤や通学に便利になったから、利用する人も増えた。 ・ お年寄りなどの車を運転できない人にとっても、利用しやすくなった。 ・ 観光施設が整備されて、観光客も増えた。	・ 資料Ａ４版（１枚目）を活用する。 ○ ライトレールが通っている場所を地図で確かめる。資料の右上の写真で、富山港線の写真も確認することができる。 ・ 教科書（見どころその１）を活用して確かめる。 ・ ライトレールの利用者数の変化のグラフを見て、利用する人が増えていることを確かめる。時間帯や利用している年代についても注目する。 その他の参考資料 ・ 富山港線とライトレールの比較写真

■授業の展開例（２時間目）

（１）ねらい

公共交通を活用した富山市の新しいまちづくりについて関心をもって調べる。

（２）展開

	学習活動	指導上の留意点
	1　資料を基に、富山市の新しいまちづくりについて予想する。 ・　丸の部分は、人がたくさん住んでいる所だと思う。 ・　丸の部分は、いろいろなお店が集まっている所だと思う。 ・　線の部分が、電車が走っている所だと思う。 ・　線の部分は、バスも走っているのではないかと思う。 公共交通を活用した富山市の新しいまちづくりについて調べよう 2　くしとだんごの意味を説明する。 3　どうして公共交通を活用したまちづくりを進めているのかを資料を使って調べる。	○　前時の学習を生かし、実際にライトレールが走っている場所を例に挙げて、くしとだんごの意味を説明してもよい。 ※　くし・・・だんごをつなげる公共交通（バスや電車） だんご・・・住む所、買い物をする所、働く所などが集まっている場所 **○くしとだんごの意味を確認する。** ・資料 A3 版（２枚目）を活用する。

■授業の展開例（３時間目）

（１）ねらい

公共交通を活用した富山市の新しいまちづくりについて知る。

（２）展開

	学習活動	指導上の留意点
	公共交通を活用した富山市の新しいまちづくりについて知ろう 1　どうして「くしとだんごのまちづくり」を進めているのか、調べて分かったことを話し合う。 ・　富山市には車を自由に使えない人もいる。車を自由に使えない人たちのために、公共交通を利用したまちづくりを進めているのだと思う。 ・　富山市の１世帯当たりの乗用車の保有台数が多い。自動車は排気ガスの排出量も多いので、環境にもよくない。二酸化炭素の増加は地球温暖化にもつながるから、環境のことも考えてまちづくりを進めているのだと思う。 ・　富山市の高齢者の割合はどんどん増えていっている。このように増えていくと、車を運転できない人の割合もどんどん増えていく。車を運転できないと、買い物に行ったり、病院に行ったりすることができない。どの人も便利に過ごすことのできるまちづくりを進めているのだと思う。 2　富山市の進めている「くしとだんごのまちづくり」について知る。	・　教科書（見どころその３）を見て確かめる。 ・　資料 A４版（３枚目）を活用する。

児童用パンフレット

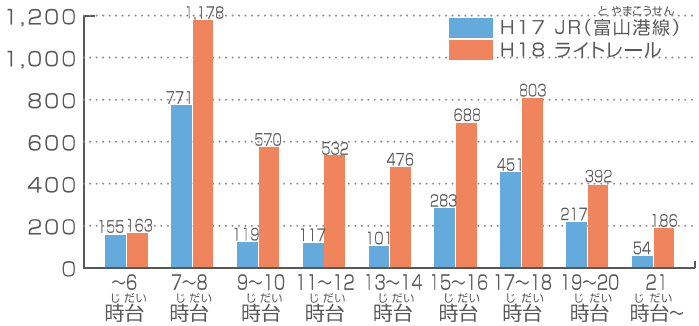
ライトレールを活用した富山市の新しいまちづくりについて調べよう

ライトレールが運行している場所

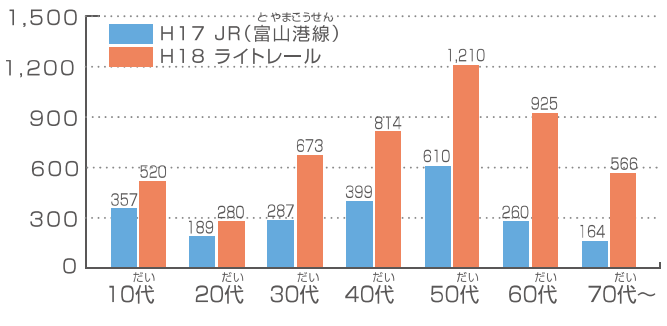
ライトレールの利用者数(平成24年3月末)

平日 月～金曜日 **4,815**人／日(開業前2,266人／日)　休日 土・日曜日、祝日 **3,717**人／日(開業前1,045人／日)

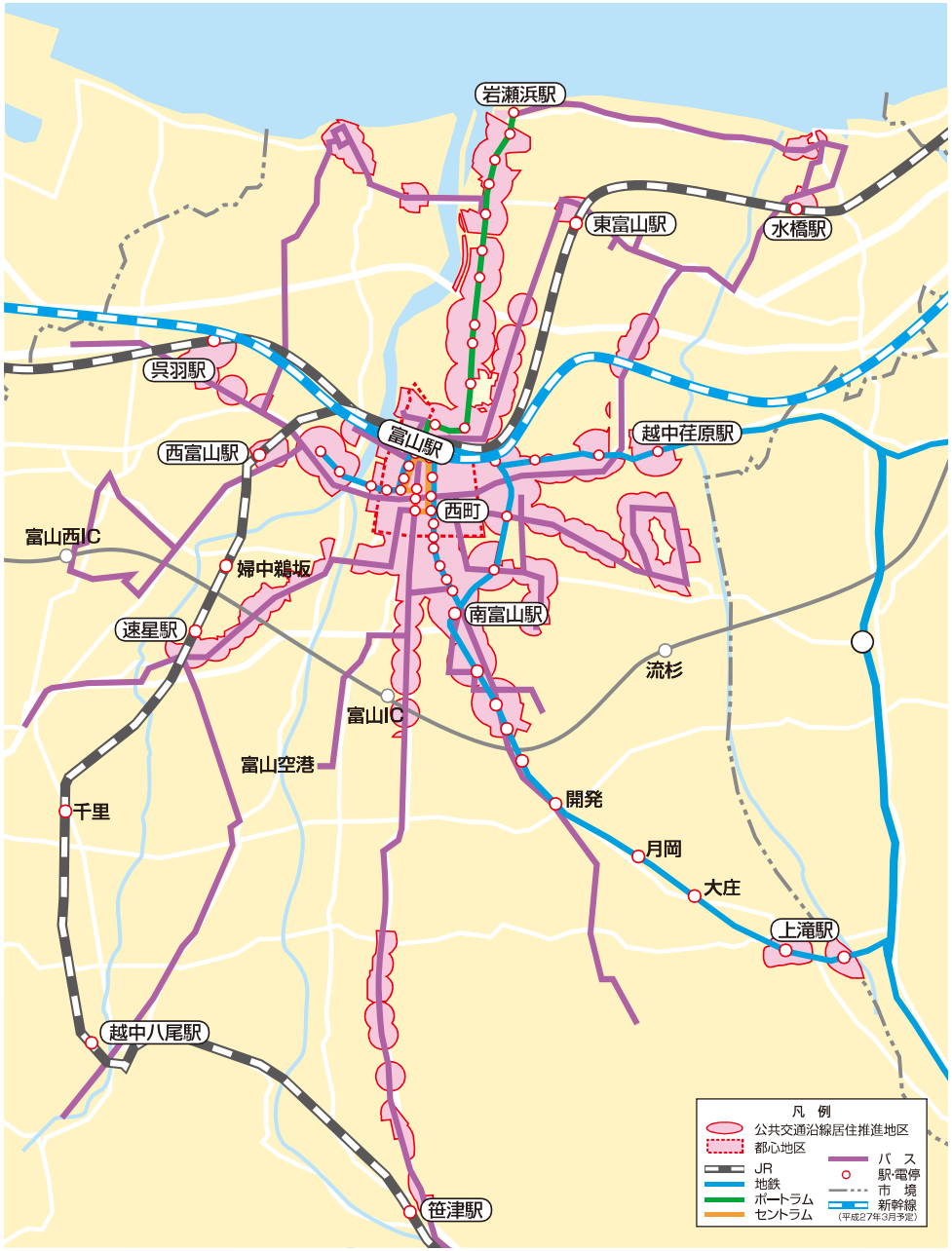
時間帯別利用者数の変化(平日)



年代別利用者数の変化(平日)



公共交通を活用した富山市の新しいまちづくりについて考えよう



世帯あたりの自家用車保有台数

1.72(台)
1世帯あたり

全国第2位 富山県

(自動車検査登録情報協会[平成23年3月末現在])

自家用車保有台数の増加

普通車は1.4倍に増加(全国平均1.2倍)

軽自動車は7.6倍に増加(全国平均6.4倍)

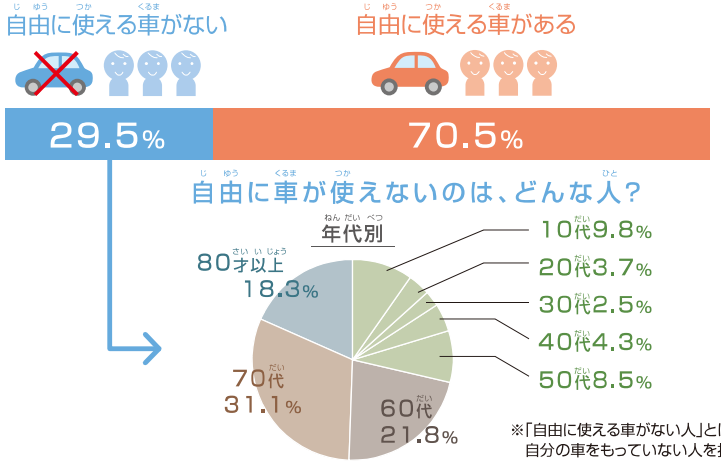
富山市の自動車保有台数の推移

	1990年	2010年
普通車	127,276台	174,954台
軽自動車	10,826台	82,570台

(出典:富山市統計書H23.国土交通白書H22)

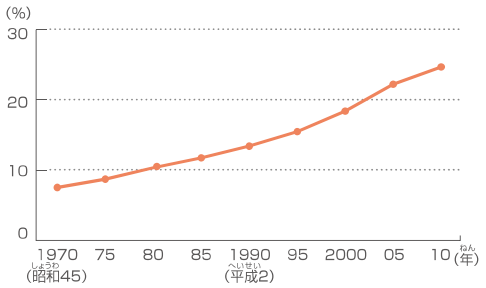
自由に車を使えない人

(出典:平成18年富山市の公共交通に関する意識調査)



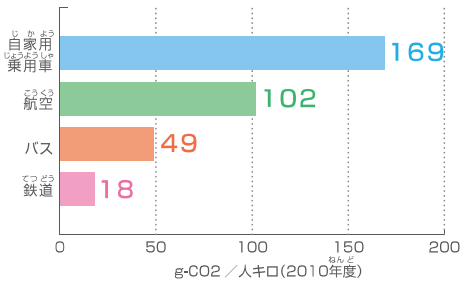
※「自由に使える車がない人」とは、運転免許証がない人や、自分の車をもっていない人を指します。

富山市の65才以上の人口の割合



(出典:東京書籍「新しい社会6下」「統計からみる富山市」)

1人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の量

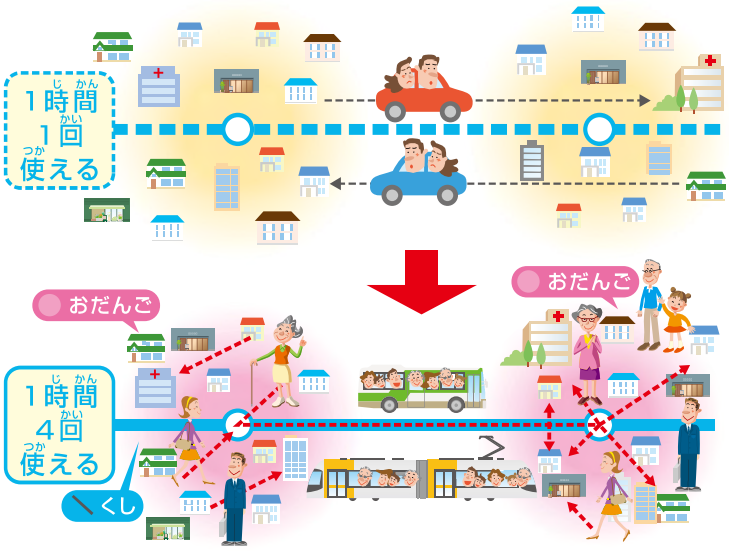


(出典:国土交通省HP)

富山市交通政策課

富山市の「くしとだんごのまちづくり」

富山市が目指しているまち

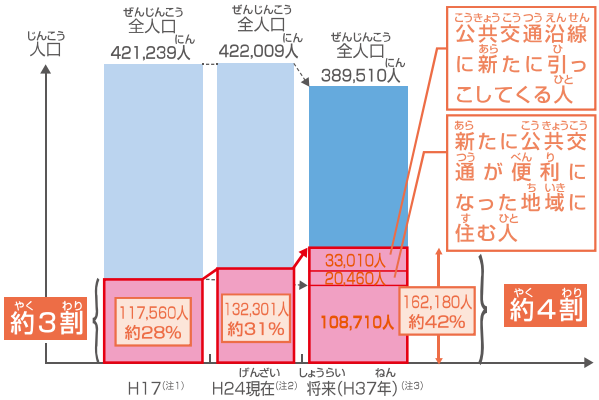


公共交通の便利な地域に住む人を増加

現在 約3割

公共交通を便利にする。
まちなかに住んでもらう。
など

将来 約4割



注1）国勢調査(H17)　注2）住民基本台帳人口等による調査　注3）富山市将来人口推計報告書(H17)

買い物や病院に行くのに電車があると生活しやすいね。車は運転できないけれど、いつでも気軽に出かけることができるよ。

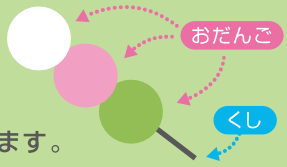
公共交通があると、富山市内や岩瀬方面への観光にも行きやすいね。また、富山に来たくなったよ。

毎日学校に通うのに電車を使っているけど、とても便利だよ。将来、公共交通も上手に使っていきたいな。

富山市交通政策課　東福光晴さんのお話

富山市は住む所や買い物をする所がいろいろな場所にちらばっているため、車がないと移動するのが不便です。そこで富山市では、家や店などが集中する場所（おだんご）を公共交通（くし）でつなぐ「くしとだんごのまちづくり」に取り組んでいます。ちらばったまちを集中した場所（おだんご）に変えて、公共交通を使う人を増やし、公共交通（くし）を使いやすくすることで、車を使わなくても移動できるようにしたいと考えています。

いくつもの**おだんご**が**くし**によってつながっています。



おだんご
住む所、買い物をする所、働く所などが集まっている場所

くし
おだんご同士をつなげる電車やバスなどの乗り物

富山市交通政策課

教員用資料

富山港線とライトレールを比較してみよう

	JR（富山港線）	ライトレール
電停		
車両		
運賃支払	運賃箱 切符券売機	カードリーダー パスカ販売・積み増し機
車内の様子		
乗降口		

時刻表

JR（富山港線）

富山駅発／平日　（平成16年1月）

時	分
6	00　19　52
7	30
8	01　34
9	58
10	
11	11
12	57
13	
14	04
15	08
16	14　38
17	16　54
18	26
19	11
20	08
21	23

（出典：「富山ライトレールの誕生」）

ライトレール

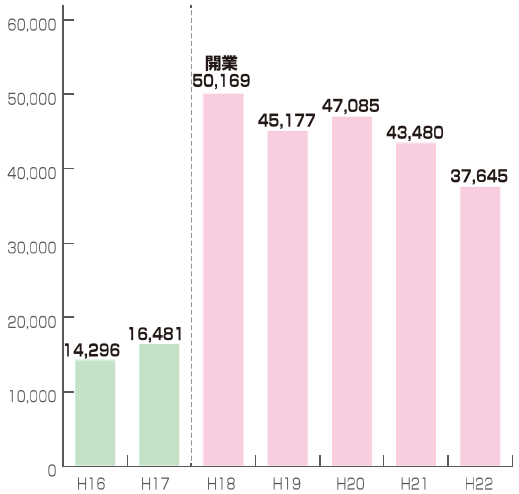
富山駅北発／平日

時	分
5	57
6	35　53
7	14　■24　35　■45　55
8	■05　15　■25　×35　■45　57
9	×■06　14　30　45
10	00　15　30　45
11	00　15　30　45
12	00　15　30　45
13	00　15　30　45
14	00　15　30　45
15	00　15　30　45
16	00　15　30　45
17	00　15　30　45
18	00　15　30　45
19	00　15　30　45
20	00　15　45
21	15　45
22	15　45
23	15

※×の列車は、越中中島止まりです。
※■は2番線発車です。　（出典：富山ライトレールHP）

ライトレール沿線のまちづくり

森家（岩瀬地区）の観覧者数の推移



■富山ライトレール蓮町駅の駐輪場

（出典：H22.富山港線路面電車化整備効果把握報告書）

総合的な学習の時間

３～４年生

「おでかけ定期券って何だろう？」

学習プログラム

- 指導案
- 児童用パンフレット
- ワークシート
- 教員用資料

平成２６年３月
富山市

指導案

「『おでかけ定期券』ってなんだろう？」

学習のねらい

市が発行している「おでかけ定期券」の目的を調べる活動を通して、バス交通がお年寄りにも使いやすく整備されていることに気付く。

学習の価値

子どもたちは、日常生活の中で、公共交通機関を利用して出かける経験はあまりない。そのため、地域の公共交通の働きや様々なサービスについて、そのよさを実感したり、考えたりしたことはほとんどない。そこで、この学習では、富山市が６５歳以上のお年寄り向けに発行している「おでかけ定期券」を取り上げ、そのサービスや目的について調べる。この活動を通して子どもたちは、富山市のバス交通がお年寄りにも使いやすく整備されているという福祉的な目的に気付くとともに、中心市街地に人が集まることで、交通機関や中心市街地がにぎわうという交通政策の考え方に触れることができる。

対象学年

小学校第４学年

教科・領域等

総合的な学習の時間

時間数

２時間

準備物

ワークシート、提示用資料スライド、プロジェクタ、スクリーン

授業概要

１時間目　おでかけ定期券について知る。
　　課題についてキッズパンフで調べ学習を行う。
２時間目　調べたことを紹介し合う。
　　課題について話し合い、おでかけ定期券についての理解を深める。

その他

以下のような授業展開も考えられます。

- １時間目と２時間目の間に、実際の乗車体験やバスの見学などの体験学習を入れる。
- ２時間目に、富山市交通政策課などからゲストティーチャーを迎え、「おでかけ定期券」の目的についての話を直接聞く。

授業の展開(1 時間目)

(1) ねらい

「おでかけ定期券」について知り、課題について「キッズパンフ」をもとに調べることで、バス交通がお年寄りにも使いやすく整備されていることに気付く。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
7分	1　おでかけ定期券の概要を知る。 ■発問（パンフのおでかけ定期券を示し）これは何ですか。 ・おでかけ定期券 ■発問　中に何が書いてありますか。 ・有効期限　　・発行　富山市　　・えこまいか　等 ■発問　おでかけ定期券ってどんな定期券なのでしょう。 ・65才以上が使う券だ。 ・１００円でいろんなところに行ける。 ・バスや電車などいろんな交通機関で使える。 ・使える時間が決まっている	・最初の２つの発問は、定期券や有効期限などの言葉の補足説明をする程度で軽く扱う。 ・パンフレットの１ページを読み、おでかけ定期券の概要を押さえる。 ・「高齢者だけ」「運賃が安い」ことなどについて、「なぜだろう」と投げかけ、学習課題につなげる。
30分	■学習課題　何のために「おでかけ定期券」があるのだろう 2　おでかけ定期券について調べる。 ■指示　何のために「おでかけ定期券」があるのか、パンフレットを使って、調べましょう。 ・パンフレットの2、3ページを読みながら、ワークシートの問題１～４までについて調べて記入する。 ・調べたことについて、答え合わせをしたり、考えを出し合ったりする。	・調べる活動は、パンフレットを見ながら一人学習で調べる、一斉指導を交えながらワークシートの問題を一つずつ確かめるなど、児童の実態に合わせて行う。 ・資料の見方を必要に応じて教える。（１%の意味、グラフの見方など） ・ワークシートの以下の点については、グループや全体で話し合い、課題に対する考えを深める。 1（3）出かけるときに車が使えない人 2（2）バスを使うと便利なところ 3（2）おでかけ定期券の便利なところ
8分	3　課題についての自分の考えをまとめる。 ■指示　ここまで調べたことを基に、何のために「おでかけ定期券」があるのか、自分の考えをワークシートに書きましょう。 ・たくさんの人にバスに乗ってもらったら、お金がもうかるから。 ・お年寄りが病院や中心市街地に車がなくても行けるようにするため。 ・自由に車を使えないお年寄りが、安いお金で中心市街地まで行くことができるために。 ・お年寄りを出かけやすくして、喜んでもらうため。 ・お年寄りが中心市街地に集まるようにして、町をにぎやかにするため　　等	・自分の考えがもてない子には高齢者の吹き出しを読ませて手がかりにさせる。 ・３の調べる学習に時間をかけたい場合は、この部分は次時の最初に行ってもよい。

授業の展開（２時間目）

(1) ねらい

「おでかけ定期券」の役割について調べたことをもとに話し合うことを通して、富山市の福祉や交通政策の考え方についての理解を深める。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
5分（10分）	1　本時のめあてを確かめる。 ■学習課題　何のために「おでかけ定期券」があるのだろう	・ワークシートの５に書いた内容を読み返して、自分の考えを確認させる。 ・前時、ワークシートの５を書かなかった場合は、ここで時間をとって書かせる。
25分（20分）	2　１時間目に各自が調べたことをもとに話し合う。 ■指示　何のために「おでかけ定期券」があるのでしょうか。自分の考えを発表しましょう。 【お金をもうけるため】 ・たくさんの人にバスに乗ってもらったら、お金がもうかるから。 【お年寄りのため】 ・お年寄りが病院や中心市街地に車がなくても行けるようにするため。 ・自由に車を使えないお年寄りが、安いお金で中心市街地まで行くことができるために。 ・お年寄りがどんどん中心市街地に出かけて行って、元気になってもらうため。 ・お年寄りを出かけやすくして、喜んでもらうため。 【町をよくするため】 ・お年寄りが元気になれば町も元気になるから ・お年寄りが中心市街地に集まるようにして、町をにぎやかにするため	・子どもたちの考えを次の観点で類型化して、板書する。 ①　利益増加の観点から 【お金をもうけるため】 ②　福祉の観点から 【お年寄りのため】 ③　街づくりの観点から 【町をよくするため】
7分	3　おでかけ定期券がＪＲやライトレールにも用途が広げられていることに気付く。 ■指示　パンフレットの後ろのページを見ましょう。説明を読みましょう。 ■説明　このように、おでかけ定期券は、バスだけでなく、富山ライトレールや路面電車、地鉄電車でも使うことができます。ますます便利ですね。 4　おでかけ定期券についての行政側のねらいを知る。 ■指示　富山市交通政策課東福さんの話を読みましょう。 ■説明　おでかけ定期券は、お年寄りに元気になってもらいたいということと、利用する人が多くなることで、どんどん町がにぎやかに、元気になるという2つのことを願って作られました。	・パンフレット４ページの資料から、バスだけではなく、様々な交通機関も利用できるようにして利便性を高めていることをおさえる。 ・富山市交通政策課からゲストティーチャーに来ていただき、直接お話を聞くことができれば、なおよい。
8分	5　おでかけ定期券についての感想をワークシートにまとめる。 ・おでかけ定期券がお年寄りのこと、町の未来のことを考えて作られていることがよく分かった。 ・家に帰ったら、おじいちゃんにすすめたい。 ・市街地だけじゃなくいろいろなところで使えたらいいな。	・ワークシートの「考えたこと」では、「おでかけ定期券のために自分にできること」「こうだったらもっと使いやすい」などの観点で書かせる。

児童用パンフレット

おでかけ定期券って何だろう？

「おでかけ定期券」は、富山市に住んでいる65さい以上の人たちが、市内のいろいろな場所から中心市街地に行くときに、100円でバスや電車に乗れる定期券です。

● 利用できる人

富山市内に住む65さい以上の人

● 利用できる交通機関

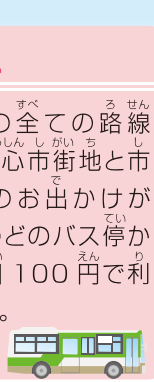
地鉄路線バス・地鉄電車・市内電車・富山ライトレール（ポートラム、フィーダーバス）・まいどはやバス

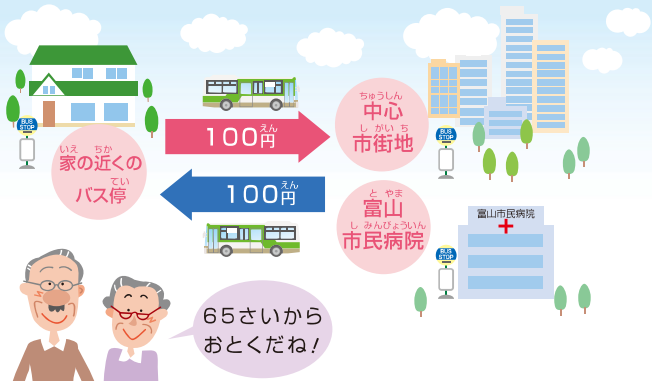
● 割引になる時間帯

9時～17時（おりる時間）

路線バス

富山市内の全ての路線バスで、中心市街地と市民病院へのお出かけが富山市内のどのバス停からでも１回100円で利用できます。





おでかけ定期券は、こんなところでも使えます。

富山ライトレール

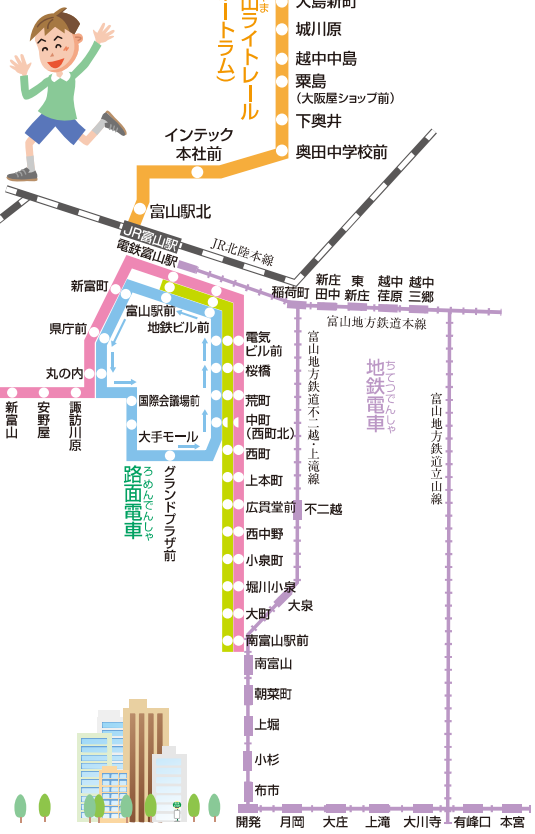
富山ライトレール（ポートラムとフィーダーバス）は、どの駅、バス停で乗りおりしても、1回それぞれ100円で利用できます。

路面電車

市内電車は、どの電停で乗りおりしても、1回100円で利用できます。

地鉄電車

富山地方鉄道本線、立山線、不二越・上滝線の市内にある駅と、電鉄富山駅、南富山駅の各区間を1回100円で利用できます。



富山市交通政策課　東福光晴さんのお話

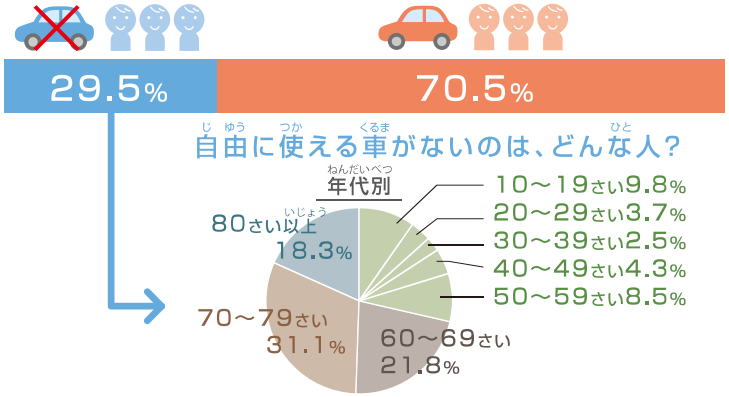
おでかけ定期券は、高れい者の方が自分で気軽に、行きたい所に出かけられることを助け、いつまでも元気でいてほしいと願って作られた券です。また、バスや電車に乗って、中心市街地に多くの人に来てもらうことで、交通機関や中心市街地がにぎわい、元気になります。

富山市交通政策課

何のために、おでかけ定期券があるの？

自由に使える車がない人は、どれくらいいるの？

出典：平成18年富山市の公共交通に関する意識調査

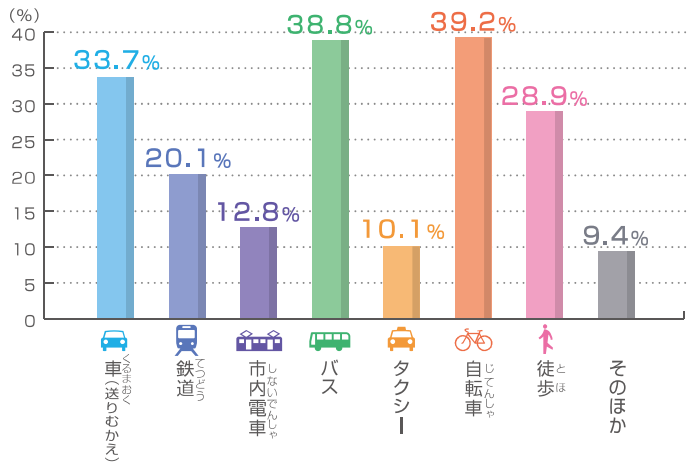


※「自由に使える車がない人」とは、運転免許証がない人や、自分の車をもっていない人を指します。
※1%（ぱーせんと）は、1を100に分けたうちの1つ分。人が100人いたら、そのうちの1人が1%になります。

自由に使える車がない人は、どうやって出かけるの？

出典：平成18年富山市の公共交通に関する意識調査

月～金曜日



「おでかけ定期券」を使って、どこまでお出かけできるの？

富山市内のバス路線
中心市街地　●おもなバス停

「おでかけ定期券」を使っている人は、どう思っているの？

わしの家は、中心市街地から遠いんだけど、中心市街地まで100円で行けて大助かりや。

バスや電車などいろいろな交通機関で使えるから、出かけたいと思ったときに、気軽に行けて便利だわ。

「おでかけ定期券」を持つようになってから、出かける回数がふえて、楽しみがふえたわ。そしたら、元気が出てきて、家族に「わかくなった」って言われるのよ。

ワークシート

月　　日（　　）　　名前（　　）

何のために「お出かけ定期券」があるのだろう

■　パンフレットで調べて、考えましょう。

１　「自由に車を使えない人は、どれくらいいるの？」で調べましょう。

（１）　自由に使える車がない人は、何パーセントくらいいますか。

□パーセント

（２）　自由に車が使えない人は、何さいくらいの人たちで、何パーセントくらいいますか。

１い（　　）□パーセント

２い（　　）□パーセント

３い（　　）□パーセント

（３）　（１）（２）のことから、出かけるときに車が使えないのは、どんな人たちですか。

（　　）

２　「自由に車を使えない人は、どうやって出かけるの？」で調べましょう。

（１）バスで出かける人は、何パーセントくらいいて、それは全体の何いですか。

□パーセント　（　　）い

（２）　車が使えない人が出かけるのにバスを使うと、どんなところがべんりだと思いますか。

（　　）

３　「『おでかけ定期券』を使って、どこまでお出かけできるの？」で調べましょう。

（１）　おでかけ定期券があると、１００円で、どんなところに出かけることができますか。

（　　）

（２）　おでかけ定期券で、（１）のようなところに出かけることができると、どんなところがべんりだと思いますか。

（　　）

４　「おでかけ定期券を使っている人はどう思っているの？」で調べましょう。

（１）　おでかけ定期券を使っている人はどう思っているか、まとめましょう。

①　１００円で、（　　）まで行けて、べんり。

②　（　　）と思ったときに、
（　　）べんり。

③　出かける回数がふえて、（　　）。

５　ここまで調べてみて、何のためにお出かけ定期券があると思いましたか？自分の考えとそう考えたわけを書きましょう。

○　何のために、

（　　）

○　わけ

（　　）

「お出かけ定期券」ってなんだろう？　　学習プリント３

月　　日（　　）　　名前（　　）

■　今日の学習で、分かったことや、考えたことを書きましょう。

【分かったこと】

【考えたこと】

お出かけ定期券のために自分にできることや、お出かけ定期券がこうだったらもっと使いやすいのになあと思うことなどを書きましょう。

教員用資料

月　　日（　　）　　名前（　　）

何のために「お出かけ定期券」があるのだろう

■　パンフレットで調べて、考えましょう。

１　「自由に車を使えない人は、どれくらいいるの？」で調べましょう。

（１）　自由に使える車がない人は、何パーセントくらいいますか。

２９．５ パーセント　※１％の意味を分かりやすく説明する。（パンフレットの説明参照）

（２）　自由に車が使えない人は、何さいくらいの人たちで、何パーセントくらいいますか。

１い	７０～７９さい	３１．１	パーセント
２い	６０～６９さい	２１．８	パーセント
３い	８０さい以上	１８．３	パーセント

（３）　（１）（２）のことから、出かけるときに車が使えないのは、どんな人たちですか。

６０さい以上のお年寄り
※お出かけ定期券の使用者と年齢層が一致していることを確認する。

２　「自由に車を使えない人は、どうやって出かけるの？」で調べましょう。

（１）バスで出かける人は、何パーセントくらいいて、それは全体の何いですか。

３８．８ パーセント　（ ２ ）い

（２）　車が使えない人が出かけるのにバスを使うと、どんなところがべんりだと思いますか。

・自転車だと疲れるけれど、バスだと楽に行きたいところにいける。
・たった 100 円でいろんなところに出かけることができる。
・送り迎えだと送ってくれる人の都合が悪いと行けなくなってしまう。

※バス以外の交通機関を使う場合と比較して、バスの便利な点を考えさせる。

３　「『おでかけ定期券』を使って、どこまでお出かけできるの？」で調べましょう。

（１）　おでかけ定期券があると、１００円で、どんなところに出かけることができますか。　※おでかけ定期券が使えるのは、中心市街地と結ばれているバス停から乗るバスであることを確認する。（パンフレット１ページ参照）

・中心市街地
・市民病院、市役所、富山駅　など中心市街地にある建物や地名など、地図から読み取ることができる場所が書いてあればよい。

（２）　おでかけ定期券で、（１）のようなところに出かけることができると、どんなところがべんりだと思いますか。

・中心市街地にはいろいろな店があるので、いろんな物が買えて便利。
・お年寄りは病院に通うことが多いので、病院のすぐ近くまでバスで行けると便利
など、高齢者にとって便利な点について考えさせる。

４　「おでかけ定期券を使っている人はどう思っているの？」で調べましょう。

（１）　おでかけ定期券を使っている人はどう思っているか、まとめましょう。

①　１００円で、（中心市街地）まで行けて、べんり。

②　（出かけたい）と思ったときに、
（気軽に行けて）べんり。

③　出かける回数がふえて、（楽しみが増えた。元気が出てきた。）。

５　ここまで調べてみて、何のためにお出かけ定期券があると思いましたか？自分の考えとそう考えたわけを書きましょう。

○　何のために、　※ワークシートで調べて分かったことと結びつけて、おでかけ定期券の目的を考えさせる。

・お年寄りが病院や中心市街地に車がなくても行けるようにするため。
・自由に車を使えないお年寄りが、安いお金で中心市街地まで行くことができるために。
・お年寄りを出かけやすくして、喜んでもらうため。
・お年寄りが中心市街地に集まるようにして、町をにぎやかにするため　　など

○　わけ

・自由に車を使えない人は、バスで出かける人が多いから、お出かけ定期券を使えば、車がなくても病院や中心市街地に行けると思う。
・普通にバスに乗ったら、もっと料金が高いけど、お出かけ定期券だったら 100 円で行くことができるから。
・お出かけ定期券を持つようになって、出かける回数が増えたら、元気になってうれしい。

「お出かけ定期券」ってなんだろう？　　学習プリント３

月　　日（　　）　　名前（　　）

■　今日の学習で、分かったことや、考えたことを書きましょう。

【分かったこと】

※　お出かけ定期券の目的について、自分なりの言葉で書いてあればよい。

（例）

・　お出かけ定期券は、お年寄りが元気になるためにある。

・　お出かけ定期券と使うと、中心市街地がにぎやかになり、町が元気になる。

【考えたこと】

お出かけ定期券のために自分にできることや、お出かけ定期券がこうだったらもっと使いやすいのになあと思うことなどを書きましょう。

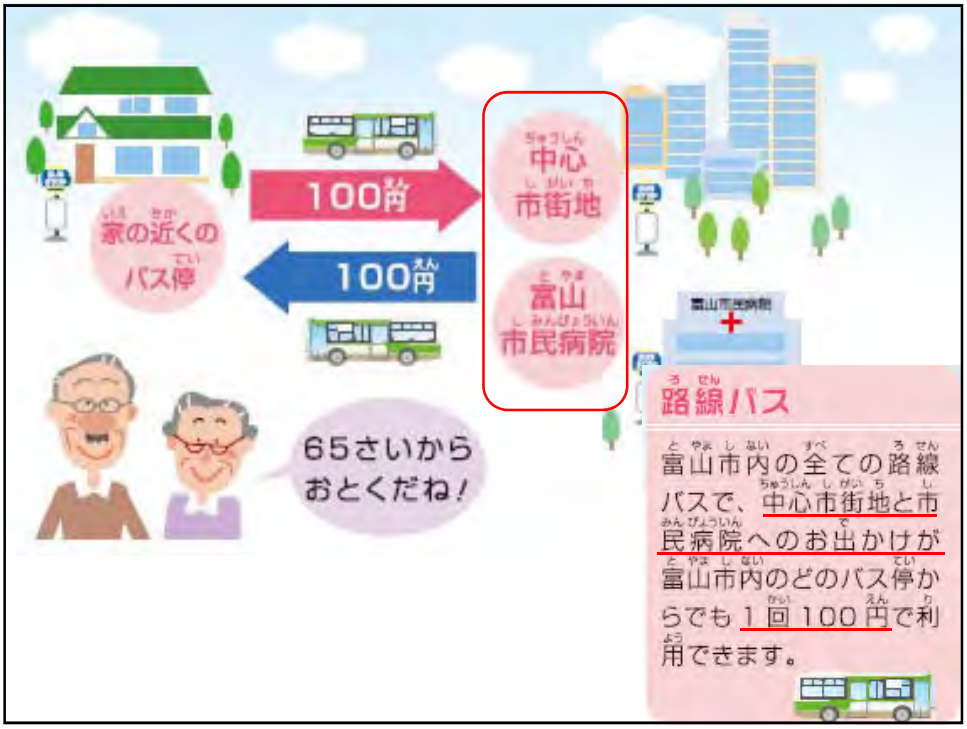
・　家に帰ったら、おじいちゃんが持っているか聞いてみる。もし、持っていなかったら、おじいちゃんにすすめたい。

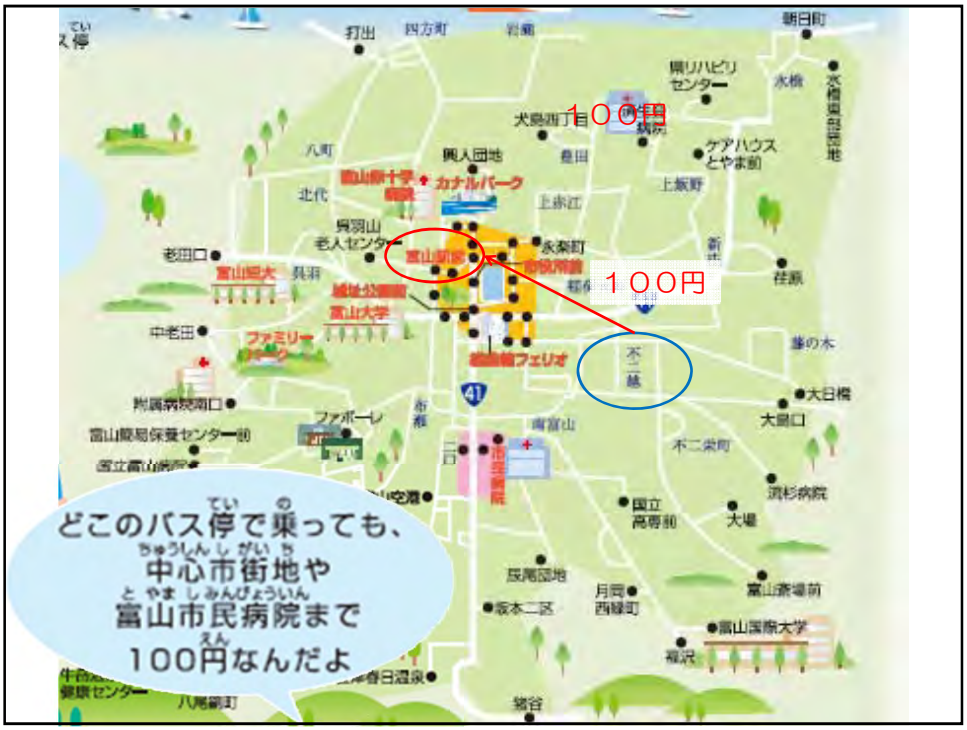
・　中心市街地だけじゃなく、もっといろいろなところで使えたら、市民病院以外の病院や、ファボーレにも行けるから、便利になるんじゃないかな。

「おでかけ定期券」ってなんだろう？

「おでかけ定期券」って

- 富山市内に住む６５さい以上の人が
- ９～１７時の時間帯で
- 富山市内のいろいろな交通機関で使える券





路線バスの「おでかけ定期券」

- 富山市内に住む６５さい以上の人が
- ９～１７時の時間帯で
- 中心市街地まで１回１００円で
  使える券

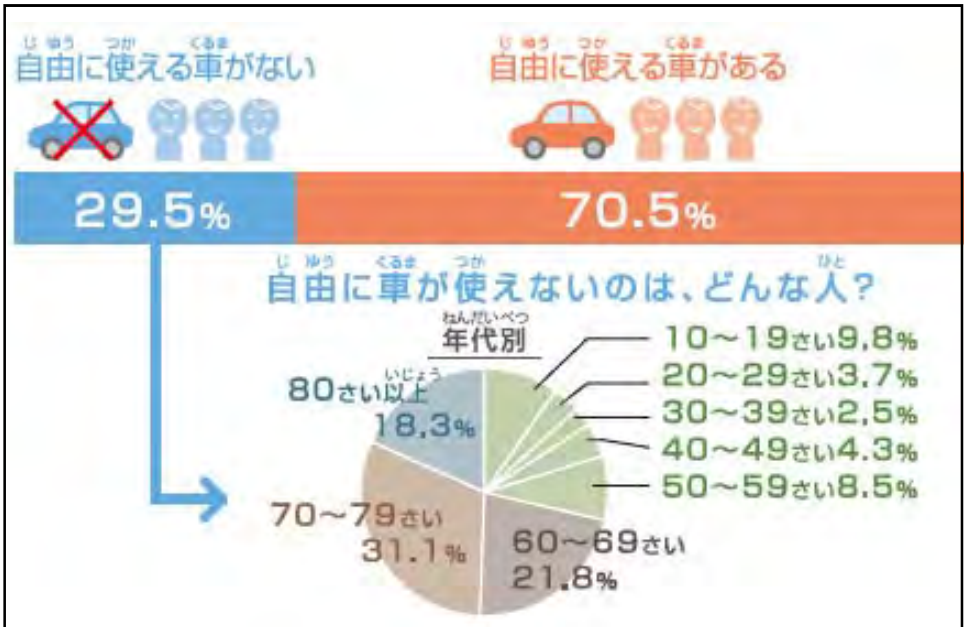
路線バスの「おでかけ定期券」

- 富山市内に住む６５さい以上の人が
- ９～１７時の時間帯で
- 中心市街地まで１回１００円で使える券

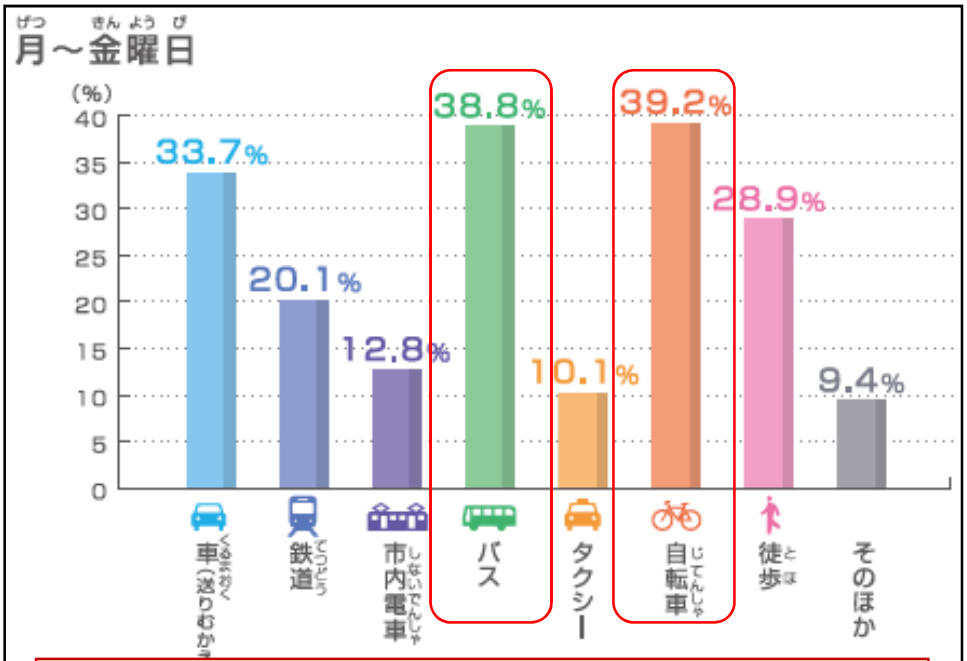
何のために「おでかけ定期券」があるのだろう？

何のために「おでかけ定期券」があるのだろう？

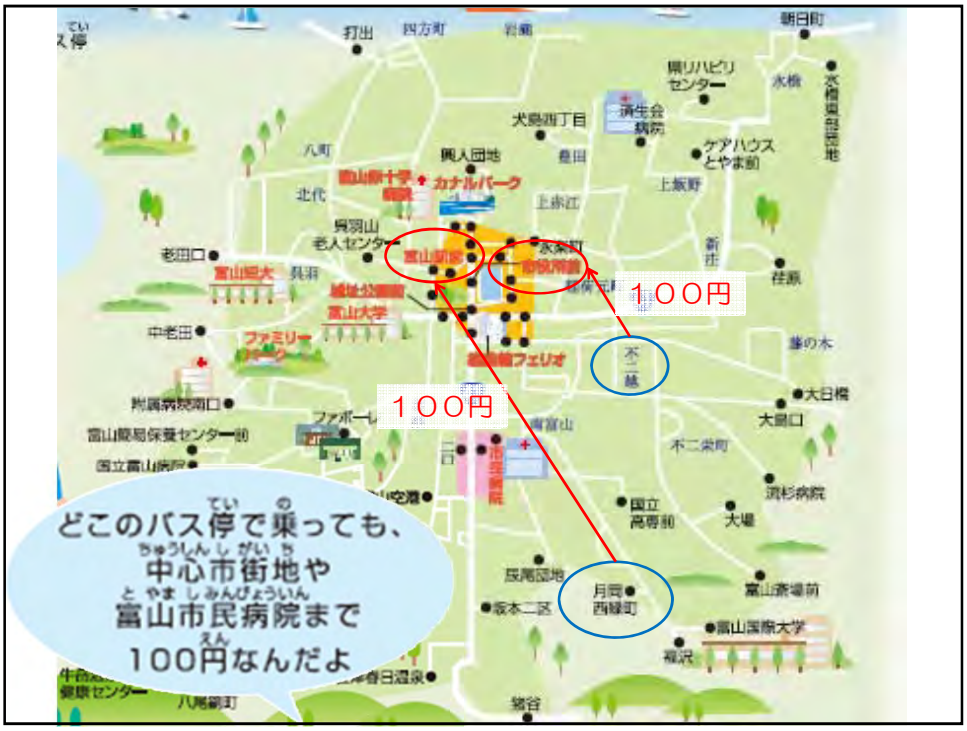
- パンフレットで、調べましょう。
  - パンフレットの2、3ページを読みながら、
  - ワークシートの問題１～４までを書きましょう。



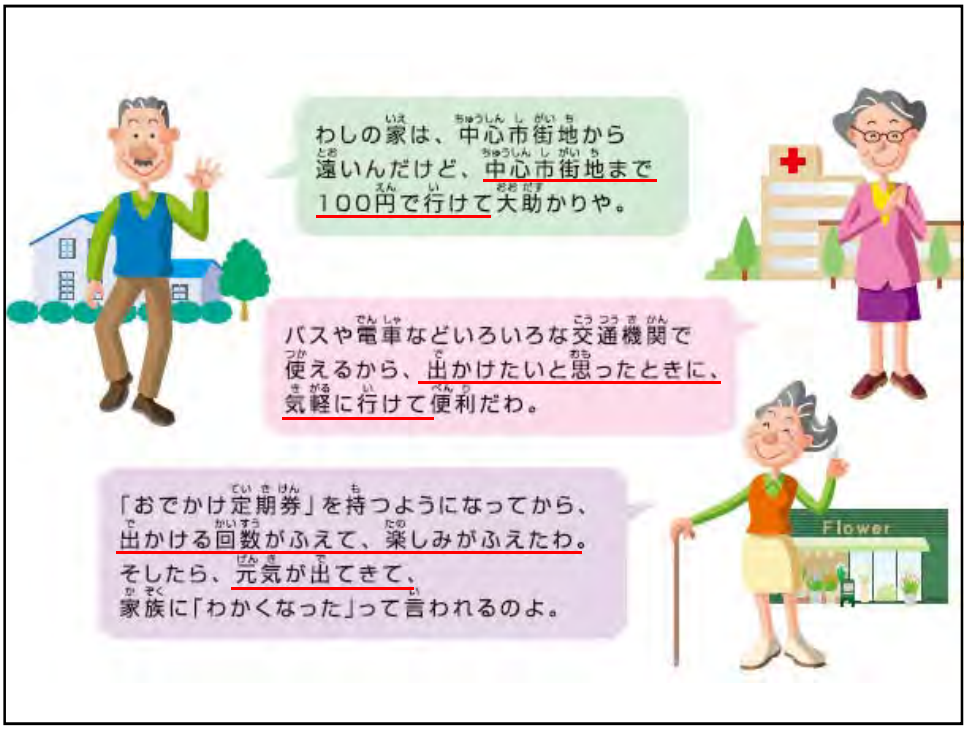
自由に車が使えないのは、６０さい以上のお年より



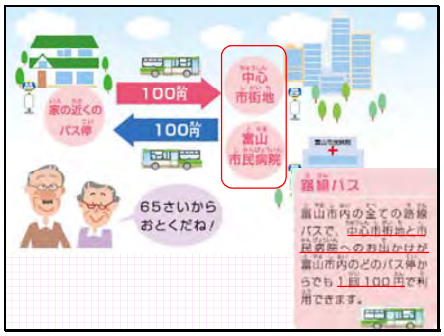
自由に車を使えない人が、出かけるのにバスを使うと、どんなところがべんりでしょうか。

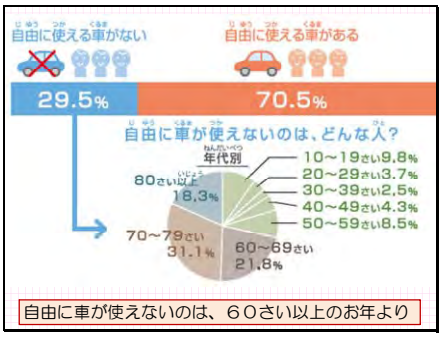


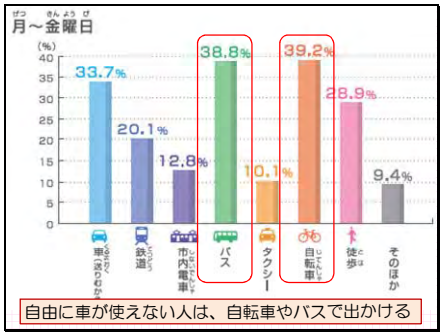
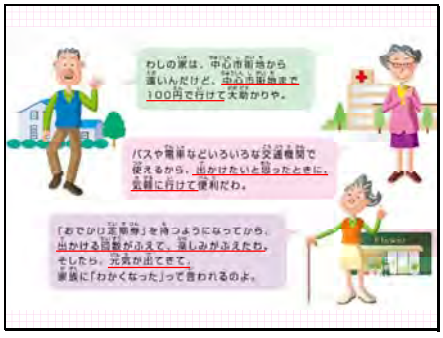
おでかけ定期券で、中心市街地や市民病院に行けると、どんなところがべんりでしょうか。



何のために「おでかけ定期券」があるのだろう？

スライド1	「おでかけ定期券」ってなんだろう？	
スライド2		これは、なんですか。 中に、何が書いてありますか。 パンフレットの表紙を見てください。 おでかけ定期券ってどんな定期券でしょうか。 だれが使える券でしょう。 いつ、使えますか。 どんな交通機関で使えますか。
スライド3	「おでかけ定期券」って 富山市内に住む６５さい以上の人が ９～１７時の時間帯で 富山市内のいろいろな交通機関で使える券 	「おでかけ定期券」って、富山市内に住む６５歳以上の人が、９時から１７時の時間帯で、富山市内のいろいろな交通機関で使える券なのですね。 では、いろいろな交通機関の中でも、路線バスでは、どのように使えるのでしょうか。
スライド4		パンフレットの表紙、下の部分を見てください。 おでかけ定期券を路線バスで利用する場合、富山市の中心市街地と市民病院へのお出かけが、富山市内のどのバス停からでも１回１００円で利用できます。 詳しい地図がパンフレットの中のページにあります。見てください。
スライド5		つまり、富山市内に住んでいる人ならば、家の近くのバス停から市民病院や、中心市街地まで１回１００円で行けるということです。 富山市内のバス代は、近いところでも１７０円、遠くになると１０００円を越えるところもありますから、お得ですよね。

スライド6	路線バスの「おでかけ定期券」 ・富山市内に住む６５さい以上の人が ・９～１７時の時間帯で ・中心市街地まで１回１００円で 使える券 	路線バスの「おでかけ定期券」は、 ６５歳以上の人が、９～１７時の時間帯で、富山市内のどのバス停からでも中心市街地まで１回１００円で使える券 ということになります。
スライド7	路線バスの「おでかけ定期券」 ・富山市内に住む６５さい以上の人が ・９～１７時の時間帯で ・中心市街地まで１回１００円で 使える券 	ところで、どうして、６５歳以上の人だけなんでしょうか。どうして、１回１００円なんでしょうか。 ということで、この学習では、
スライド8	何のために「おでかけ定期券」があるのだろう？ 	何のために「おでかけ定期券」があるのだろうということを、みんなで考えたいと思います。 （学習課題を提示）
スライド9	何のために「おでかけ定期券」があるのだろう？ ・パンフレットで、調べましょう。 – パンフレットの2、3ページを読みながら、 – ワークシートの問題１～４までを書きましょう。	では、この課題について考えるために、まず、パンフレットを使って、調べましょう。（ワークシート配付） パンフレットの２，３ページを読みながら、ワークシートの問題１から４までを書きましょう。 （調べる時間、１０～１５分程度）
スライド10		では、調べたことを確かめていきましょう。ワークシートの問題１番を見ましょう。 自由に使える車がない人は、何パーセントいましたか。 自由に使える車がない人は何歳くらいの人たちで何パーセントいましたか。 一位は？二位は？三位は？ 出かけるときに自由に車が使えないのは、どんな人たちだといえるでしょうか。（板書） おでかけ定期券が使えるのは、何歳の人たちでしたか？

スライド11		ワークシートの２番を見ましょう。 自由に車を使えない人は、主にどうやって、出かけていましたか？ バスで出かける人は何％かな。それは全体で何位ですか？
スライド12	自由に車を使えない人が、出かけるのにバスを使うと、どんなところがべんりでしょうか。	では、自由に車を使えない人が、出かけるのにバスを使うと、どんなところがべんりでしょうか。 グループで話し合ってみましょう。 どんな意見が出ましたか？（板書）
スライド13		ワークシートの３番を見ましょう。 「おでかけ定期券」があると、１００円で、どんなところに出かけることができましたか。 富山市の中心市街地や市民病院まで１００円で行けるのでしたよね。 「中心市街地」って分かるかな？中心市街地にはどんなものがありますか。 （富山駅、デパート、大きな会社など、中心市街地の様子について押さえる）
スライド14	おでかけ定期券で、中心市街地や市民病院に行けると、どんなところがべんりでしょうか。	では、おでかけ定期券で、中心市街地や市民病院に行けると、どんなところが便利でしょうか。 グループで話し合いましょう。どんな意見が出ましたか？（板書）
スライド15		最後のところには、「おでかけ定期券」を使っている人の感想がのっていますね。 ○○さん、読んでください。（指名読み） おでかけ定期券を持っている人は、こんな風に思っているのですね。

スライド16	何のために 「おでかけ定期券」が あるのだろう？ 	では、ここまで「おでかけ定期券」について分かってきたところで、 何のために「おでかけ定期券」があるのか考えてみたいと思います。 ワークシートの５に、自分の考えと、そう考えたわけを書きましょう。 次の時間は、ワークシートに書いたことをもとに、何のためにおでかけ定期券があるのか、みんなで話し合いましょう。

板書例（１時間目）

何のために「お出かけ定期券」があるのだろう？

定期券写真

お出かけ定期券

65 歳以上
１００円　バスや電車
９時から１７時

スクリーン

自由に使える車がない人・・・２９．５％

そのほとんどが 60 歳以上のお年寄り

自転車やバスを使う人が多い！　38.8%　第２位

・楽に町まで行ける。
・遠くまで行ける。
・行きたい時に行ける。

おでかけ定期券で中心市街地や病院に行く

・いろんな物が買える。
・１００円で行ける。
・いろいろな食べ物やにも
　行ける。

板書例（２時間目）

「おでかけ定期券」はお年寄りにとってどんないいことがあるのだろうか

自由に使える車がない人

71．2%
60 歳以上の
お年寄り

バス　第２位

100 円

中心市街地

バスで出かけることのよさ

安いお金で出かけられる

自由に中心市街地に出られる

いつでも出かけることができる

出かける時に疲れない

出かける場所のよさ

病気になったらすぐ病院に行ける

フェリオに必要な時に買い物に行ける

駅前に行けばいろんな用事が
一度にすむ

お年寄りの気持ち

安心して生活できる

楽しく生活できる　気持ちが若返る

家族と一緒に出かけて思い出ができる

よりよい町を作る

うれしい

お年寄りが元気
→町が元気

お年寄りが出かける
→町がにぎやか

お出かけ定期券はお年寄りが気軽に出かけることを助け、いつまでも元気でいて欲しいと願って作られた。また、町に多くの人にきてもらい、元気な町づくりをめざしている。

総合的な学習の時間

５～６年生

「環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう！」

学習プログラム

- 指導案
- 児童用パンフレット
- ワークシート
- 教員用資料

平成２６年３月
富山市

指導案

「環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう！」

学習のねらい

交通機関の環境に与える影響を考え、自分たちの交通機関の使い方と、富山市が進めている環境にやさしいまちづくりとを関連させながら、これからの交通機関の利用についての気付きを深めることができる。

学習の価値

地球温暖化について見聞きはしていても、自分たちとの生活との関連を知っている子はあまりいません。ここでは、まず地球温暖化と自分たちの生活との関連性を学びます。

車をかしこく使うことは、温室効果ガスの排出の削減に大きく作用します。しかし、電気や水道の節約など、子どもが自分でもできるエコ活動と比べ、生活圏が郊外に大きく広がっている富山市では、家族の協力が不可欠です。家族への意識調査の結果と、富山市の環境にやさしいまちづくりの一環としての公共交通機関の整備政策の概要を関連付けて学ぶことで、環境にやさしい交通機関の使い方を考える契機とします。

対象学年

小学校第５学年

教科・領域等

総合的な学習の時間

時間数

２時間

準備物

「家庭でできること」アンケート　キッズパンフ提示用資料スライド、プロジェクタ、スクリーン

授業概要

１時間目　CO2 の排出が環境へ与える影響を知り、家庭での車のＣO2 を減らすためにできることを調べようとする意欲をもつ。

（課外）　課題についてアンケート調査を行う。

２時間目　調査結果をもとに自分たちの交通の利用方法についての課題をとらえ、今後の自分ができることについて考える。

富山市の環境にやさしい交通政策についての理解を深める。

その他

以下のような授業展開も考えられます。

- ２時間目に、富山市交通政策課などからゲストティーチャーを迎え、環境にやさしいまちづくりについての話を直接聞く。
- 学校で実施している総合の環境単元との関連をはかるとよいです。

総合的な学習の時間５～６年生　富山市のりもの語り教育　学習プログラム

授業の展開（１時間目）

(1)　ねらい

・　資料をもとに地球温暖化が自分たちの生活にも関係していることを理解し、自分たちにできることは何か考えようとすることができる。

・　車から出るＣＯ２を減らすために、家族へ協力してもらえる方法を考え、調べる意欲をもつ。

(2)　本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
２５分	１　「地球温暖化」と自分たちの生活との関連を知る。 ■発問　「地球温暖化」という言葉を知っていますか？ ・地球が暖かくなって氷が解け、地球の環境にいろいろな悪影響が出る。 ２　富山市でも地球温暖化がもたらしたと考えられる現象があることを確かめる。 ・僕たちの身近なところでも影響が出ているんだな。 ■説明　地球温暖化を引き起こす原因は、温室効果ガスの増大がその1つとして考えられていて、その代表的なものにＣＯ2があります。 ３　富山市全体が出しているＣＯ2，各家庭が出しているＣＯ２について調べる。 ■発問　富山市と、各家庭が出しているＣＯ２は１５年間でどのようになっていますか？資料をもとに調べましょう。 ・富山市全体で15年間に５５万ｔも増えている。 ・家庭からも（約30万ｔ）増加し、割合も増えている。 ■発問　家庭での排出量の内訳はどうなっていますか？ ・やはり照明器具や家電の割合が高いんだね。 ・車の排出も全体の四分の一を占めているんだな。 ４　車の利用を減らすことが、ＣＯ2の排出にどのようにつながるかを調べる。 ・１日１０分を１年間続けると、冷蔵庫の温度を1℃調整するよりもおよそ8倍ものＣＯ２を減らすことができるんだな。	・提示資料用スライド、キッズパンフ、ワークシート ・子どもたちの既有の知識を確かめ、地球温暖化が環境に与える影響を、提示用スライド、キッズパンフをもとに説明して補う。 ・地球温暖化が自分達のくらしにも影響を及ぼしていることを確かめ、ＣＯ２の排出量に注目していくことを伝える。 ・富山市全体や家庭からのＣＯ2 排出量の増加の実態から、自分たちにもできるエコ活動について意識が向くようにする。 ・これまで行ってきたエコ活動（照明・家電の使用節約）の経験を掘り起こしながら、自家用車の利用でもエコ活動ができないかという視点をもたせる。
１５分	■学習課題　車のＣＯ２を減らすために、家庭でできることは何だろう。 ５　車から出るＣＯ２を減らすために家庭でできそうなことを考える。 ■発問　車から出るＣＯ2を減らすために家庭で私たちができることは何でしょう？ ・近いお出かけ先はなるべく車に乗らないようにする。 ・仕事に行くときもバスや電車などを使う。 ・エコカーに買い替えていくように家の人に勧める。 ６　５で出た考えを参考に、家庭にも協力してもらえそうなことをできるだけたくさん考え、ワークシートに書き込む。	・提示資料プレゼン示しながら、どこにどんなことを書きこむかを確かめる。 ・自分たちが車に乗る機会を減らす方法を考えると予想されるが、運転するのは大人であることが多いことから、家族の協力を得ることも、「できること」につながることを示唆する。 ・できるだけ多くの方法を考えるためのアイディアをグループで考え、各自のワークシートに書き込ませる。
５分	７　次の時間までに、ワークシートに書き込んだ内容について実現可能なことを取材してくることを告げる。 ■指示　次時では、調査結果をもとに環境にやさしい車の使い方を考えていきましょう。	

※ 教師は１，２時間目の間に、児童のアンケート結果の内容を把握しておく。

授業の展開（２時間目）

（1） ねらい

・　調査結果をもとに自分たちの交通の利用方法についての課題をとらえ、今後の自分ができることについて考える。

・　富山市の環境にやさしい交通政策についての理解を深める。

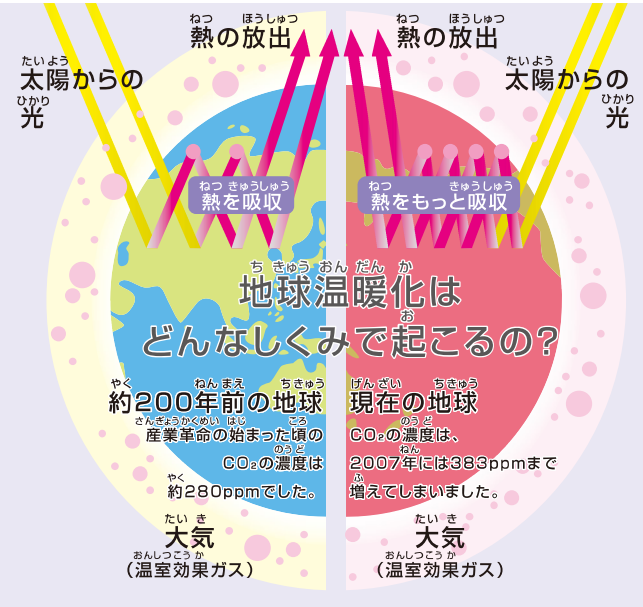
（2）本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
２５分	１　各自が「車のＣＯ2排出を減らすためのアンケート」で調べてきたことを報告する。 ２　アンケート結果からわかることを話し合う。 ■発問　このアンケート結果からわかることは何ですか？ ・　我が家では、すぐそばのコンビニにも車で出かけることがあるから、もっと減らせそうだ。 ・　我が家の場合、仕事先が遠いから車しか利用できないそうだ。 ・　やはり自分たちが住んでいる校下は、車がないと不便なのかな。 ・　公共交通機関を使えば、ある程度車を使わずにすむけれど、やはり面倒だし不便だ。	・アンケートの結果がとらえやすいように、学級の規模に応じて、板書や掲示方法を工夫するとよい。（アンケート用紙をそのまま拡大印刷した掲示物に、教師が把握した結果を書き込む。子どもたちに結果を記号で書き込ませて分布が分かるようにする。など） ・結果を分類しながら、「できないこと」やその理由に注目させ、車に依存している生活への気付きを深めさせる。
１５分	３　環境にやさしいまちづくりに取り組んでいる富山市の取り組みを知る。 ■発問　交通機関が排出するＣＯ2の量を比べましょう。 ・　やはり車のＣＯ2排出量は、他の交通機関に比べて圧倒的に多いんだな。 ■　説明　私たちの住む富山市では、環境にやさしいまちづくりにどのように取り組んでいるのか見ていきましょう。 ①　ポートラム、ＥＶバス、シクロシティ ②　くしとだんごのまちづくり ■指示　富山市交通政策課　東福さんの話を読みましょう。 ■説明　富山市は、車の代わりに公共交通を利用しやすいまちづくりに取り組むことで、人と環境にやさしいまちを目指しています。車はとても便利で、快適な乗り物ですが、“使いすぎ”は、環境について困ったことがあることも事実です。最も効果的な方法は、みなさんが少しずつ環境に配慮するようになることだと言われています。みなさんもぜひ、車のかしこい使い方について考えていってください。	・プレゼンで、資料を大きく示し、キッズパンフの説明を補いながら理解を促す。 ・校下の実態に合わせて、市が推進している他の公共交通の取り組み（パークアンドライド・コミュニティバス・地鉄の増発実験等）を紹介してもよい。 ・富山市交通政策課からゲストティーチャーに来ていただき、直接お話を聞くことができれば、なおよい。
５分	４　これからのかしこい車の利用の仕方について考えたことをまとめる。 ・富山市のまちづくりや公共交通機関が、環境のことまで考えて整備されていることがよく分かった。 ・これからは、時と場合によって車に頼らないことも必要だと思った。 ・家に帰ったら、かしこい車や公共交通機関の利用を家族にすすめたい。 ・環境にやさしいまちづくりがこれからも広がるといいな。	・ワークシートの「考えたこと」では、車の便利さをふまえた「かしこい利用の仕方」の観点で書かせるとよい。

児童用パンフレット

環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう!

地球温暖化を知っている?



出典:全国地球温暖化防止活動推進センター HP

地球温暖化とは地球の表面気温が上昇して気候が変わってしまう現象をいいます。地球温暖化が進むと気候が変わり、農業生産への影響がでたり、海面が上昇して、小さな島が沈んでしまったりするなどの悪影響が考えられています。

富山市で起こった、地球温暖化がもたらしたと考えられている現象

富山市で起こったゲリラ豪雨 富山市大泉中部 H22.8.31

この日は15時から17時までの2時間に100ミリにせまるはげしい雨が降り、50件を超える家に雨水が流れ込みました。この大雨は「ゲリラ豪雨」とも呼ばれ、地球温暖化による影響が大きいと考えられています。

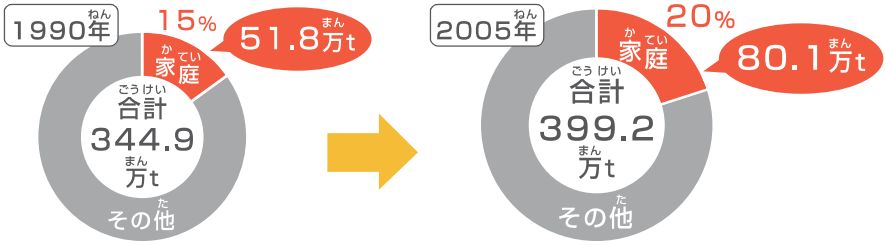
イノシシに荒らされた田んぼ 富山市須原 H20.9.5

イノシシは、雪が多く積もる富山では、あまり生息していませんでした。積雪が少ないここ10年間でイノシシが増え始め、近年では1000万円を超える被害が出る年もあります。

地球温暖化を引き起こす原因は、温室効果ガスの増加がその一因として考えられています。温室効果ガスの代表的なものとしてCO_2(二酸化炭素)があります。

富山市が出しているCO₂はどうなっているの？

富山市のCO₂排出量の変化

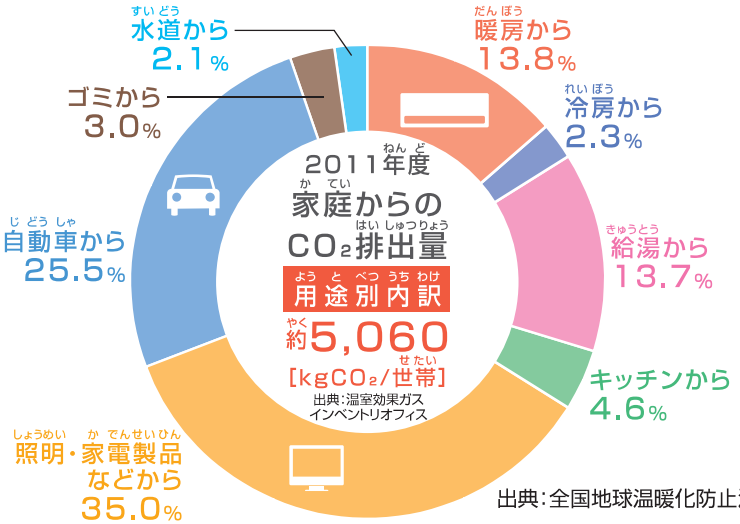


出典：「富山市環境モデル都市行動計画」

調べてみよう！

富山市のCO₂排出量は15年間で　　そのうち家庭からの排出量も

各家庭が出す温室効果ガスにはどんなものがあるの？



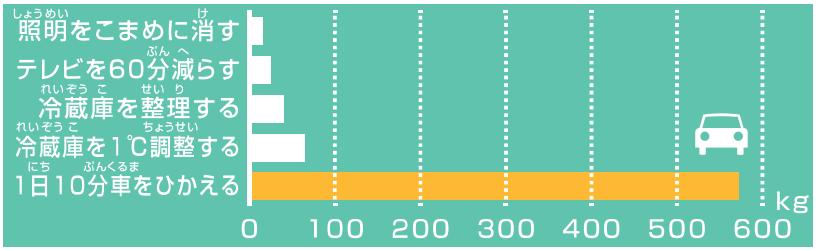
出典：全国地球温暖化防止活動推進センターHP

調べてみよう！

家庭から出るCO₂のうち、
自動車などから出る量は、
全体の［　　］分の［　　］に
当たる。

車を使わないと、排出されるCO₂がどのくらい減るの？

色々なエコ行動を1年間続けた場合に、減らすことができるCO₂の重さ



出典：とやまレールライフプロジェクトHP

調べてみよう！

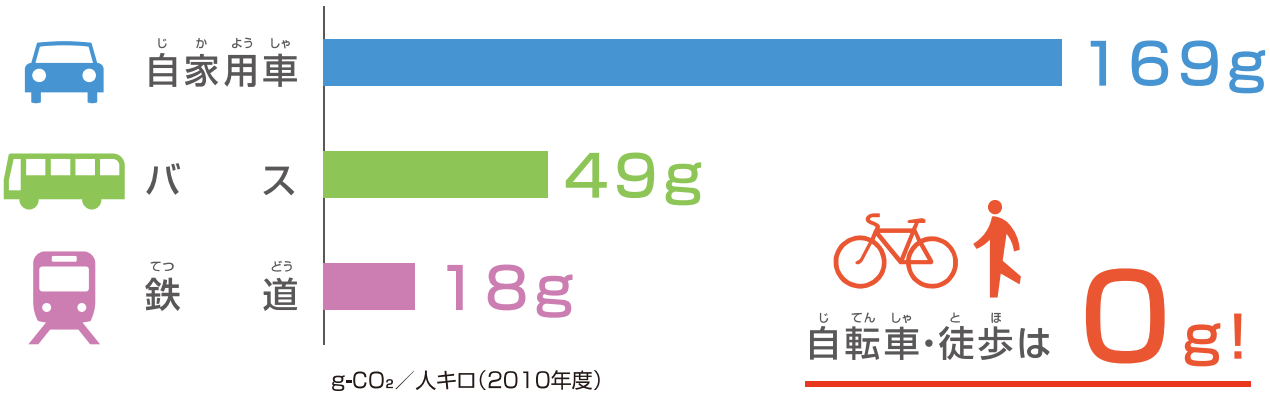
1日10分車をひかえると、
冷蔵庫を1℃調整するより
およそ［　　］倍のCO₂を
減らすことができる。

車から出されるCO₂を減らすために、家庭でできることは何だろう？

書き出してみよう！

環境にやさしい交通機関って？

ひとりを1km運ぶために排出されるCO₂の量



g-CO₂／人キロ（2010年度）

出典：国土交通省HP

富山市が進める、環境にやさしい交通機関への取り組み

ポートラム

ポートラムはLRV（次世代型路面電車）と呼ばれ、CO₂をほとんど出さない、環境にやさしい乗り物です。現在、岩瀬浜～富山駅北間で運行されていますが、今後、セントラムや市内電車、さらには上滝線への乗り入れを行う全長25.3kmのLRT（次世代型路面電車システム）ネットワークを作ることが目指されています。

電気バス

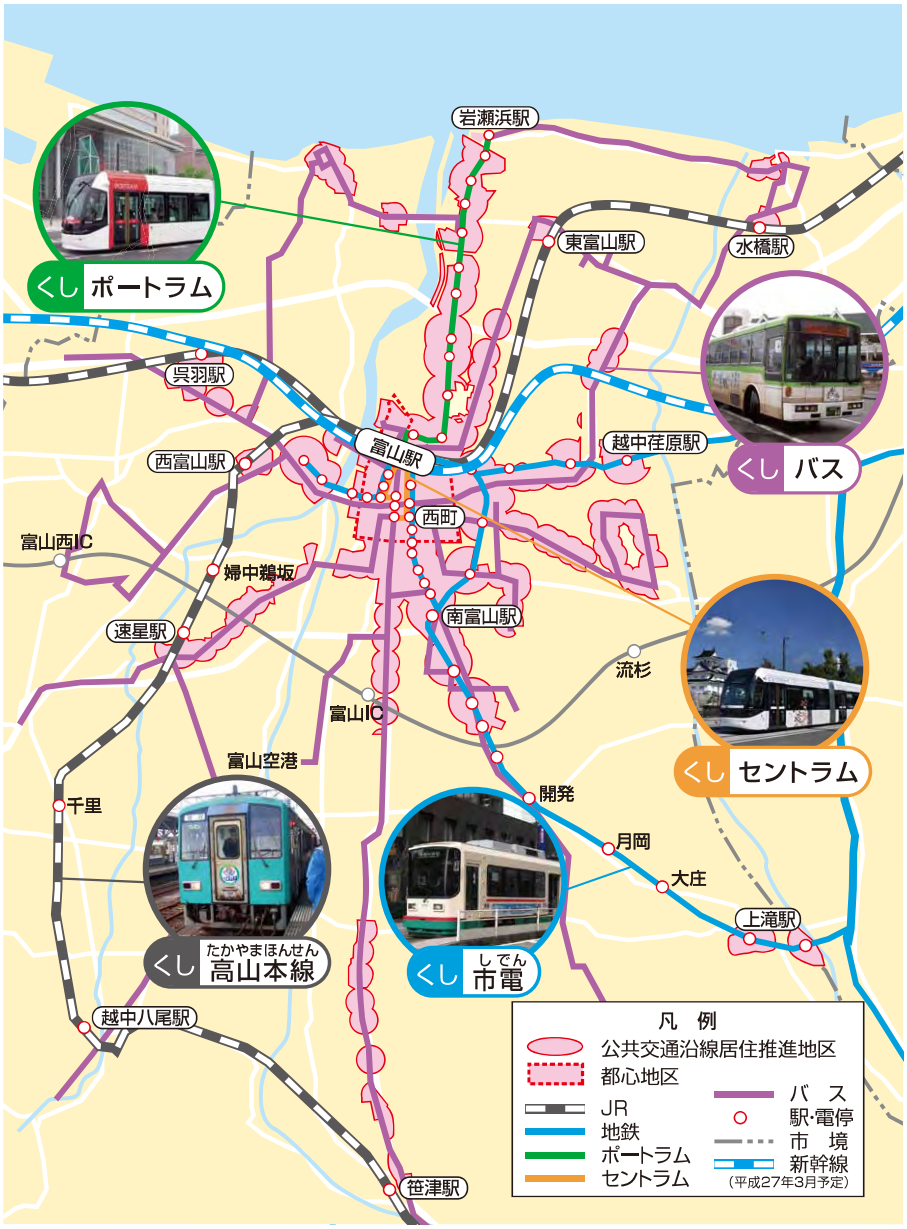
2010年2月に富山市で全国初の路線バスに小型電気バスを使うテストが行われました。通常のディーゼルエンジンバス（大型）に比べ、電気バス（小型）によるCO₂排出量は約3分の1となります。

アヴィレ

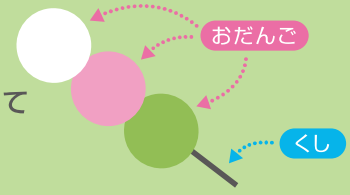
アヴィレは、いつでもどこでも自転車を利用できるサービスです。車によるCO₂を大幅に減らすための取り組みの1つとして、中心市街地に導入されました。現在17ヶ所のステーションと170台の自転車が設置され、24時間好きなステーションで借りて、好きなステーションへ返却できます。

富山市の「くしとだんごのまちづくり」

富山市は住む所や買い物をする所がいろいろな場所にちらばっているため、車がないと移動するのが不便です。そこで富山市では、家や店などが集中する場所（おだんご）を公共交通（くし）でつなぐ「くしとだんごのまちづくり」に取り組んでいます。ちらばったまちを集中した場所（おだんご）に変えて、公共交通を使う人を増やし、公共交通（くし）を使いやすくすることで、車を使わなくても移動できるようにしたいと考えています。



いくつものおだんごがくしによってつながっています。



おだんご
住む所、買い物をする所、働く所などが集まっている場所

くし
おだんご同士をつなげる電車やバスなどの乗り物

富山市交通政策課 東福光晴さんのお話

富山に住んでいる人の多くはクルマをもっています。たしかにクルマがないと買物や病院などへ行くのに不便だと感じるかもしれません。だからといって、みんながクルマばかりを使いすぎると、交通渋滞や、地球温暖化など、困ったことがでてきます。そこで富山市は、公共交通をより快適に、使いやすくすることで、“人と環境にやさしいまち”を目指しています。環境にやさしい交通機関の使い方について、ぜひ考えてみてください。

富山市交通政策課

ワークシート

環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう！　　アンケートシート（１枚目―表面）

月　　日（　　）　　名前（　　）

■ 家族に協力してもらえることをできるだけたくさん考えてみましょう。

■ 家族にインタビューしてみましょう！

今日学校で学んだ内容を話し、誰に聞くかを決めて協力してもらえる内容を調べます。すぐ「できない」ときはその理由もたずねましょう。

	協力してもらえること	誰に？	すぐできる	できない	できない理由
例	（例）晴れていたら、習い事のお迎えはしてもらわず、歩いて帰宅する （例）週に１回は、バスで通勤する	母 父	○ 当てはまる方に○印を付ける	○	「できない」理由もたずねましょう。 （例）会社の方向に行くバス路線がない。バス停まで歩くのに時間がかかる。
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					

環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう！　　アンケートシート（２枚目―裏面）

	協力してもらえること	誰に？	すぐできる	できない	できない理由
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

■ これからのかしこい車の利用の仕方について考えたことをまとめよう！（このらんは次の授業で使います）

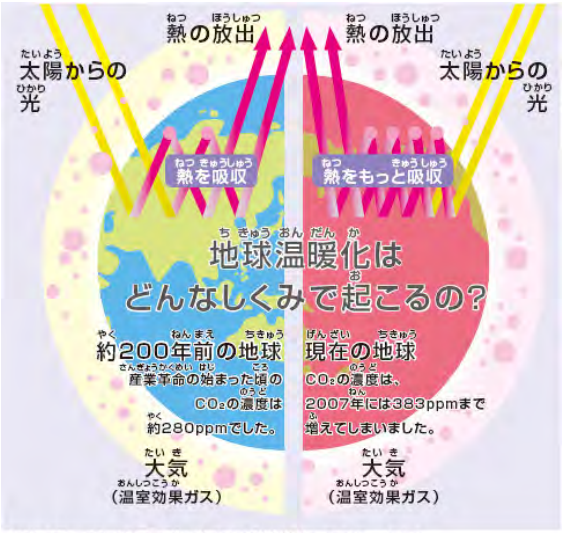
-

--

--

教員用資料

地球温暖化を知っている？



出典：全国地球温暖化防止活動推進センター HP

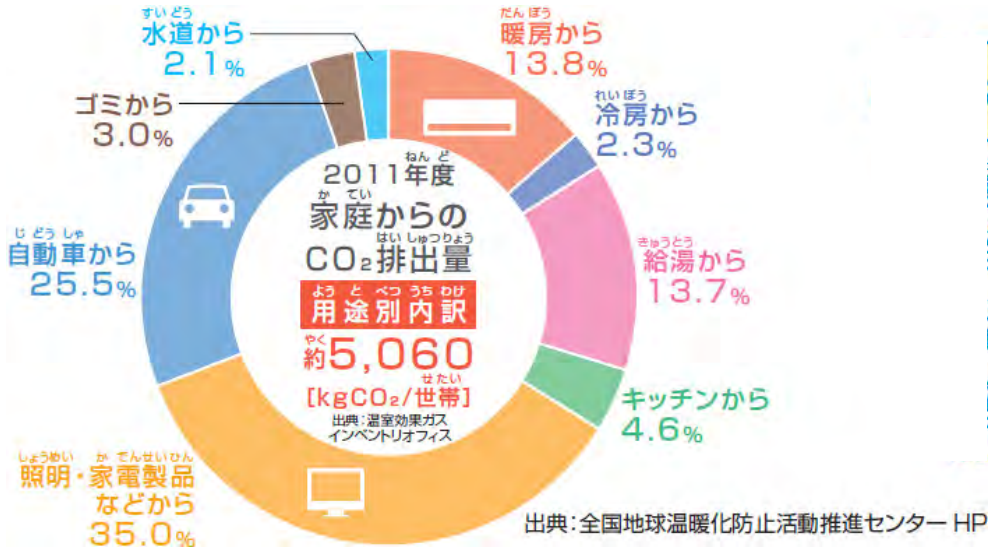
地球温暖化とは地球の表面気温が上昇して気候が変わってしまう現象をいいます。地球温暖化が進むと気候が変わり、農業生産への影響がでたり、海面が上昇して、小さな島が沈んでしまったりするなどの悪影響が考えられています。

富山市で起こった、地球温暖化がもたらしたと考えられている現象

富山市が出しているCO₂はどうなっているの？

出典：「富山市環境モデル都市行動計画」

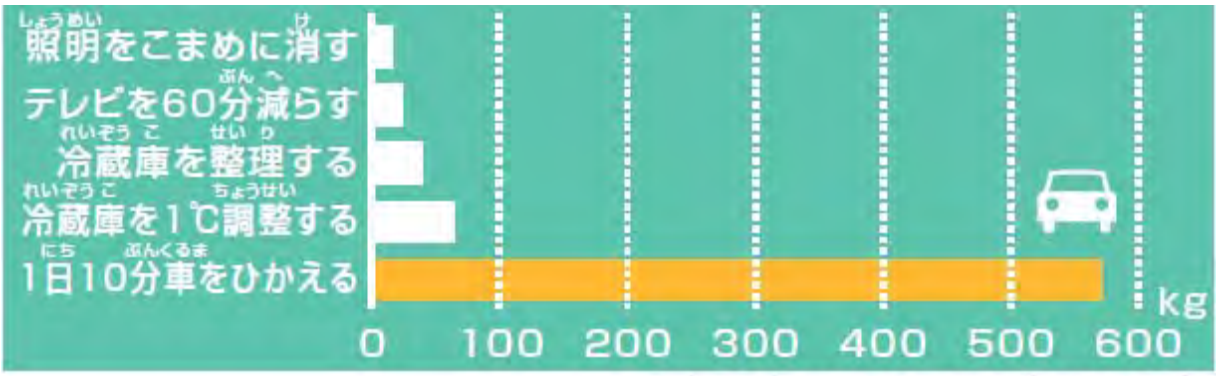
各家庭が出す温室効果ガスにはどんなものがあるの？



出典：全国地球温暖化防止活動推進センターHP

車を使わないと、排出されるCO₂がどのくらい減るの？

色々なエコ行動を1年間続けた場合に、
減らすことができるCO₂の重さ



出典：とやまレールライフプロジェクトHP

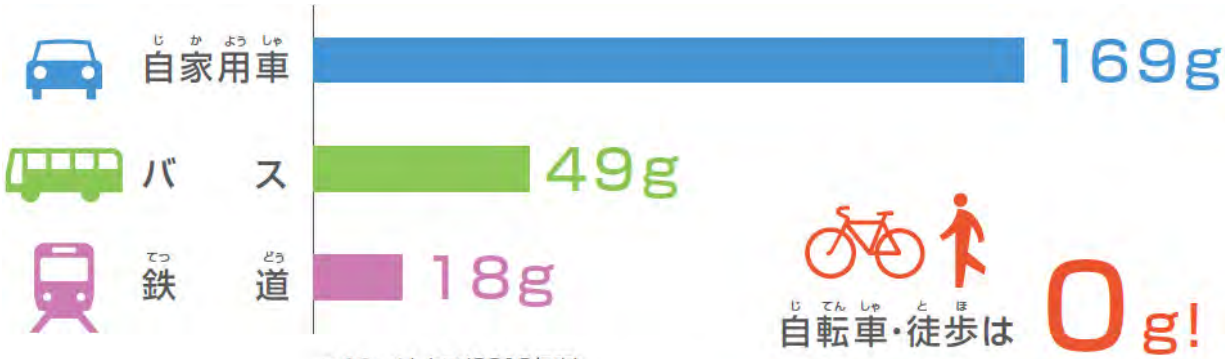
■ 車から出るＣＯ２を減らすために、家庭でできることは何だろう。

■ 家族に協力してもらえることをできるだけたくさん考えてみましょう。

■ 家族にインタビューしてみましょう！　今日学校で学んだ内容を話し、誰に聞くかを決めて協力してもらえる内容を調べます。すぐ「できない」ときはその理由もたずねましょう。

	協力してもらえること	誰に？	すぐできる	できない	できない理由
例	（例）疲れていたら、習い事のお迎えはしてもらわず、歩いて帰宅する （例）週に１回は、バスで通勤する	母 父	○ 当てはまる方に○印を付ける	○	「できない」理由もたずねましょう。 （例）会社の方向に行くバス路線がない。バス停まで歩くのに時間がかかる。
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					

ひとりを1km運ぶために排出されるCO₂の量



g-CO₂／人キロ(2010年度)

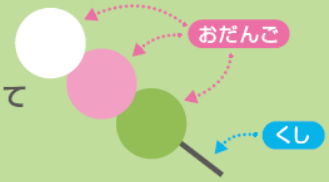
自転車・徒歩は 0g!

出典：国土交通省HP

富山市が進める、環境にやさしい交通機関への取り組み

富山市の「くしとだんごのまちづくり」

いくつもの
おだんごがくしによって
つながっています。



おだんご

住む所、買い物をする所、働く所などが集まっている場所

くし

おだんご同士をつなげる電車やバスなどの乗り物

2. アンケート調査票

○児童への事前事後意識変化アンケート

社会科３年生

「富山市のいろいろな乗り物」を学んで感じたこと

あなたの気持ちにいちばん近い答えの番号を、かっこに書いてください。

しつもん１：授業をうけて、バス、電車、ポートラムやセントラムを好きになりましたか？

あなたの答え

１．とても好きになった　２．好きになった　３．変わらない
４．きらいになった　５．すごくきらいになった　６．わからない
〔　　〕

しつもん２：授業をうけて、バス、電車、ポートラムやセントラムに乗りたいと思いましたか？

あなたの答え

１．とても思う　２．思う　３．どちらともいえない
４．あまり思わない　５．思わない　６．わからない
〔　　〕

しつもん３：授業をうけて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いましたか？

あなたの答え

１．とても思う　２．思う　３．どちらともいえない
４．あまり思わない　５．思わない　６．わからない
〔　　〕

社会科４年生

「富山県の交通の様子」を学んで感じたこと

あなたの気持ちにいちばん近い答えの番号を、かっこに書いてください。

しつもん１：じゅぎょうをうけて、バス、電車、ポートラムやセントラムを好きになりましたか？

あなたの答え

１．とても好きになった　２．好きになった　３．変わらない
４．きらいになった　５．すごくきらいになった　６．わからない
（　　）

しつもん２：じゅぎょうをうけて、バス、電車、ポートラムやセントラムに乗りたいと思いましたか？

あなたの答え

１．とても思う　２．思う　３．どちらともいえない
４．あまり思わない　５．思わない　６．わからない
（　　）

しつもん３：じゅぎょうをうけて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いましたか？

あなたの答え

１．とても思う　２．思う　３．どちらともいえない
４．あまり思わない　５．思わない　６．わからない
（　　）

総合的な学習の時間５～６年生

「環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう」を学んで感じたこと

あなたの気持ちにいちばん近い答えの番号を、かっこに書いてください。

しつもん１：授業をうけて、バス、電車、ライトレールやセントラムを好きになりましたか？

あなたの答え

１．とても好きになった　２．好きになった　３．変わらない
４．きらいになった　５．すごくきらいになった　６．わからない
（　　）

しつもん２：授業をうけて、バス、電車、ライトレールやセントラムに乗りたいと思いましたか？

あなたの答え

１．とても思う　２．思う　３．どちらともいえない
４．あまり思わない　５．思わない　６．わからない
（　　）

しつもん３：授業をうけて、あなたの住むまちのバス、電車、ライトレールやセントラムは、大切だと思いましたか？

あなたの答え

１．とても思う　２．思う　３．どちらともいえない
４．あまり思わない　５．思わない　６．わからない
（　　）

3. 富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会

（１）第１回協議会
①協議会資料

平成２５年度

第１回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会

資　料

平成２５年８月２９日
富山市都市整備部交通政策課

目　　次

１．モビリティ・マネジメント教育推進事業の目的 1

２．平成２４年度決算報告及び平成２５年度収支予算案　【協議事項】 2

３．モビリティ・マネジメント教育推進事業の検討項目 5

４．３ヵ年の検討内容とステップのイメージ 5

５．**検討項目３**：保護者を含めた市民への啓発活動　【協議事項】 6

６．支援制度終了後の実施計画の策定　【協議事項】 7

７．**検討項目１**：学習プログラムの企画・実施　【報告事項】 10

８．**検討項目２**：教員への普及啓発　【報告事項】 18

９．今後のスケジュール 22

１．モビリティ・マネジメント教育推進事業の目的

公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを推進するうえで、市民ひとりひとりが、環境や社会について意識を向け、自発的にクルマと公共交通のかしこい利用を考えた交通行動をとることができるよう、小学生という早い段階から公共交通利用について意識醸成を図ることを目的に、小学校で実施可能な富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラム（以下、学習プログラム）を確立・実施を目指す。あわせて保護者を含めた市民に対して啓発活動を展開する一連のモビリティ・マネジメントにも取り組むことで、公共交通の利用促進につなげる。

平成 23 年度から 3 ヵ年は、交通エコロジー・モビリティ財団の支援を受け検討を行い、平成 26 年度からの事業の本格実施を目指す。

２．平成２４年度決算報告及び平成２５年度収支予算案　【協議事項】

（１）平成２４年度決算報告

【収入】　　【単位:円】

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減額 (B−A)	内訳
委託料	2,500,000	2,500,000	0	富山市委託料
その他の収入	0	0	0	
合計	2,500,000	2,500,000	0	

【支出】

科目		予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減額 (B−A)	備考
委員会運営費		482,300	331,050	−151,250	
	諸謝金	89,400	70,140	−19,260	委員謝礼、講師謝礼等
	旅費交通費	392,900	257,440	−135,460	委員旅費、講師旅費等
	会議費	0	3,470	3,470	お茶代
交通環境学習実施費用		2,017,700	2,156,095	138,395	
	会議費	22,000	0	−22,000	公開授業会場費
	業務委託費	1,585,700	1,951,740	366,040	授業プログラム実施委託費
	広告宣伝費	250,000	0	−250,000	公開授業DVD作成費用
	雑費(消耗品費)	160,000	204,355	44,355	交通環境学習用交通用ICカード等購入費等
合計		2,500,000	2,487,145	−12,855	

市への返還金　：　収入ー支出　＝　12，855円

監　査　報　告　書

富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会規約第５条第３項の規定により、平成２４年４月１日から平成２５年３月３１日までの事業・報告、決算書等を監査した結果、いずれも適正に処理、記載されていることを確認しましたので、ここに報告いたします。

平成25年 3月29日

監査委員
富山市小学校教育研究会
総合的な学習の時間部会　部長
（富山市立船峅小学校長）

岡田浩子 印

平成25年 3月29日

監査委員
富山市ＰＴＡ連絡協議会　会長

水野雅人 印

（２）平成２５年度収支予算案

【収　入】　（単位:円）

区分	予算額	内訳
委託料	2,500,000	富山市委託料
その他収入	0	
合計	2,500,000	

【支　出】　（単位:円）

区分		予算額	内訳
委員会運営費		594,680	
	諸謝金	89,400	委員謝礼、講師謝金
	旅費交通費	501,680	委員旅費、講師旅費、職員旅費
	会議費	3,600	お茶　120円×15本×2
交通環境学習実施費用		1,905,320	
	業務委託費	1,890,000	授業プログラム実施委託費
	雑費(消耗品費)	15,320	参考図書、収入印紙等
合計		2,500,000	

３．モビリティ・マネジメント教育推進事業の検討項目

モビリティ・マネジメント教育推進事業では、富山版モビリティ・マネジメント教育を確立し、教員や保護者を含めた市民への普及を目指すため、本事業の検討項目を大きく 3 つに設定している。以下の検討項目 3 つの内容について「富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会」および「検討部会」における検討のうえ様々な取り組みを行っている。

検討項目 1：富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラムの企画・実施
検討項目 2：富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラムの教員への普及啓発
検討項目 3：富山版モビリティ・マネジメントの保護者を含めた市民への啓発活動

４．３ヵ年の検討内容とステップのイメージ

3 つの検討項目について、以下のように 3 ヵ年進める。平成 25 年度は各検討項目における成果品の完成や方向性の確立を行う。

	平成 23 年度 導入年	平成 24 年度 ブラッシュアップ年	平成 25 年度 確立年
検討項目 1 学習プログラムの企画・実施	■検討 ■実施（2 プログラム） ・3 年生社会科 ・4 年生社会科 ■実施成果とりまとめ	■検討 ■実施（4 プログラム） ・4 年生総合 ・3 年生社会科 ・4 年生社会科 ・6 年生社会科 ■実施成果とりまとめ ■副読本掲載に向けた検討	■検討・確立 ■実施（5 プログラム） ・3 年生社会科 ・4 年生社会科 ・6 年生社会科 ・3～4 年生総合 ・5～6 年生総合 ■実施成果とりまとめ ■教材完成 ■副読本掲載に向けた検討 ■MM教育 PR チラシの作成
検討項目 2 教員への普及啓発	■普及のための仕組みづくりの検討 ■公開授業の実施 ・4 年生社会科（五福小学校） ■教員の先進地視察 ・札幌市	■普及のための仕組みづくりの検討 ■普及啓発活動の実施 ・総合的な学習の時間部会でのＰＲ ・社会科部会でのＰＲ ■教員の先進地視察 ・金沢市　・京都府	■普及のための仕組みづくりを検討・確立 ■普及啓発活動の実施 ・総合的な学習の時間部会でのＰＲ ・社会科部会でのＰＲ ・ワークショップの開催 ■教員の先進地視察 ・仙台市　・金沢市
検討項目 3 保護者を含めた市民への啓発活動	■とやまレールライフ・プロジェクトフォーラムとの連携	■JCOMMとの連携	■とやまレールライフ・プロジェクトとの連携 ■子供向けイベントの開催
その他	■関係機関との調整	■関係機関との調整	■関係機関との調整 ■支援制度終了後の実施計画の策定

５．検討項目３：保護者を含めた市民への啓発活動　【協議事項】

（１）とやまレールライフ・プロジェクトとの連携

平成 25 年 12 月下旬～平成 26 年１月にかけて、とやまレールライフ・プロジェクトの各種メディア（ホームページ、フェイスブックページ、情報誌）に、富山版モビリティ・マネジメント教育の取り組みを掲載する。

【協議点】　・レールライフ・プロジェクトとの連携方法について

（２）まちなかの各種施設との連携

まちなかの各種施設や公共交通機関と連携して子どもと保護者を対象としたモビリティ・マネジメント教育に関する内容を含めた「とやま公共交通ふれあいデー（仮称）」を開催する。

目　　的：富山市民が公共交通を身近に感じ、普段のクルマの使い方を見直す機会となることを目指す。

実　施　日：平成２５年９月２９日（日）

実施内容（案）：

11：00～11：30　ふれあいバス紙芝居＆チャックパーク（場所：アトリウム）

11：30～12：00　キャラクターと遊ぼう交通すごろく（場所：アトリウム）

13：00～14：00　公共交通撮影会（場所：まちなか）※参加者は市内電車に乗車

13：00～13：30　キャラクターと遊ぼう交通すごろく（場所：アトリウム）

14：30～16：30　中井精也氏の講演、
中井氏・富山地鉄・富山市によるミニトーク（場所：アトリウム）

13：30～14：00　ふれあいバス紙芝居＆チャックパーク（場所：アトリウム）

◇公共交通写真展示（場所：アトリウム、市内電車）

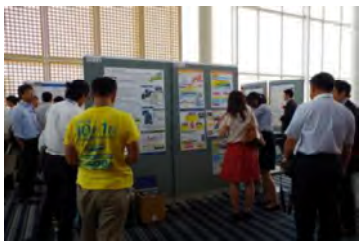
◇モビリティ・マネジメント教育の取組展示（場所：アトリウム）

◇「富山市の路面電車１００周年」パネル展示（場所：アトリウム）

※アトリウムでの「交通すごろく」後、市民プラザ前広場でのアトラクション、セントラム乗車・グランドプラザでのイベントとのタイアップも検討中。

当別町ふれあいバス紙芝居

チャックパーク


ＭＭ教育の取組展示

【協議点】　・イベントの実施内容について

６．支援制度終了後の実施計画の策定　【協議事項】

富山版モビリティ・マネジメント教育は、継続的に実施していくことが重要である。そのため、以下の取組内容について継続的に取り組むことができる仕組みを確立する。

取組内容1　学習プログラムの魅力維持、魅力アップ
取組内容2　教員への普及啓発
取組内容3　保護者を含めた市民への普及啓発

	方法(1) 富山市教育センターHP での情報発信	方法(2) 新組織の設立	方法(3) 持続発展教育（ESD）との連携
取組内容1 学習プログラムの魅力維持、魅力アップ	・各種情報の提供	・ブラッシュアップ ・データ更新	―
取組内容2 教員への普及啓発	・各種情報の提供	・教員の参加 ・公開授業の開催	・ESD の既存普及啓発方法との連携
取組内容3 保護者を含めた市民への普及啓発	・各種情報の提供	―	―

【協議点】　・支援終了後の実施計画　全般について
・方法（２）（３）の内容について

（１）富山市教育センターHP での情報発信

富山市教育センターの HP 上で、富山版交通環境学習に関する説明や学習プログラムのパッケージ一式について情報発信を行う。富山版交通環境学習を含めた富山市作成の各種教材と合わせて、富山市教育センターHP のリンク集に「学習に役立つ富山市の取組み」というページを設けた（平成 25 年 8 月 6 日設置済）。

取組内容 1-方法　各種情報の提供
取組内容 2-方法　各種情報の提供
取組内容 3-方法　各種情報の提供

「学習に役立つ富山市の取組み」

「わたしたちのくらしと税」
（納税課）

「美しい富山」
（環境センター）

「水とわたしたち」
（上下水道局）

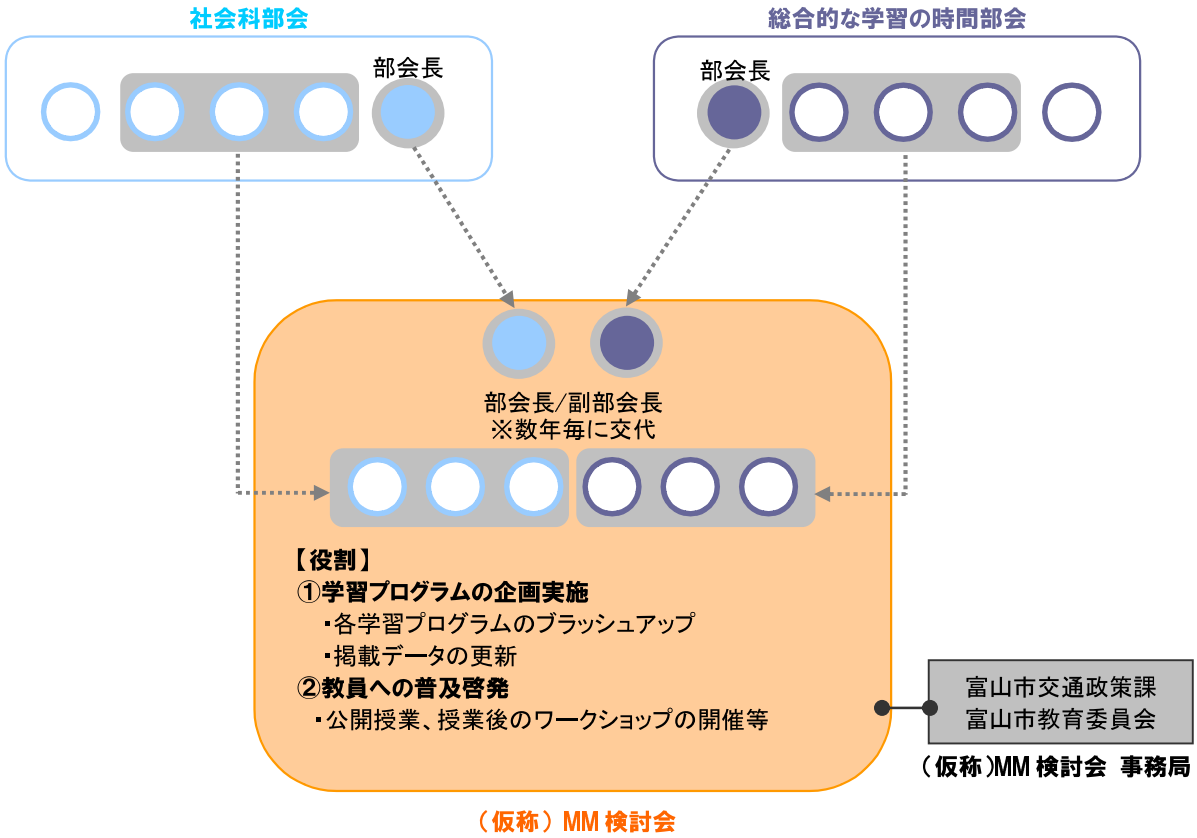
「富山版交通環境学習」
（交通政策課）

（２）新組織の設立

継続的に富山版モビリティ・マネジメント教育に携わる組織を平成 25 年度末に設立し、平成 26 年度以降の継続的な学習プログラムのブラッシュアップやデータ更新を行う。また、定期的に公開授業等を行うことにより教員を対象とした継続的な交通環境学習の普及活動を行う。

取組内容 1-方法　学習プログラムのブラッシュアップ、データ更新

取組内容 2-方法　新組織への教員の参加、定期的な公開授業の開催



平成 26 年度以降の組織（案）

（３）持続発展教育（ESD）との連携

持続発展教育（ESD）は、「今と未来を生きるすべての人々のことを考え、よりよい社会づくりにかかわろうとする心と態度を育てる」を目的としている。富山版モビリティ・マネジメント教育と持続発展教育（ESD）の考え方は、重なる部分がある。既に一定の普及啓発に成功している持続発展教育（ESD）と連携した教員への普及啓発方法を検討中。

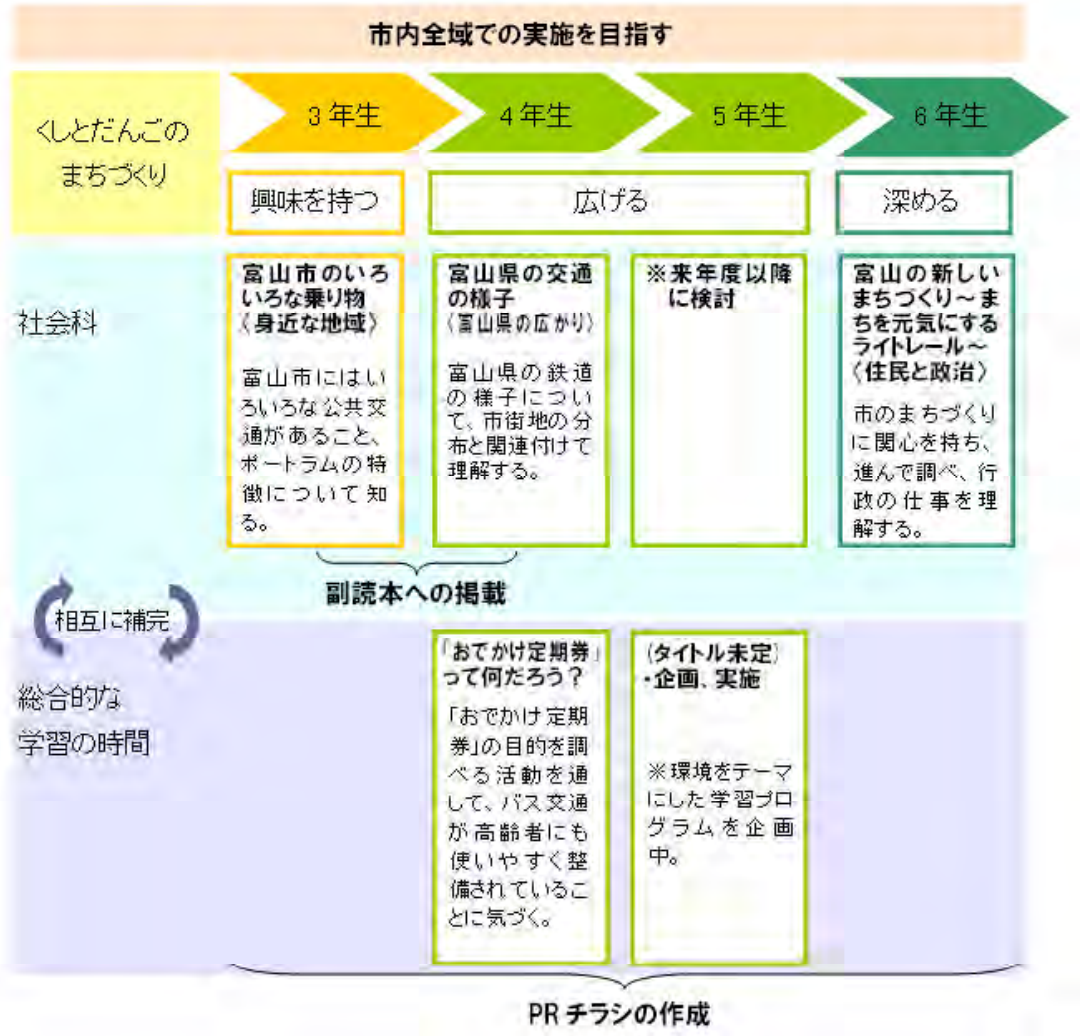
取組内容 2-方法　持続発展教育（ESD）の取組内容と連携した教員への普及啓発

7．検討項目１：学習プログラムの企画・実施　【報告事項】

（１）４年間の学習ステップ

3～6 年生の 4 学年においてステップを踏みながら市内全域での実施を目指す。

3・4 年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』に掲載する。また、教員が取り組むきっかけをつくるため、学習プログラムの概要や教科との関連付けを掲載した PR チラシを作成する。



【平成 25 年度の取り組み内容】

教科	学年	学習プログラム	平成 25 年度
社会科	３年生	富山市のいろいろな乗り物	・公開授業を実施、確立
	４年生	富山県の交通の様子	・公開授業を実施、確立
	５年生	―	※来年度以降に企画
	６年生	富山市の新しいまちづくり	・公開授業を実施、確立
総合的な学習の時間	３～４年生	「おでかけ定期券」って何だろう？	・公開授業を実施、確立
	５～６年生	※環境をテーマとした学習プログラムを企画中	・学習プログラムの企画 ・公開授業を実施、確立

（２）社会科　３年生の学習プログラム

①実施結果

ⅰ）実施概要

実　　施　　日：平成 25 年 5 月 22 日（水）1 時限

実　施　場　所：五福小学校

実　　施　　者：松村教諭

対 象 校 ・ 学 年：五福小学校 3 年 2 組

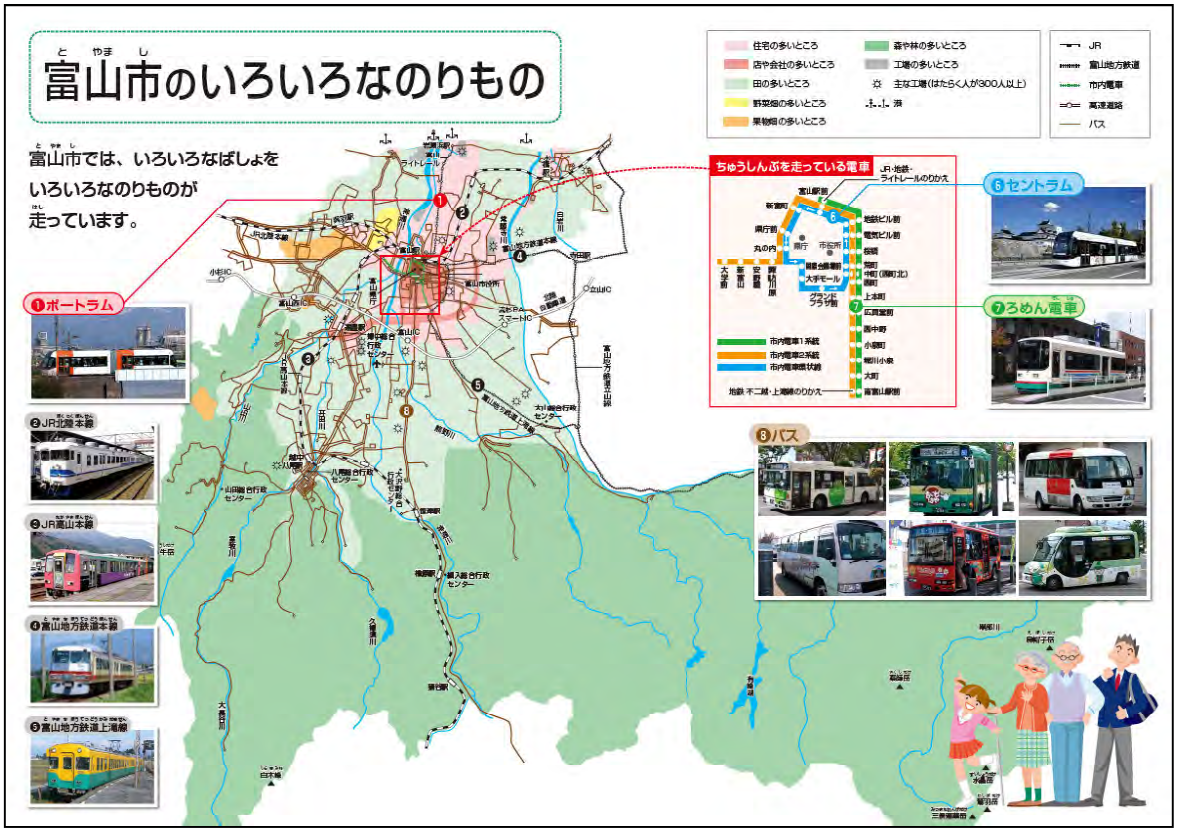
学習プログラム：富山市のいろいろな乗り物

ⅱ）学習プログラム内容

プログラム名	「富山市のいろいろな乗り物」
学習のねらい	・富山市にはいろいろな公共交通があることやポートラムの特徴を知り、公共交通に興味を持つ。
時限数	・1 時限
学習内容	・公共交通と土地利用が結びついていて、富山市にはさまざまな公共交通があることや富山市を代表するポートラムの特徴について知ることにより、自分たちの住む地域や公共交通への愛着を深めることを目指す。 ①富山市のいろいろな公共交通 ②くしとだんごのまちづくり（6 年生で学習するため簡易的に） ③ポートラムの特徴（富山市の代表的な公共交通として選定）

ⅲ）授業風景

ⅳ）児童用パンフレット



A３　外面

A３　中面

②評価

ｉ）児童への意識変化アンケート結果

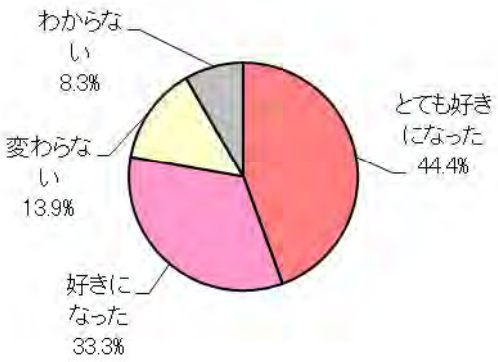
学習プログラム実施後、全児童に対してアンケートを実施した。以下の全学習ステップにおいて、約８割の児童が「とても好きになった・とても思う」、「好きになった・思う」と回答しており、学習効果が見られる。

学習ステップ１：公共交通を好きになる

問：授業をうけて、バス、電車、ポートラムやセントラムを好きになりましたか？（N=36）

項目	件数	割合
とても好きになった	16	44.4%
好きになった	12	33.3%
変わらない	5	13.9%
きらいになった	0	0.0%
すごくきらいになった	0	0.0%
わからない	3	8.3%
合計	36	100.0%

77.8%

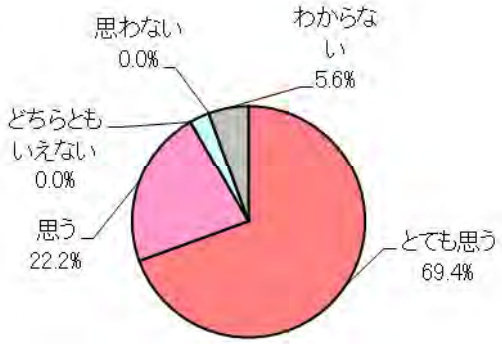


学習ステップ２：公共交通を利用したいと思う

問．授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムに乗りたいと思いましたか？（N=36）

項目	件数	割合
とても思う	25	69.4%
思う	8	22.2%
どちらともいえない	0	0.0%
あまり思わない	1	2.8%
思わない	0	0.0%
わからない	2	5.6%
合計	36	100.0%

91.7%

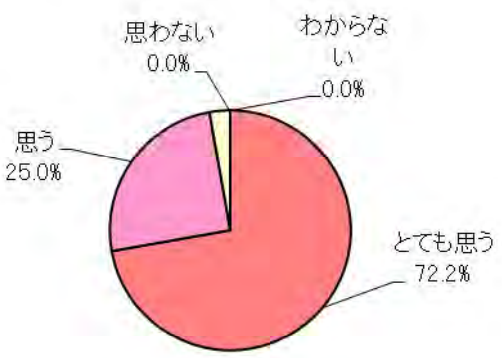


学習ステップ３：環境や社会のことを考え、公共交通の大切さを理解する

問．授業をうけて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いましたか？（N=36）

項目	件数	割合
とても思う	26	72.2%
思う	9	25.0%
どちらともいえない	1	2.8%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	0	0.0%
わからない	0	0.0%
合計	36	100.0%

97.2%



ⅱ）検討部会でのご意見

・授業時間は、1時限で良い。
・まず生活体験の共有を行い、そこからいろいろな乗り物すなわち公共交通があるということ、公共交通は高齢者などの車を運転できない人達も乗ることができる乗り物である（福祉面）ということを学び、その一例としてポートラムを取り上げて知識をつけるという流れとする。
・3年生は社会科初習の年である。そのため、3年生の5月時点では理解することが難しい部分がある。授業の実施時期を7月頃にすれば児童が本プログラムの内容をより理解できる可能性がある。

③今後のスケジュール

・検討部会メンバーである教員が中心になって、学習プログラムの微修正を行って今年度中に完成させる。

（３）その他の学習プログラム

①実施予定

ⅰ）社会科　４年生の学習プログラム

実　　施　　日：平成 25 年 10 月 29 日（火）
実　施　場　所：八尾小学校
実　　施　　者：古井教諭
対象校・学年：八尾小学校 4 年生 1 クラス
学習プログラム：「富山県の交通の様子」　※昨年度実施内容を修正して実施予定。
富山県の鉄道の様子について市街地の分布と関連付けて理解する。

ⅱ）社会科　６年生の学習プログラム

実　　施　　日：平成 25 年 12 月 2 日（月）
実　施　場　所：五福小学校
実　　施　　者：五福小学校 教諭
対象校・学年：五福小学校 6 年生 1 クラス
学習プログラム：「富山市の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～」
※昨年度実施内容を修正して実施予定。
富山市のまちづくりに関心を持ち、進んで調べ、行政の仕事を理解する。

ⅲ）総合　３～４年生の学習プログラム

実　　施　　日：平成 25 年 10 月 9 日（水）
実　施　場　所：東部小学校
実　　施　　者：渡辺教諭
対象校・学年：東部小学校 4 年生 1 クラス
学習プログラム：「「おでかけ定期券」って何だろう？」
※昨年度実施内容を修正して実施予定。
「おでかけ定期券」の目的を調べる活動を通じて、バス交通が高齢者にも使いやすく整備されていることに気づく。

ⅳ）総合　５～６年生の学習プログラム

実　　施　　日：平成 25 年 11 月 12 日（火）
実　施　場　所：呉羽小学校
実　　施　　者：呉羽小学校 教諭
対 象 校 ・ 学 年：呉羽小学校 6 年生 1 クラス
学習プログラム：未定（環境をテーマとした学習プログラムを企画中）

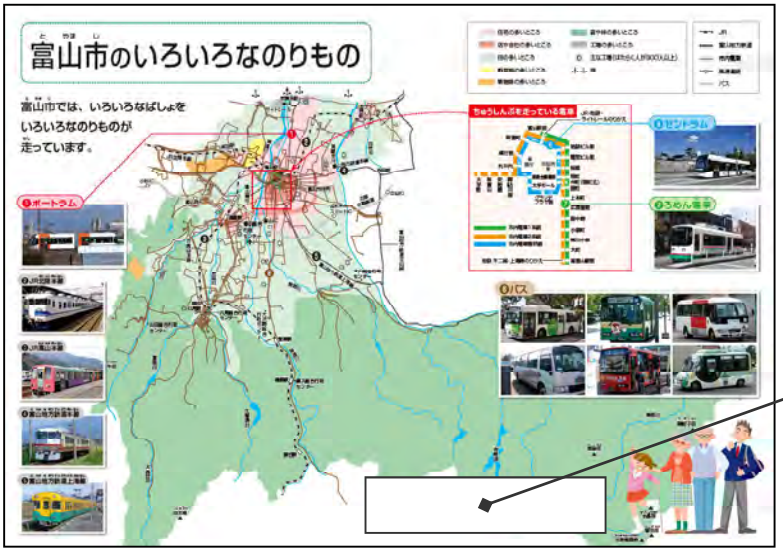
②今後のスケジュール

・検討部会メンバーである教員が中心になって、学習プログラムの微修正を行って今年度中に完成させる。

（４）３年生、４年生社会科学習プログラムの副読本掲載

編集委員会で協議を行った結果、副読本に新たに２ページを追加し、下図の内容を掲載することになった。土地利用図にバスや鉄道といった公共交通路線を掲載した地図と公共交通の写真を掲載する。富山市のくしとだんごのまちづくりについては、富山市教育センターHP に掲載する情報へアクセスできるようにURL を記載する。

今後、社会科の３・４年生の学習プログラムの内容を踏まえ、編集委員でもあり検討部会メンバーでもある劔田先生が中心になり掲載内容の微調整を行っていただく。平成25年度中に、平成26年度版第９集への掲載を目指して掲載内容を確定させる。



富山市の公共交通を大切にしたまちづくり（くしとだんごのまちづくり）について
⇒　http://・・・・・・・・・・・・・

※バス路線図は、全て掲載すると児童が見る資料としては情報量が多くなりすぎるため、運行頻度の高いものだけを掲載するか検討中。

（５）PR チラシの作成

現場の教員が富山版モビリティ・マネジメント教育に取り組むきっかけをつくるため、学習プログラムの概要や教科との関連付けを掲載したPR チラシを作成する。

○学習プログラムと教科との関連付け

・社会科

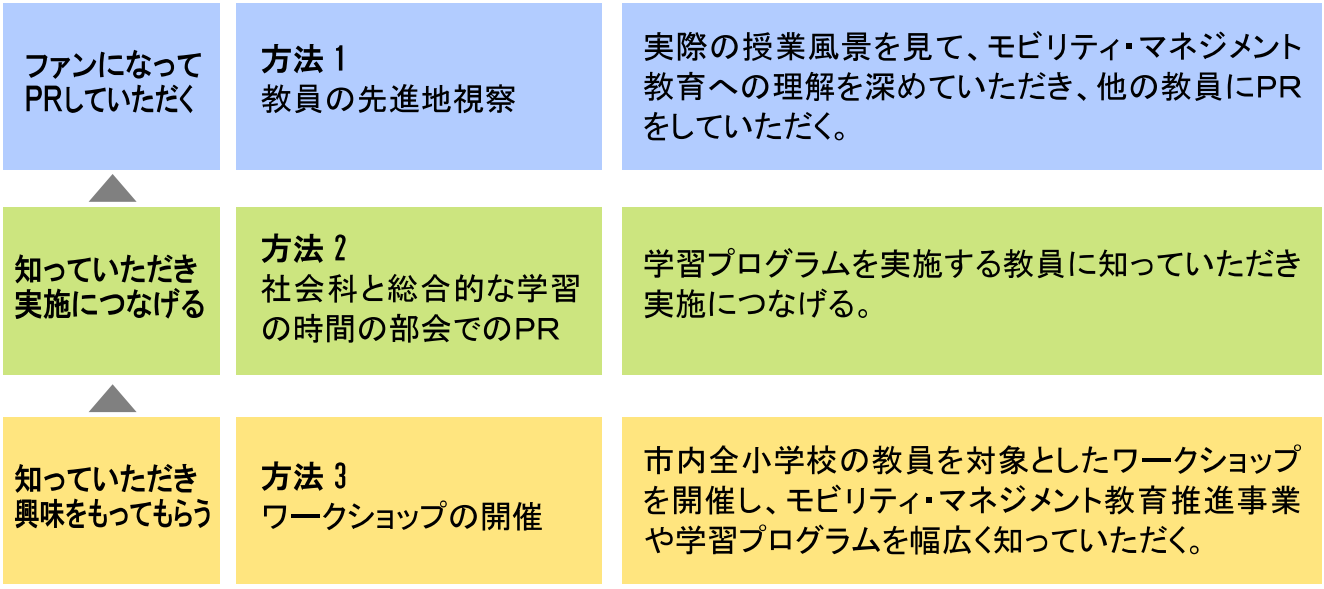
学年	MM　学習プログラム名	単元	実施時期
3年生	「富山市のいろいろな乗り物」	身近な地域	6～7月
4年生	「富山県の交通の様子」	富山県の広がり	12月
5年生	―	―	―
6年生	「富山市の新しいまちづくり」	わたしたちの願いを実現する政治	12月

・総合的な学習の時間

学年	MM　学習プログラム名	教科	単元	実施時期
3～4年生	「おでかけ定期券って何だろう？」	国語	だれもがかかわり合えるように	9月
		※今後、この他の教科・単元との関連付けが考えられないか、検討部会教員と検討を行う。		
5～6年生	※学習プログラム企画後に検討予定。			

８．検討項目２：教員への普及啓発　【報告事項】

富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラムを市内全域で継続的に実施するために、さまざまな方法で教員に事業をＰＲする。以下の３つの方法で普及啓発に取り組むことを目指す。

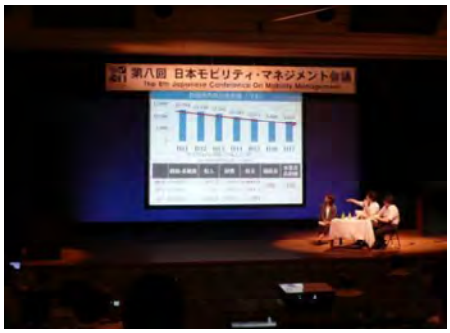


普及啓発の３つの方法

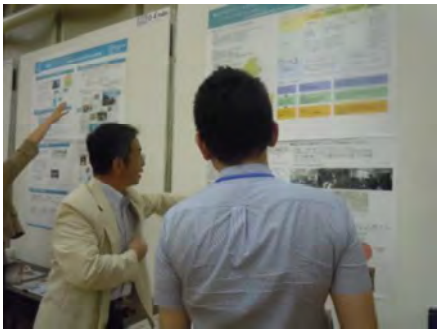
（１）方法１：教員の先進地視察

①仙台市における日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）

視察者	柳内誠治（検討部会メンバー、富山市立五福小学校校長） 富山市職員２名 コンサルタント２名
視察内容	○口頭発表 日本各地でモビリティ・マネジメント事業に携わる関係者が自身の取組みについて発表を行った。 ○ポスター発表 富山市の取組みについてポスター発表を行い、柳内校長が見学者に対して説明を行った。



口頭発表



ポスター発表

②金沢市における金沢版交通環境学習

今年度実施予定の金沢版交通環境学習の出前講座を視察する。視察者は、検討部会のメンバーである教員等が考えられる。

（２）方法２：社会科と総合的な学習の時間の部会でのＰＲ

①社会科部会

平成 25 年 4 月 15 日（月）の部会において、富山版モビリティ・マネジメント教育の実施内容等の説明を行った。

②総合的な学習の時間部会

平成 25 年 5 月 13 日（月）の部会において、渡辺教諭による模擬授業の実施や意見交換を行った。

模擬授業

意見交換

（３）方法３：ワークショップの開催

①公開授業の開催に合わせたワークショップの開催

公開授業の開催に合わせたワークショップを開催する。既に３年生社会科の公開授業に合わせてワークショップが開催され、検討部会のメンバーである教員に加え、公開授業が実施された学年と同じ３年生を受け持つ社会科部会の教員数名が参加した。

平成 25 年 5 月 22 日（水） 五福小学校

②市内全小学校教員を対象としたワークショップの開催

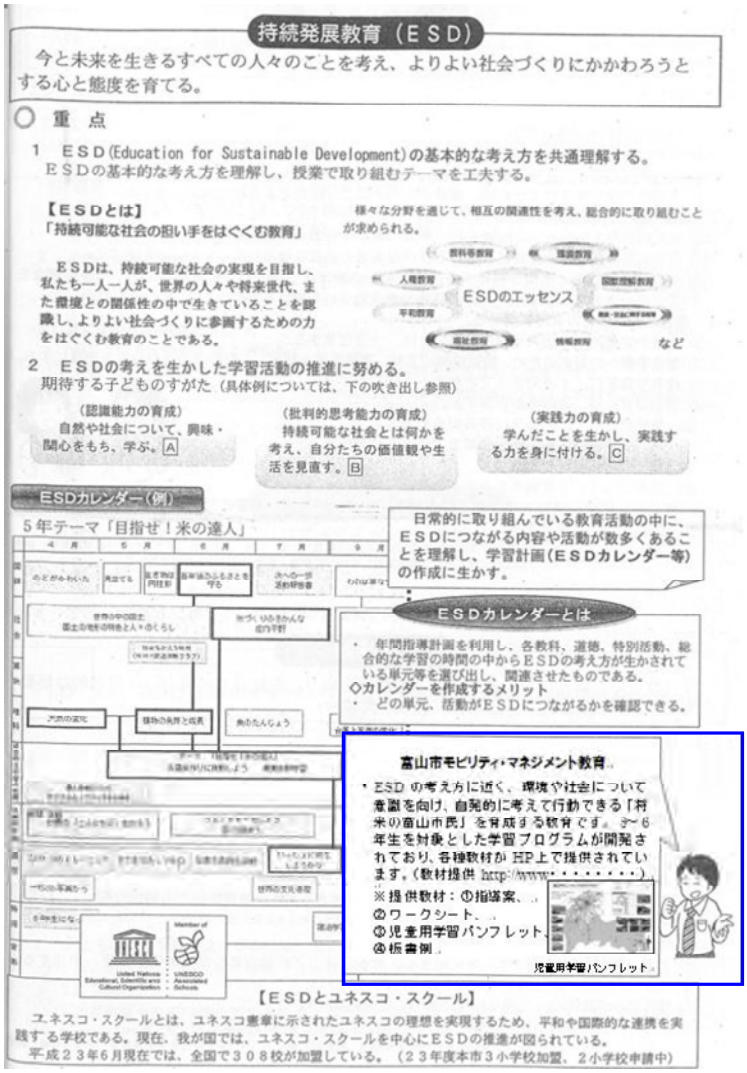
堀川小学校で開催される持続発展教育（ESD）の研究発表会と合わせて、富山版モビリティ・マネジメント教育に関する取り組み紹介等を行う。

実　　施　　日：平成 25 年 11 月 1 日（金）
実　施　場　所：堀川小学校
実施内容（案）：13:15-14:00　児童集会
14:15-15:00　公開授業
○学年：４年生
○教科：社会科
○内容：持続発展教育、モビリティ・マネジメント教育
15:15-16:35　研究協議会
①授業内容の検討
②モビリティ・マネジメント教育について富山市より説明
③富山大学人文学部 准教授 大西宏治氏を交えた意見交換

（４）その他

①富山市教育委員会との連携

「富山市学校教育指導方針」に富山版モビリティ・マネジメント教育に関する情報を掲載することを目指し、教育委員会との協議を進める。現在、以下の掲載案で協議中。



持続発展教育（ESD）のページ内に情報を掲載

富山市学校教育指導方針への掲載案

②校長会でのＰＲ

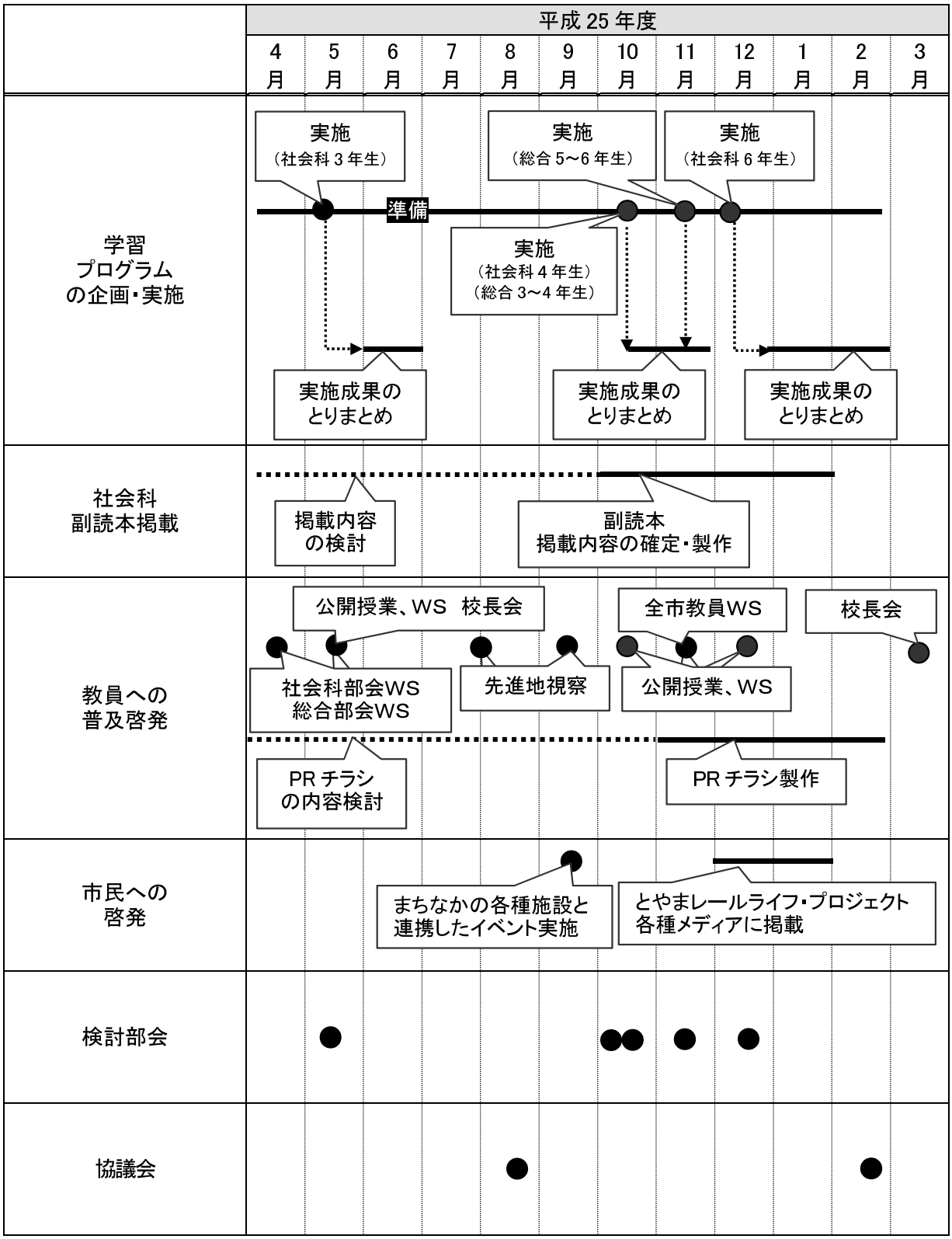
平成 24 年度に引き続き、平成 25 年度も 5 月と 3 月の校長会でのＰＲを実施する。既に 5 月の校長会で PR を実施した。

③富山市教育センターHP での情報発信

富山市教育センターの HP 上で、富山版交通環境学習に関する説明や学習プログラムのパッケージ一式について情報発信を行う。

※詳細については本資料 5 項を参照

９．今後のスケジュール


平成 25 年度
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月
学習プログラムの企画・実施
実施（社会科 3 年生）
準備
実施（総合 5～6 年生）
実施（社会科 6 年生）
実施（社会科 4 年生）（総合 3～4 年生）
実施成果のとりまとめ
実施成果のとりまとめ
実施成果のとりまとめ
社会科副読本掲載
掲載内容の検討
副読本掲載内容の確定・製作
教員への普及啓発
公開授業、WS 校長会
全市教員WS
校長会
社会科部会WS 総合部会WS
先進地視察
公開授業、WS
PR チラシの内容検討
PR チラシ製作
市民への啓発
まちなかの各種施設と連携したイベント実施
とやまレールライフ・プロジェクト各種メディアに掲載
検討部会
協議会

富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会規約の一部改正について

【趣　旨】

委員の役職変更に伴い、規約の一部を改正するもの。

【改正点】

別表の富山市ＰＴＡ連絡協議会の役職を会長から顧問に修正する。

（一部改正規約：別紙のとおり）

別表（第３条関係）

＜改正前＞

所　属	役　職	氏　名	備　考
金沢大学理工研究域環境デザイン学系	教　授	高山　純一	
玉川大学教育学部教育学科	教　授	寺本　　潔	
筑波大学大学院システム情報系	講　師	谷口　綾子	
交通環境学習実践小学校	校　長		
富山市小学校教育研究会総合的な学習の時間部会	部　長		
富山市小学校教育研究会社会科部会	部　長		
富山市教育委員会学校教育課	主幹 指導主事		
富山市 PTA 連絡協議会	会　長		
国土交通省北陸信越運輸局交通環境部環境課	課　長		

↓

＜改正後＞

所　属	役　職	氏　名	備　考
金沢大学理工研究域環境デザイン学系	教　授	高山　純一	
玉川大学教育学部教育学科	教　授	寺本　　潔	
筑波大学大学院システム情報系	講　師	谷口　綾子	
交通環境学習実践小学校	校　長		
富山市小学校教育研究会総合的な学習の時間部会	部　長		
富山市小学校教育研究会社会科部会	部　長		
富山市教育委員会学校教育課	主幹 指導主事		
富山市 PTA 連絡協議会	顧　問		
国土交通省北陸信越運輸局交通環境部環境課	課　長		

富山市モビリティマネジメント教育推進協議会規約

（設置）

第１条　本市の交通環境学習の内容等を検討し、市内の小学校における交通環境学習を実施することにより、一人ひとりが社会、環境等にやさしい交通手段を見直し、自発的に行動する人間を育てる教育活動（以下「モビリティマネジメント教育」という。）の推進を目的とする事業を実施するため、富山市モビリティマネジメント教育推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　協議会の検討事項は、次のとおりとする。

(1)　交通環境学習の学習内容及び教材

(2)　交通環境学習の実施手法

(3)　前２号に掲げるもののほか、モビリティマネジメント教育の推進に関し必要な事項

（組織等）

第３条　協議会は、別表に掲げる委員をもって組織する。

２　委員の任期は、３年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

３　委員は、再任されることができる。

（役員）

第４条　協議会に、次の役員を置く。

(1)　会長　　１名

(2)　副会長　１名

(3)　監事　　２名

２　会長は委員の互選により、副会長及び監事は会長の指名によりそれぞれ定めるものとする。

（職務）

第５条　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

２　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

３　監事は、協議会の会計を監査する。

（会議）

第６条　協議会の会議は、会長が召集し、会長がその会議の議長となるものとする。

２　協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

３　協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

４　議長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴き、又は説明を求めることができる。

（分科会）

第７条　第２条各号に掲げる事項について、専門的な調査及び検討を行うため、協議会に分科会を置くことができる。

２　分科会は、必要に応じ会長が召集し、会長が指名する者をもって組織する。

（事務局）

第８条　協議会の事務を処理するため、事務局を置く。

２　事務局に関し必要な事項は、会長が別に定める。

（経費）

第９条　協議会の運営に関する経費は、次に掲げるものをもって充てる。

(1)　委託料

(2)　その他収入

（細則）

第１０条　この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附　則

この規約は、平成２３年１０月１日から施行する。

附　則

この規約は、平成２４年５月２１日から施行する。

附　則

この規約は、平成２５年８月２９日から施行する。

別表（第３条関係）

所　属	役　職	氏　名	備　考
金沢大学理工研究域環境デザイン学系	教　授	高山　純一	
玉川大学教育学部教育学科	教　授	寺本　　潔	
筑波大学大学院システム情報系	講　師	谷口　綾子	
交通環境学習実践小学校	校　長		
富山市小学校教育研究会総合的な学習の時間部会	部　長		
富山市小学校教育研究会社会科部会	部　長		
富山市教育委員会学校教育課	主幹 指導主事		
富山市 PTA 連絡協議会	顧　問		
国土交通省北陸信越運輸局交通環境部環境課	課　長		

平成２５年度
第１回　富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会
議事録

日　時：平成 25 年 8 月 29 日（木）10：30～12：00

場　所：富山市役所 3 階　自治振興会室

委員：

所属	氏名
金沢大学 理工研究域 環境デザイン学系　教授	高山　純一
玉川大学 教育学部 教育学科　教授	寺本　潔
筑波大学 大学院 システム情報系　講師	谷口　綾子（欠席）
富山市立五福小学校　校長	柳内　誠治
富山市小学校教育研究会 社会科部会　部長	青山　寿夫
富山市小学校教育研究会 総合的な学習の時間部会　部長	堀江　修
富山市教育委員会 学校教育課　主幹指導主事	吉藤　重弘
富山市ＰＴＡ連絡協議会　顧問	水野　雅人
国土交通省 北陸信越運輸局 交通環境部 環境課　課長	佐藤　収一

オブザーバー：

所属	氏名
交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部　部長	加藤　信次

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課　課長	黒瀬　裕治
富山市 都市整備部 交通政策課　係長	東福　光晴
富山市 都市整備部 交通政策課　主査	室田　知美
富山市 都市整備部 交通政策課　主事	宮城　由希子
株式会社 計画情報研究所　研究員	大西　友世
株式会社 計画情報研究所　研究員	大西　哲平

次　第：

１．開会
２．富山市挨拶
３．議題
（１）規約の一部改正について
（２）平成２４年度決算報告について
（３）平成２５年度収支予算案について
（４）保護者を含めた市民への啓発活動について
（５）支援制度終了後の実施計画の策定について
４．報告事項
（１）学習プログラムの企画・実施について
（２）教員への普及啓発について
５．その他
（１）堀川小学校への中部電力教育振興財団の助成について
（２）今後のスケジュールについて
６．閉会

議事録：

１．開会

２．富山市挨拶

黒瀬（富山市 都市整備部 交通政策課　課長）

本日はお忙しいなかご出席いただき、ありがとうございます。また日頃より、富山市の行政についてご理解と協力をいただいていることに対してお礼申し上げます。

本協議会は、富山市モビリティ・マネジメント教育の普及・啓発について討議するため平成23年度10月1日に設置された。富山市モビリティ・マネジメント教育では、市内小学校において学習プログラムを実施することにより、社会や環境にやさしい交通手段を意識し自発的に行動する人間を育てることを目的としている。

本年度は3，4，6年生を対象とした学習プログラムを完成させる。また、来年度からの市内全小学校での、学習プログラムを活用した富山市モビリティ・マネジメント教育の実施についても検討を重ねる。現在学習プログラムの内容を検討していただいている検討部会メンバーの先生方をはじめ、多くの方々にご尽力いただいている。事務局としても、完成した学習プログラムがより多くの先生方に活用してもらえるよう、努めていきたい。

皆様のご意見をいただけるよう、よろしくお願いいたします。

３．議題

高山会長

本事業は、本年度（平成 25 年度）で 3 年目となる。当初は平成 23 年度～25 年度の 3 年間で富山市モビリティ･マネジメント教育の全ての学習プログラムを完成させる計画であった。しかし、現状では平成 25 年度中に全ての学習プログラムを完成させることはできない見込みである。それについては、資料 7 頁の支援制度終了後の実施計画の策定についての中で事務局から説明する。

（１）規約の一部改正について

事務局（東福）

（資料説明：「富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会規約の一部改正について」）

全委員

承認

（２）平成２４年度決算報告について

事務局（東福）

（資料説明：「平成 25 年度　第 1 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会　資料」2 頁）

水野委員（監査委員）

（資料説明：「平成 25 年度　第 1 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会　資料」3 頁）

全委員

承認

（３）平成２５年度収支予算案について

事務局（東福）

（資料説明：「平成 25 年度　第 1 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会　資料」4 頁）

全委員

承認

（４）保護者を含めた市民への啓発活動について

事務局（東福）

（資料説明：「平成 25 年度　第 1 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会　資料」1、5～6 頁、「とやま公共交通ふれあいデー」チラシ）

寺本委員

とやま公共交通ふれあいデーは、公共交通の必要性を市民に啓発する貴重な機会である。子供たちの公共交通への親しみの象徴である運転手の制服の着衣体験を、後援企業である富山地方鉄道株式会社の協力を得て行うのはどうか。中学生は大人用の制服でもよいが、より小さな子供向けに小さい制服を用意できないか。

また、学校教育への広がりを考え、「くしとだんごのまちづくりソング」、「くしとだんごのまちづくり音頭」などを作成してはどうか。交通すごろくもよいが、長い時間がかかる、参加者数が限られるなどの問題がある。制服着衣体験、ソングの合唱などであれば時間もかからず、多くの子供たちが参加できるため、より多くの市民へ富山市モビリティ・マネジメント教育を広げることができる。

高山会長

興味深い意見だが、本年度の企画へ導入することは難しいだろう。次年度以降に活かしていきたい。

佐藤委員

私は、北陸信越運輸局で、本年度4月より運輸部門のCO2排出量削減などの施策に関する業務を行っている。富山市モビリティ・マネジメント教育については現部署で初めて知り、初めて聞いたときはどのような施策なのかわからなかった。「モビリティ・マネジメント」、「MM」という言葉より、わかりやすい表現を用いるとよいのではないか。

水野委員

寺本委員の制服着衣体験はよいアイデアである。以前、小学校のバザーで子供用の白バイ制服を着て白バイにまたがって記念撮影をするというイベントがあり、大変人気だった。はしご車も来ており、一番上まで伸ばした状態で試乗させていた。このような子供たちが普段できない体験はよい思い出になる。

また、とやま公共交通ふれあいデーの展示では、現状では十分でない富山市モビリティ・マネジメント教育への理解を深めるため、事業を行う意義に関するパネル展示もあるとよい。子供たちも楽しめるよう、漫画でパネルを作成するのもよい。

高山会長

とやま公共交通ふれあいデーでは「里ノ助」、「千石こまちちゃん」のキャラクター2体の着ぐるみを使用しているが、富山市には公式のキャラクターはいるか。

事務局（東福）

環境未来都市など、各個別の取組みでキャラクターをデザインすることはあるが、富山市としての公式キャラクターはいない。

高山会長

富山市モビリティ・マネジメント教育の公式キャラクターをデザインすることは、ひとつのアイデアとしてよいのではないか。

石川県では、北陸新幹線開業に向けSTEP21重点プロジェクトを採択した。10件程度の事業に対し、3～4年の長期間にわたり助成を行うものである。採択事業の中に、石川県または石川のものをテーマにした歌を県・国内外を問わず公募するという事業があった。他地域の人たちに石川県の取組みを知っていただく効果を期待しての取組みである。予算は必要だが、富山市モビリティ・マネジメント教育の取組みでも取り入れるとよい。とやまレールライフ・プロジェクトで、「MMソング」を公募するなど、検討してみてはどうか。

事務局（東福）

検討する。

高山会長

とやま公共交通ふれあいデーの展示で、市民向けに富山市モビリティ・マネジメント教育の解説をするパネルを用意する件については、日本モビリティ・マネジメント会議のポスター発表で使用したものをベースに、市民向け、子供向けにわかりやすく作りなおしてはどうか。

事務局（東福）

これまでの富山市モビリティ・マネジメント教育に関する取組みを、専門性が高い図表などを用いずにわかりやすく表現したパネルの展示をしたい。とやま公共交通ふれあいデーのような機会でなければ、市民に富山市モビリティ・マネジメント教育の取組みを知ってもらう事ができない。

高山会長

とやま公共交通ふれあいデーのイベントは屋内で実施するのか。

事務局（東福）

屋内で実施する。

寺本委員

とやま公共交通ふれあいデーの「富山市の路面電車100周年」パネル展示について、鉄道マニアは鉄道雑誌などで展示写真をすでに見たことがあり、本展示が集客につながらない恐れがある。つり革や座席など、企画に関連する物品の実物の展示は行えないか。

事務局（東福）

現在、富山市郷土博物館の企画展「市電開通！！－富山市の路面電車１００周年－」では鉄道模型などの実物の展示を行っており、とやま公共交通ふれあいデーでも同企画展の出張展示を行う予定である。鉄道模型を走らせることも検討している。

高山会長

金沢大学にも鉄道サークルがあり、高山が顧問をしている。とやま公共交通ふれあいデーの宣伝をしておく。

（５）支援制度終了後の実施計画の策定について

事務局（東福）

（資料説明：「平成 25 年度　第 1 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会　資料」7～9 頁）

高山会長

交通エコロジー・モビリティ財団の支援制度終了後に、本協議会に代わる新たな組織を検討している。本年度までに作成した学習プログラムは、時代に応じてブラッシュアップする必要がある。新組織はその役割を担う。資料 9 頁の新組織案は実現可能なのか。本日は、社会科部会、総合的な学習の時間部会から部会長の先生方が参加している。現場の意見をいただきたい。

柳内委員

私は、富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業検討部会の座長として、3 年間本事業に関わってきた。検討部会の先生方に尽力いただき、本年度中に学習プログラムの最終版完成の目処がついた。学習プログラムを作成してきた立場から、次年度以降の各小学校での活用や、学習プログラムの改良などを、継続的に行なってほしいと強く希望する。その取組みは行政だけでは行えず、現場の先生方に参加していただく必要がある。予算、役割分担などの課題はあるが、資料 9 頁の新組織案を叩き台として、新組織を中心とした仕組みを作っていきたい。

また、富山市と同様な取組みを行う自治体として、札幌市のモビリティ・マネジメント教育との連携も続けていただきたい。

青山委員

先ほどの佐藤委員と同じく、私も富山市モビリティ・マネジメント教育については本事業で初めて知った。現場の先生方に受け入れていただくためには、「モビリティ・マネジメント」、「MM」ではわかりづらいため、名前を変える必要がある。その次に、いかに現場の先生方に実施していただくかの部分については、堀委員や私の仕事である。富山市東福氏より熱意ある事業説明を受け、本事業の重要性は認識している。現場の先生方にも同様に認識していただき、実際に学習プログラムを実施してもらうための４年目としていきたい。

堀委員

柳町小学校で「おでかけ定期券って何だろう？」の模擬授業を行なった。その際、私を含め多くの先生方が、学習プログラムを通して富山市の施策や市長の思いが見えたことを面白いと感じた。学習プログラムを実施する先生方が同様の思いを持てるよう、学習プログラムを魅力あるものに修正していくことが私の役割であると感じた。

高山会長

現場の先生方はぜひやりたいとのことであるが、教育委員会はどうか。

吉藤委員

正直、これ以上○○教育という取組みが増えると大変である。しかし、富山市の重点政策に関わることであるという認識はある。検討しているように、富山市学校教育指導方針へ富山市モビリティ・マネジメント教育に関する記述を盛り込むことができれば、教育委員会として協力しやすくなる。現場の先生方はやらなければならないものが多く大変である。教育委員会としては、現場の先生方を支援する方法を考えたい。

寺本委員

新組織の「MM 検討会」という名称であるが、普及段階にある事業の団体名として「検討」という名称はふさわしくない。イメージがわいて興味をもてる名前がよい。「のりものがたり」という名称はどうか。のりものについて語れる市民を育成することを目的とし、新組織の名称も「のりものがたりの会」、「のりものがたり推進会」などとしてはどうか。その他にも、のりものがたりの歌や踊りを作成して広めるとよい。ソフト路線に転換しなければ、固いイメージが付いてしまい、大事な中身が伝わらなくなってしまう。持続発展教育（ESD）も同様で、現実に教育界では大きなうねりとなっていない。富山ライトレールは社会科教科書に多く掲載され、富山市はモビリティ・マネジメントのフロントランナーである。イメージリーダーバスなどによる公共交通へのクリーンなイメージもあり、乗り物を富山市のイメージ戦略の中心に置くとよい。

話が広がったが、いずれにしても、「MM 検討会」という名称については再考してほしい。

高山会長

北陸電力株式会社の EV バスはどのように活用されているか。

事務局（東福）

ミュージアムバスとして活用している。

高山会長

寺本委員より色々なアイデアが出された。子供たちは踊り、体操、音頭などが好きなので、そのような楽しい取組みを行なってほしい。

寺本委員

事務局の若手女性が中心となり、がんばってほしい。

高山会長

新組織の名称については再検討してほしい。

４．報告事項

（１）学習プログラムの企画・実施について

事務局（東福）

（資料説明：「平成 25 年度　第 1 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協

議会　資料」10～17 頁）

（２）教員への普及啓発について

事務局（東福）

（資料説明：「平成 25 年度　第 1 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会　資料」18～22 頁）

高山会長

金沢市の視察はいつ行う予定なのか。

事務局（東福）

11 月 27 日に行う予定である。

５．その他

（１）堀川小学校への中部電力教育振興財団の助成について

寺本委員

私が評議員である中部電力教育振興財団の助成を、堀川小学校が獲得した。

富山市モビリティ・マネジメント教育により子供たちはどのような資質を得られるのか、堀川小学校らしい息の長い実践となるよう願っている。

（２）今後のスケジュールについて

事務局（東福）

第2回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会は、年度末の2月末に行う。

各学校での公開授業及び検討部会、とやま公共交通ふれあいデーなどの取組みは予定通りに進めさせていただく。

高山会長

学校の先生方の中にも、鉄道を含む乗り物が好きな人がいるはずである。その人たちに富山市モビリティ・マネジメント教育について知ってもらうことが重要である。具体的に授業に取り入れていただくための取組みとしては、オプションメニューを用意するとよい。学習プログラムの内容を変えていくこともマンネリ防止のためには必要である。新組織では、これらの諸課題に取り組んでもらいたい。

６．閉会

以上

（２）第２回協議会
①協議会資料

平成２５年度

第２回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会

資　料

平成２６年２月２０日

富山市都市整備部交通政策課

目　　次

１．モビリティ・マネジメント教育推進事業の目的 1

２．モビリティ・マネジメント教育推進事業の検討項目 2

３．３ヵ年の検討内容とステップのイメージ 2

４．支援制度終了後の実施計画の策定　【協議事項】 3

（１）モビリティ・マネジメント教育普及啓発事業の目的 3

（２）普及啓発のための取り組み 4

（３）普及啓発の成果把握 6

５．協議会規約の全部改正について　【協議事項】 7

（１）改正趣旨 7

（２）協議会概要 7

（３）参考資料 7

６．**検討項目１**：学習プログラムの企画・実施　【報告事項】 8

（１）４年間の学習ステップ 8

（２）社会科　３年生の学習プログラム 9

（３）社会科　4 年生の学習プログラム 13

（４）社会科　６年生の学習プログラム 17

（５）総合　３～４年生の学習プログラム 21

（６）総合　５～６年生の学習プログラム 24

（７）副読本への掲載 27

（８）PR チラシの作成 28

７．**検討項目 2**：教員への普及啓発　【報告事項】 29

（１）ワークショップの開催 30

（２）教員の先進地視察 34

（３）その他 35

８．**検討項目 3**：保護者を含めた市民への啓発活動　【報告事項】 36

（１）とやまレールライフ・プロジェクトとの連携 36

（２）まちなかの各種施設との連携 37

１．モビリティ・マネジメント教育推進事業の目的

公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを推進するうえで、市民ひとりひとりが、環境や社会について意識を向け、自発的にクルマと公共交通のかしこい利用を考えた交通行動をとることができるよう、小学生という早い段階から公共交通利用について意識醸成を図ることを目的に、小学校で実施可能な富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラム（以下、学習プログラム）を確立・実施を目指す。あわせて保護者を含めた市民に対して啓発活動を展開する一連のモビリティ・マネジメントにも取り組むことで、公共交通の利用促進につなげる。

平成 23 年度から 3 ヵ年は、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の支援を受け検討を行い、平成 26 年度からの事業の本格実施を目指す。

２．モビリティ・マネジメント教育推進事業の検討項目

モビリティ・マネジメント教育推進事業では、富山版モビリティ・マネジメント教育を確立し、教員や保護者を含めた市民への普及を目指すため、本事業の検討項目を大きく 3 つに設定している。以下の検討項目 3 つの内容について「富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会」および「検討部会」における検討のうえ様々な取り組みを行っている。

検討項目 1：富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラムの企画・実施
検討項目 2：富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラムの教員への普及啓発
検討項目 3：富山版モビリティ・マネジメントの保護者を含めた市民への啓発活動

３．３ヵ年の検討内容とステップのイメージ

3 つの検討項目について、以下のように 3 ヵ年進めてきた。平成 25 年度は各検討項目における成果品の完成や方向性の確立を行う。

	平成 23 年度 導入年	平成 24 年度 ブラッシュアップ年	平成 25 年度 確立年
検討項目 1 学習プログラムの企画・実施	■検討 ■実施（2 プログラム） ・3 年生社会科 ・4 年生社会科 ■実施成果とりまとめ	■検討 ■実施（4 プログラム） ・4 年生総合 ・3 年生社会科 ・4 年生社会科 ・6 年生社会科 ■実施成果とりまとめ ■副読本掲載に向けた検討	■検討・確立 ■実施（5 プログラム） ・3 年生社会科 ・4 年生社会科 ・6 年生社会科 ・3～4 年生総合 ・5～6 年生総合 ■実施成果とりまとめ ■教材完成 ■3・4 年生社会科副読本掲載に向けた検討 ■MM教育 PR チラシの作成
検討項目 2 教員への普及啓発	■普及のための仕組みづくりの検討 ■公開授業の実施 ・4 年生社会科（五福小学校） ■教員の先進地視察 ・札幌市	■普及のための仕組みづくりの検討 ■普及啓発活動の実施 ・総合的な学習の時間部会でのＰＲ ・社会科部会でのＰＲ ■教員の先進地視察 ・金沢市　・京都府	■普及のための仕組みづくりを検討・確立 ■普及啓発活動の実施 ・総合的な学習の時間部会でのＰＲ ・社会科部会でのＰＲ ・ワークショップの開催 ■教員の先進地視察 ・仙台市　・金沢市
検討項目 3 保護者を含めた市民への啓発活動	■とやまレールライフフォーラムとの連携	■JCOMMとの連携	■とやまレールライフ・プロジェクトとの連携 ■子供向けイベントの開催
その他	■関係機関との調整	■関係機関との調整	■関係機関との調整 ■支援制度終了後の実施計画の策定

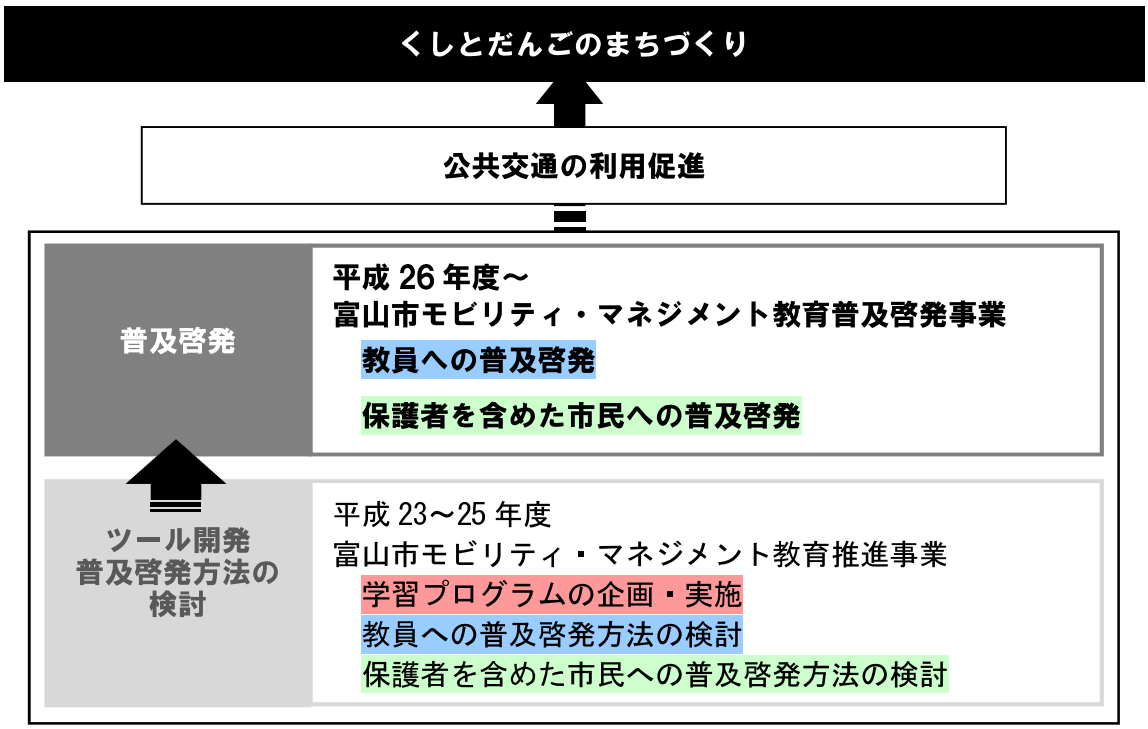
４．支援制度終了後の実施計画の策定　【協議事項】

富山市モビリティ・マネジメント教育は、継続的に実施していくことが重要である。そのため、継続的に取り組むことができる仕組みを確立する。平成 26 年度以降は、「モビリティ・マネジメント教育普及啓発事業」として継続的な取り組みを行う。

（１）モビリティ・マネジメント教育普及啓発事業の目的

小学校の段階から環境や社会について意識を向け、公共交通の利用について意識醸成を図ることを目的に、平成 23～平成 25 年度の 3 ヶ年において「富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業」に取り組んできた。取り組みの成果として、富山市モビリティ・マネジメント教育を普及させるためのツールである学習プログラムの開発などが挙げられる。

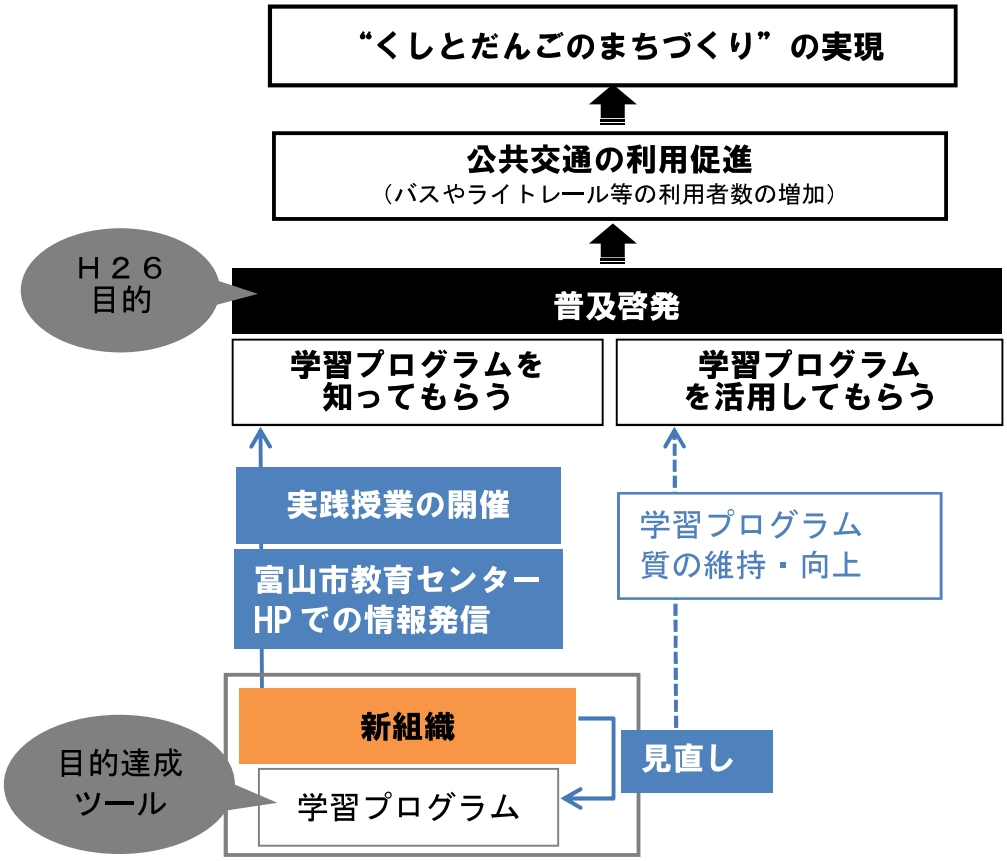
平成 26 年度以降は、これまでの 3 ヶ年での取り組みをふまえ、富山市モビリティ・マネジメント教育の普及啓発を目的とした事業を行う。教員が親しみやすく感じるように、本教育の名称を「富山市のりもの語り教育」とし、児童が乗り物の魅力を語り、自発的に考えて乗り物をかしこく使い分けて生活できるようになることを目指す。

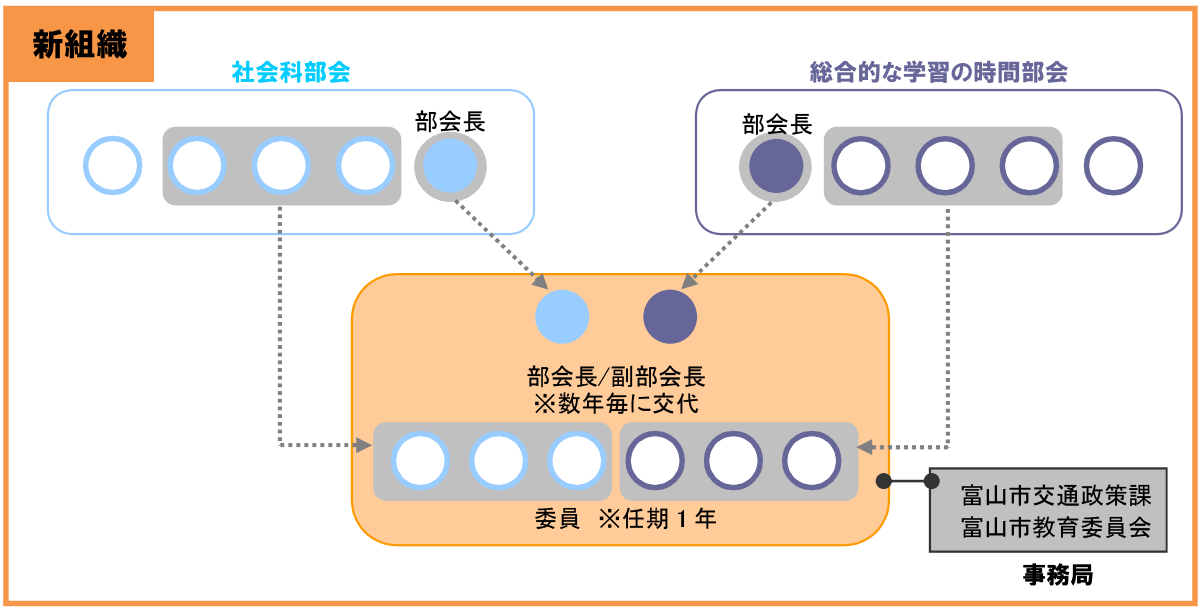


（２）普及啓発のための取り組み

①新組織の設立と役割

児童を対象とした教育は、長期に渡って継続的に取り組むことで大きな成果に繋がる。そのためには、継続的に普及啓発を行う必要がある。また、開発した学習プログラムの質の維持・向上に努めることも必要である。これらの役割を担う新組織を平成 26 年度に設立することで、「富山市のりもの語り教育」の普及啓発を行い、公共交通の利用促進を目指す。





②実践校への支援

富山市のりもの語り教育に取り組む小学校に対して、学習教材に係る印刷費の支援、校外活動（ライトレールの見学等）を行う場合の交通事業者との連絡調整を行う。また、公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団による学校支援制度の周知、申請のサポート等を行う。

③富山市教育センターHP での情報発信

富山市教育センターの HP 上で、富山市のりもの語り教育に関する説明や学習プログラムのパッケージ一式について情報発信を行う。富山市のりもの語り教育を含めた富山市作成の各種教材と併せて、富山市教育センターHP のリンク集に「学習に役立つ富山市の取組み」というページを設けた（平成 25 年 8 月 6 日設置済）。

「学習に役立つ富山市の取組み」

「わたしたちのくらしと税」
（納税課）

「美しい富山」
（環境センター）

「水とわたしたち」
（上下水道局）

「富山市のりもの語り教育」
（交通政策課）

④持続発展教育（ESD）との連携

持続発展教育（ESD）は、「今と未来を生きるすべての人々のことを考え、よりよい社会づくりにかかわろうとする心と態度を育てる」を目的としている。富山市のりもの語り教育と持続発展教育（ESD）の考え方は、重なる部分がある。既に一定の普及啓発に成功している持続発展教育（ESD）と連携し、「富山市学校教育指導方針」の持続発展教育のページに富山市のりもの語り教育に関する内容を掲載する。

【普及啓発のための取り組み概要】

	取り組み① 新組織の設立	取り組み② 実践校への支援	取り組み③ 富山市教育センターHPでの情報発信	取り組み④ 持続発展教育（ESD）との連携
教員への普及啓発、学習プログラムの質の維持・向上	・教員の参加 ・実践授業の開催 ・学習プログラム 見直し・データ更新	・印刷費や支援制度への申請サポート等	・各種情報の提供	・ESDの既存普及啓発方法との連携
保護者を含めた市民への普及啓発	―	―	・各種情報の提供	―

（３）普及啓発の成果把握

新組織が担う「富山市モビリティ・マネジメント教育の普及啓発」について、以下の２つの点から定量的に成果を把握する。

評価指標①：富山市モビリティ・マネジメント教育の実践校の数
評価指標②：富山市教育センターHP、富山市交通政策課HPへのアクセス数
評価指標③：富山市へ支援依頼を行った小学校の数

【協議点】　・支援終了後の実施計画 普及啓発の取り組みについて
・普及啓発の成果把握の方法について

５．協議会規約の全部改正について　【協議事項】

（１）改正趣旨

本規約は、交通環境学習の内容等を検討し、市内の小学校における交通環境学習を実施することにより、一人ひとりが社会、環境等にやさしい交通手段を見直し、自発的に行動する人間を育てる「モビリティ・マネジメント教育」を推進するため、平成２３年１０月に制定した。

今年度をもって交通環境学習プログラムが完成することになり、今後は、市内小学校において交通環境学習を普及・拡大していくための啓発活動及び推進体制の組織づくりが急務である。

さらに、児童が持続可能な交通について学習し、公共交通を身近に感じてもらうことを教える側の教師が平易に、親しみやすく捉えることができるように、従来の「モビリティ・マネジメント教育」の名称を、乗り物（の魅力）を語っていく「のりもの語り教育」に改めるとともに、新年度に向けて、「のりもの語り教育」の普及・推進を図っていくための組織体制（富山市のりもの語り教育推進協議会）を構築したい。

このことから、のりもの語り教育を持続的かつ円滑なものとするため、規約の全部を改正するもの。

（２）協議会概要

①名　称：「富山市のりもの語り教育推進協議会」
②ﾒﾝﾊﾞｰ：富山市小学校教育研究会社会科の部及び総合的学習の時間の部会長
　　富山市小学校教育研究会が推薦する者
　　交通環境学習を実施する学校の教員
　　その他富山市教育委員会が推薦する者
③協議内容：実践授業の実施、学習プログラムの検討、教員への普及啓発など
④開催回数：年３回程度（予定）
⑤庶　務：教育委員会（学校教育課）と交通政策課との合同事務局で行う。

（３）参考資料

①富山市のりもの語り教育推進協議会規約
②富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会規約の全部改正新旧対照表

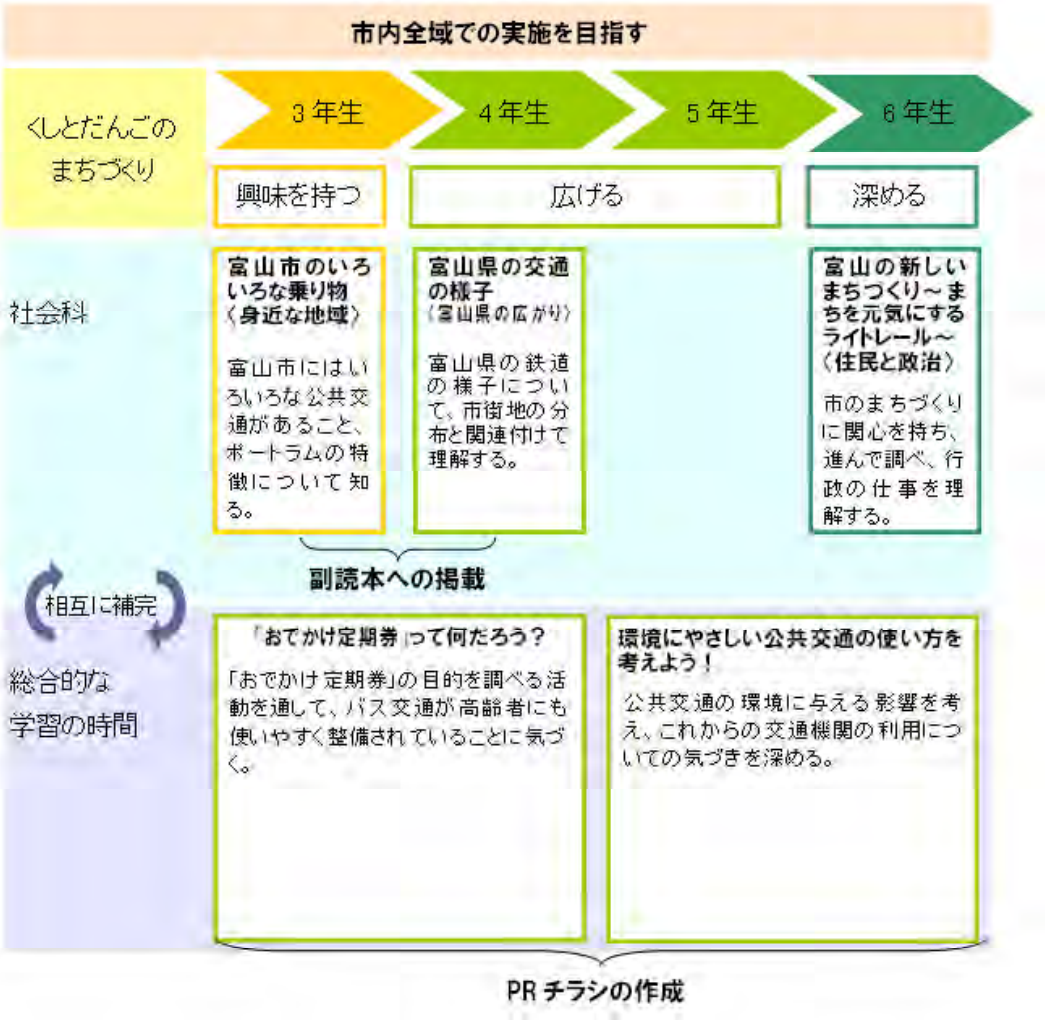
【協議点】　・規約の改正内容について

６．検討項目１：学習プログラムの企画・実施　【報告事項】

（１）４年間の学習ステップ

3～6 年生の 4 学年においてステップを踏みながら市内全域での実施を目指す。

3・4 年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』に掲載する。また、教員が取り組むきっかけをつくるため、学習プログラムの概要や教科との関連付けを掲載した PR チラシを作成する。



【平成 25 年度の取り組み内容】

教科	学年	学習プログラム	平成 25 年度
社会科	３年生	富山市のいろいろな乗り物	・公開授業を実施、確立
	４年生	富山県の交通の様子	・公開授業を実施、確立
	５年生	―	※来年度以降に企画
	６年生	富山市の新しいまちづくり	・公開授業を実施、確立
総合的な学習の時間	３～４年生	「おでかけ定期券」って何だろう？	・公開授業を実施、確立
	５～６年生	環境にやさしい公共交通の使い方を考えよう！	・学習プログラムの企画 ・公開授業を実施、確立

（２）社会科　３年生の学習プログラム

①実施結果

ⅰ）実施概要

実　　施　　日：平成 25 年 5 月 22 日（水）1 時限

実　施　場　所：五福小学校

実　　施　　者：松村教諭

対 象 校 ・ 学 年：五福小学校 3 年 2 組

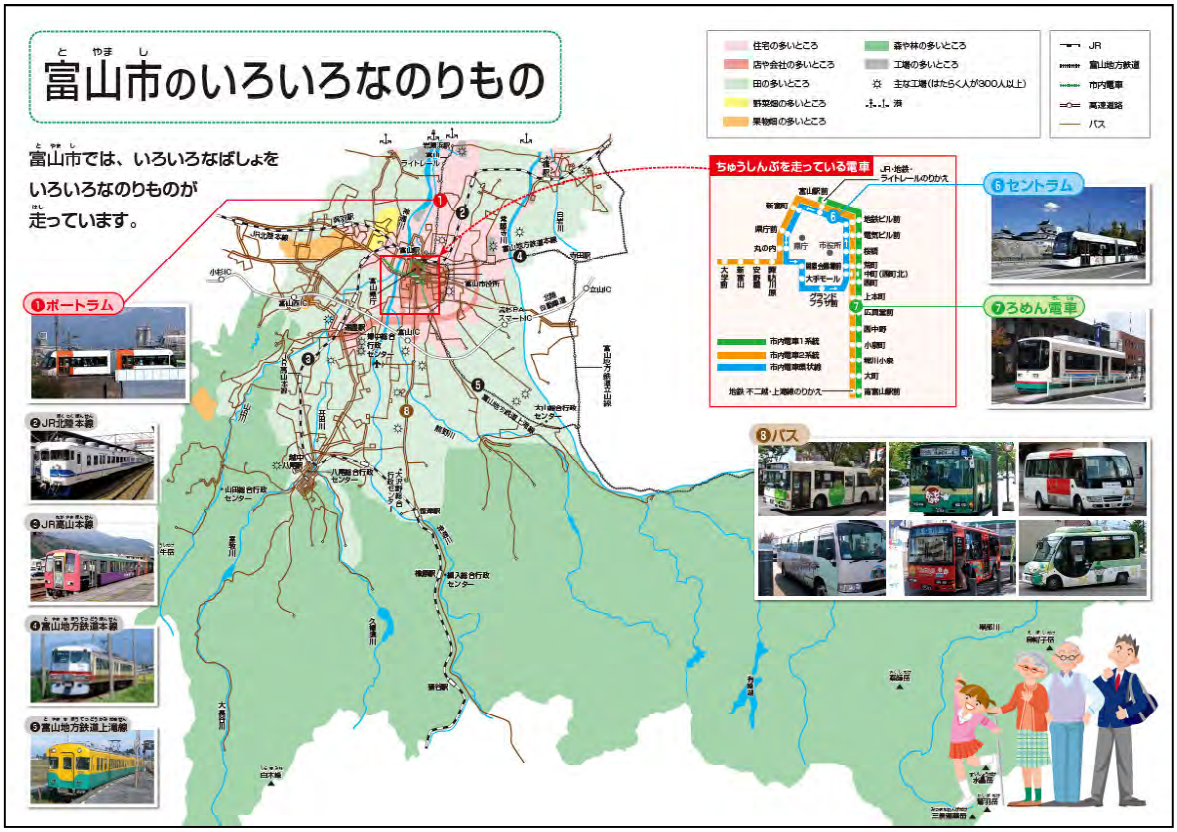
学習プログラム：富山市のいろいろな乗り物

ⅱ）学習プログラム内容

プログラム名	「富山市のいろいろな乗り物」
学習のねらい	・富山市にはいろいろな公共交通があることやポートラムの特徴を知り、公共交通に興味を持つ。
時限数	・1 時限
学習内容	・公共交通と土地利用が結びついていて、富山市にはさまざまな公共交通があることや富山市を代表するポートラムの特徴について知ることにより、自分たちの住む地域や公共交通への愛着を深めることを目指す。 ①富山市のいろいろな公共交通 ②くしとだんごのまちづくり（6 年生で学習するため簡易的に） ③ポートラムの特徴（富山市の代表的な公共交通として選定）

ⅲ）授業風景

ⅳ）児童用パンフレット



Ａ３　外面

Ａ３　中面

②評価

ｉ）児童への意識変化アンケート結果

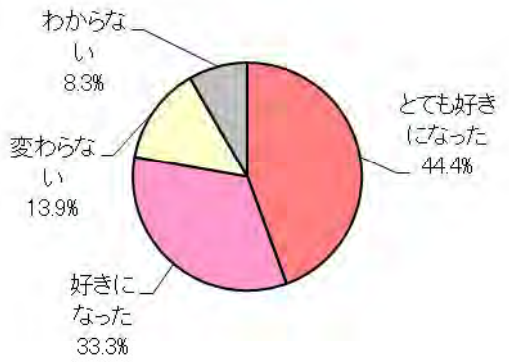
学習プログラム実施後、全児童に対してアンケートを実施した。以下の全学習ステップにおいて、約８割の児童が「とても好きになった・とても思う」、「好きになった・思う」と回答しており、学習効果が見られる。

学習ステップ１：公共交通を好きになる

問1. 授業をうけて、バス、電車、ポートラムやセントラムを好きになりましたか？（N=36）

項目	件数	割合
とても好きになった	16	44.4%
好きになった	12	33.3%
変わらない	5	13.9%
きらいになった	0	0.0%
すごくきらいになった	0	0.0%
わからない	3	8.3%
合計	36	100.0%

77.8%

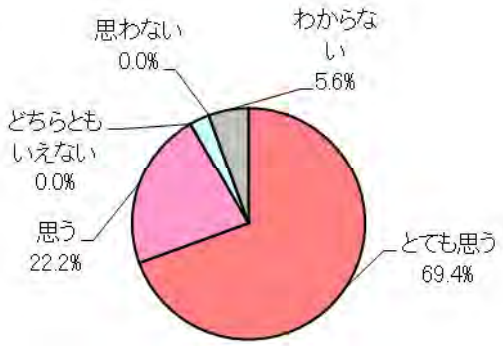


学習ステップ２：公共交通を利用したいと思う

問2. 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムに乗りたいと思いましたか？（N=36）

項目	件数	割合
とても思う	25	69.4%
思う	8	22.2%
どちらともいえない	0	0.0%
あまり思わない	1	2.8%
思わない	0	0.0%
わからない	2	5.6%
合計	36	100.0%

91.7%

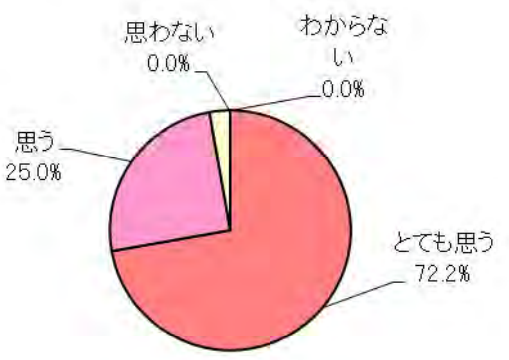


学習ステップ３：環境や社会のことを考え、公共交通の大切さを理解する

問3. 授業をうけて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いましたか？（N=36）

項目	件数	割合
とても思う	26	72.2%
思う	9	25.0%
どちらともいえない	1	2.8%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	0	0.0%
わからない	0	0.0%
合計	36	100.0%

97.2%



ⅱ）検討部会でのご意見

・授業時間は、1時限で良い。
・まず生活体験の共有を行い、そこからいろいろな乗り物すなわち公共交通があるということ、公共交通は高齢者などの車を運転できない人達も乗ることができる乗り物である（福祉面）ということを学び、その一例としてポートラムを取り上げて知識をつけるという流れとする。
・3年生は社会科初習の年である。そのため、3年生の5月時点では理解することが難しい部分がある。授業の実施時期を7月頃にすれば児童が本プログラムの内容をより理解できる可能性がある。

③完成版

※別紙参照

（３）社会科　４年生の学習プログラム

①実施結果

ⅰ）実施概要

実　　施　　日：平成 25 年 10 月 29 日（火）1 時限
実　施　場　所：八尾小学校
実　　施　　者：古井教諭
対 象 校 ・ 学 年：八尾小学校 4 年生 1 クラス
学習プログラム：「富山県の広がり」

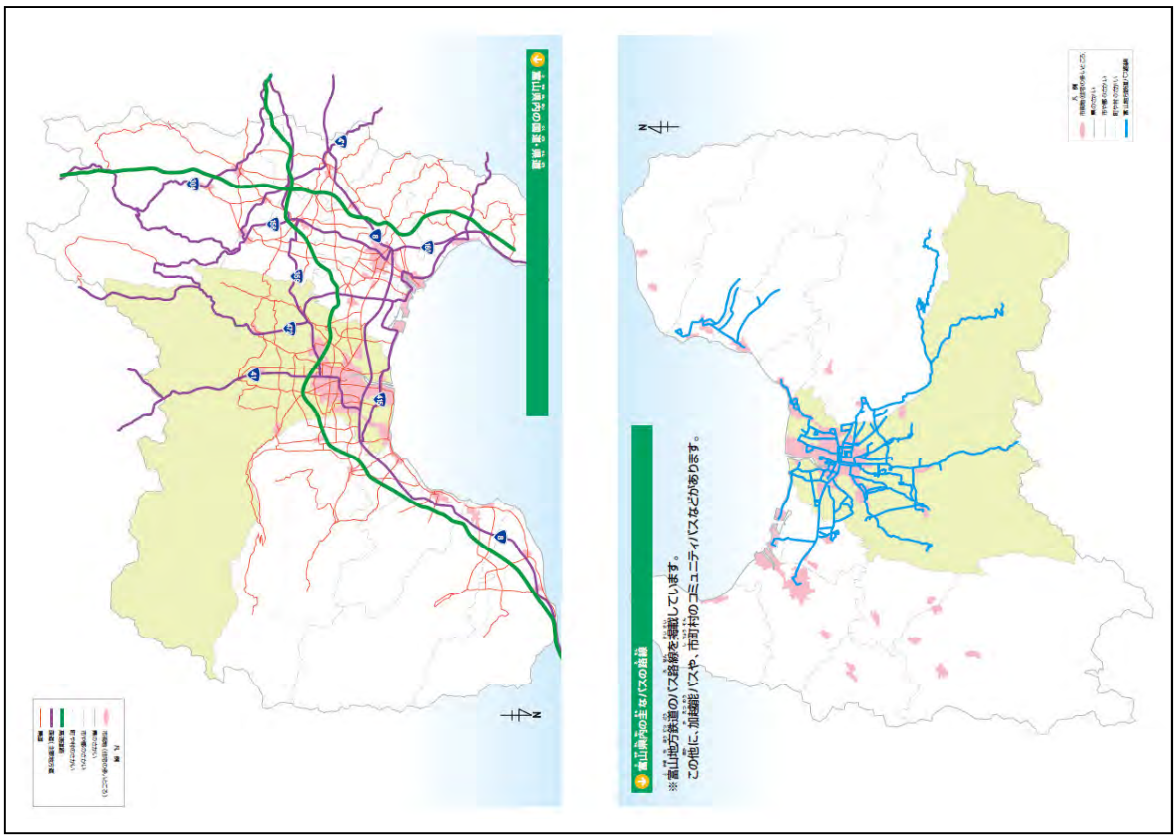
ⅱ）学習プログラム内容

プログラム名	「富山県の広がり」
学習のねらい	・校外学習を行う設定で、富山市から高岡市への移動方法を考えるなかで富山県の交通網について学習する。
時限数	・9 時限
学習内容	・高岡市へ校外学習に行くという設定で、富山市から高岡市への移動方法を考える。 ・富山県の位置を理解し、富山県内の市の名称や土地利用の様子、交通の様子を学習する。その後、富山市から高岡市へ移動するための交通手段や経路を考え、児童が自分達で郊外学習の計画を立てる。

ⅲ）授業風景

ⅳ）児童用パンフレット

A３　外面



A３　中面

②評価

ｉ）児童の意識変化アンケート結果

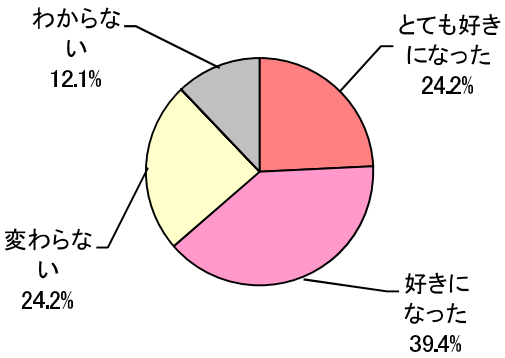
学習プログラム実施後、全児童に対してアンケートを実施した。以下の学習ステップにおいて、学習ステップ１を除いて８割以上の児童が「とても好きになった・とても思う」、「好きになった・思う」と回答しており、学習効果が見られる。

学習ステップ１：公共交通を好きになる

問1. 授業をうけて、バス、電車、ポートラムやセントラムを好きになりましたか？（N=33）

項目	件数	割合
とても好きになった	8	24.2%
好きになった	13	39.4%
変わらない	8	24.2%
きらいになった	0	0.0%
すごくきらいになった	0	0.0%
わからない	4	12.1%
合計	33	100.0%

63.6%

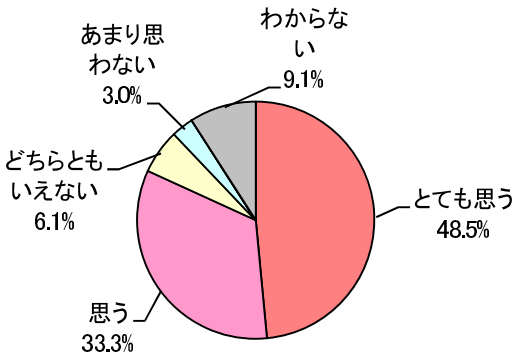


学習ステップ２：公共交通を利用したいと思う

問 2. 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムに乗りたいと思いましたか？（N=33）

項目	件数	割合
とても思う	16	48.5%
思う	11	33.3%
どちらともいえない	2	6.1%
あまり思わない	1	3.0%
思わない	0	0.0%
わからない	3	9.1%
合計	33	100.0%

81.8%

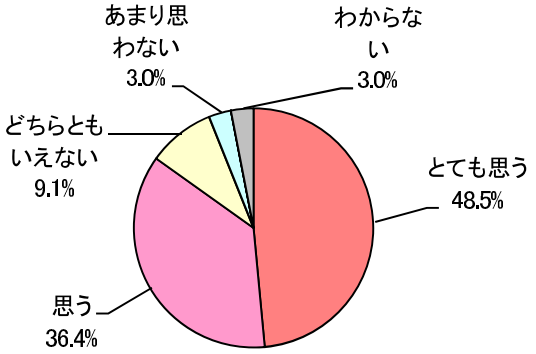


学習ステップ３：環境や社会のことを考え、公共交通の大切さを理解する

問3. 授業をうけて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いましたか？（N=33）

項目	件数	割合
とても思う	16	48.5%
思う	12	36.4%
どちらともいえない	3	9.1%
あまり思わない	1	3.0%
思わない	0	0.0%
わからない	1	3.0%
合計	33	100.0%

84.8%



ⅱ）検討部会でのご意見

・モビリティ・マネジメント教育の内容を校外学習に組み込んで考えるのは面白い。
・校外学習に行くために交通手段を考えるという流れは必然性が感じられるので良い。ただし、マイカーが交通手段の選択肢に入らないのが気になる。また、いろいろと検討した結果、結局は貸切バスになってしまうと児童はしらけてしまう。
・多くの小学校での実施を考えた場合、平成 24 年度実施の内容の方が適している。平成 24 年度実施の学習プログラムに微修正を加えて最終版とし、平成 25 年度実施の内容は、実践事例としてホームページに掲載する程度にする。

③完成版

※別紙参照

（４）社会科　６年生の学習プログラム

①実施結果

ⅰ）実施概要

実　　施　　日：平成 25 年 12 月 2 日（月）1 時限
実　施　場　所：五福小学校
実　　施　　者：中山教諭
対象校・学年：五福小学校 6 年生 1 クラス
学習プログラム：「富山市の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～」

ⅱ）学習プログラム内容

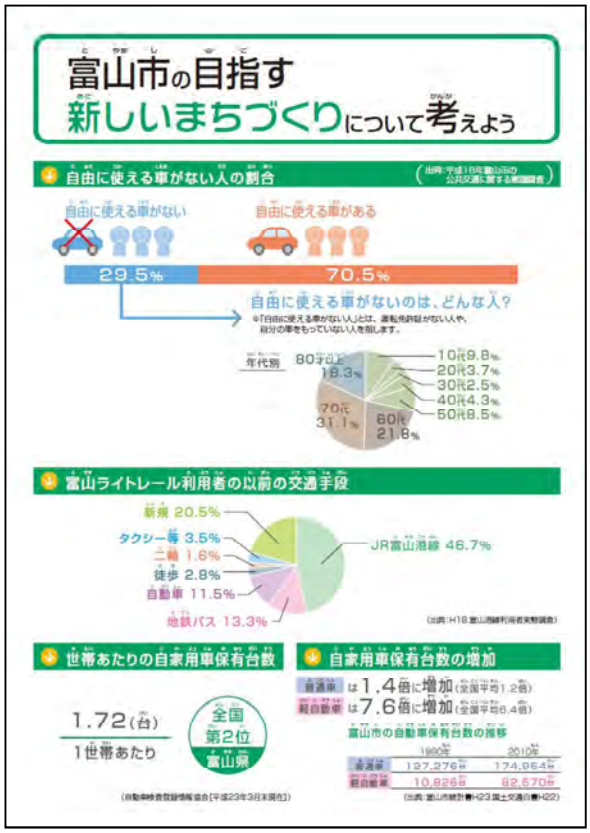
プログラム名	「富山市の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～」
学習のねらい	・ライトレールを使った富山市の新しいまちづくりについて関心をもって調べ、これからの富山市について自分なりの考えをもつ。
時限数	・3 時限
学習内容	・ライトレールが住民の願いによってつくられたことを知る。そのようにしてつくられたライトレールと富山港線の利用者数を比べ、ライトレールがつくられたことで利用者数が増えた理由を考える。その後、ライトレールを活用した富山市の新しいまちづくりについて知り、自分なりの考えをもつ。

ⅲ）授業風景

ⅳ）児童用パンフレット

Ａ４　１ページ目

Ａ３　２ページ目



Ａ４　３ページ目

富山市交通政策課

Ａ３　４ページ目

②評価

〇検討部会でのご意見

・教科書のライトレールに関する記述は、いずれなくなる可能性がある。教科書に頼らない授業構成にすると良い。

・富山港線存続については、反対派もいたと考えられる。富山港線存続の経緯については、あまり具体的に扱わず、住民の願いが実現したという事実のみ扱えば良い。

・2 時限目は、住民の願いがかなった結果、具体的に自動車を使えない人達にどのようなメリットが起こったのかを確かめる時間にすれば良い。

・「住民の願い」と「富山市の施策の意図」は別である。富山市の施策の意図は、児童に予想させるのではなく、授業のなかで提示する方が良い。

・バスに乗らなくても生活できるため、バスに乗らないという選択が将来の不便につながるということを児童に理解させることは難しい。

③完成版

※別紙参照

（５）総合　３～４年生の学習プログラム

①実施結果

ⅰ）実施概要

実　　施　　日：平成 25 年 10 月 9 日（水）1 時限
実　施　場　所：東部小学校
実　　施　　者：光里教諭
対象校・学年：東部小学校 4 年生 1 クラス
学習プログラム：「「おでかけ定期券」って何だろう？」

ⅱ）学習プログラム内容

プログラム名	「「おでかけ定期券」って何だろう？」
学習のねらい	・富山市が発行している「おでかけ定期券」の目的を調べる活動を通じて、バス交通が高齢者にも使いやすく整備されていることに気づく。
時限数	・2 時限
学習内容	・富山市が 65 歳以上の高齢者向けに発行している「おでかけ定期券」を取り上げ、そのサービスや目的について調べる。富山市のバス交通が高齢者にも使いやすく整備されているという福祉的な目的に気づき、中心市街地に人が集まることで、交通機関や中心市街地がにぎわうという交通政策の考え方にふれる。

ⅲ）授業風景

ⅳ）児童用パンフレット

Ａ３　外面

Ａ３　中面

②評価

〇検討部会でのご意見

・バスの利便性については、1時限目ではなく2時限目で取り扱う。
・児童にとって中心市街地は身近ではない。社会科3年生で既習になっているが、なぜ中心市街地に人を呼びたいかなどを改めて学習する必要がある。
・くしとだんごのまちづくりについては、モビリティ・マネジメント教育の柱であるため、強調するべきである。くしとだんごのまちづくりについての理解がされていなければ、バスの利用促進についての理解は深まらない。
・児童にとって、富山市のまちづくりについて知ることは非常に興味深く感じられるだろう。
・1時限目は福祉とまちづくりをテーマとし、2時限目に公共交通活性化をテーマとすれば良い。
・時限数は2時限のままとする。

③完成版

※別紙参照

（６）総合　５～６年生の学習プログラム

①実施結果

ⅰ）実施概要

実　　施　　日：平成 25 年 11 月 12 日（火）1 時限

実　施　場　所：呉羽小学校

実　　施　　者：堀教諭

対 象 校 ・ 学 年：呉羽小学校 6 年生 1 クラス

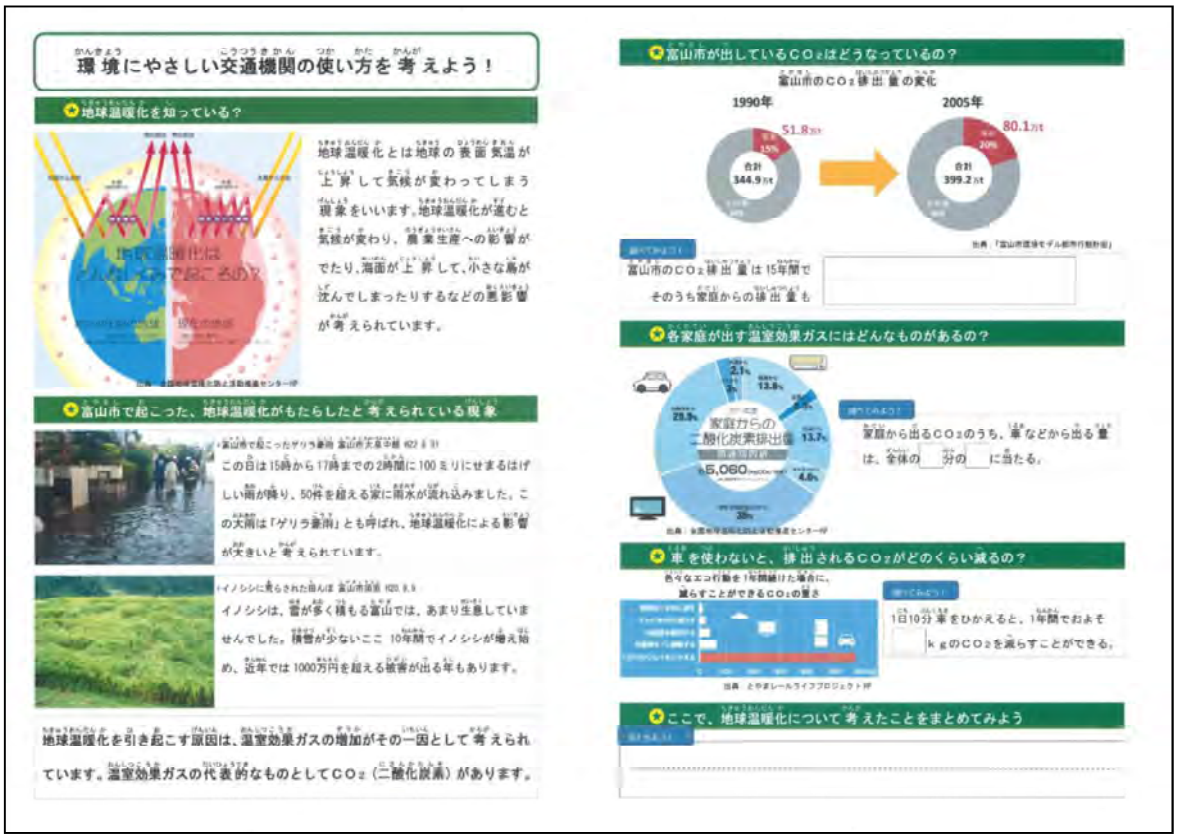
学習プログラム：「環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう！」

ⅱ）学習プログラム内容

プログラム名	「環境にやさしい交通手段の使い方を考えよう！」
学習のねらい	・公共交通の環境に与える影響を考え、自分たちの交通機関の使い方と、富山市が進めている環境にやさしいまちづくりとを関連させながら、これからの交通機関の利用についての気づきを深める。
時限数	・2 時限
学習内容	・地球温暖化と児童の生活との関連を知り、富山市における地球温暖化の影響を確かめる。富山市全体や各家庭が出している二酸化炭素量、クルマの利用をひかえることで減らせる二酸化炭素量について調べる。クルマから排出される二酸化炭素量を減らすためにできることを考え、自分達の家庭で取り組めそうな内容を考える。 ・考えた二酸化炭素量を減らす方法について児童が家族に取材し、取材結果からわかることを話し合う。そのうえで、富山市が取り組んでいる環境にやさしいまちづくりについて知る。

ⅲ）授業風景

ⅳ）児童用パンフレット



Ａ３　外面

Ａ３　中面

②評価

ｉ）児童の意識変化アンケート結果

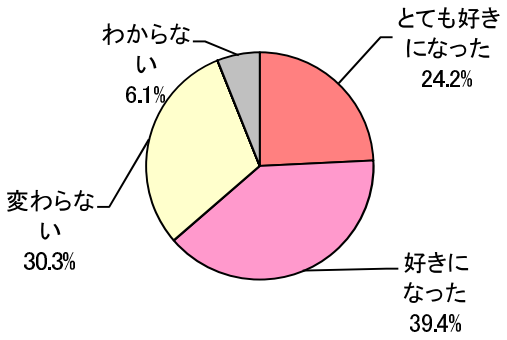
学習プログラム実施後、全児童に対してアンケートを実施した。以下の学習ステップにおいて、学習ステップ１を除いて７割以上の児童が「とても好きになった・とても思う」、「好きになった・思う」と回答しており、学習効果が見られる。

学習ステップ１：公共交通を好きになる

問1. 授業をうけて、バス、電車、ポートラムやセントラムを好きになりましたか？（N=33）

項目	件数	割合
とても好きになった	8	24.2%
好きになった	13	39.4%
変わらない	10	30.3%
きらいになった	0	0.0%
すごくきらいになった	0	0.0%
わからない	2	6.1%
合計	33	100.0%

63.6%

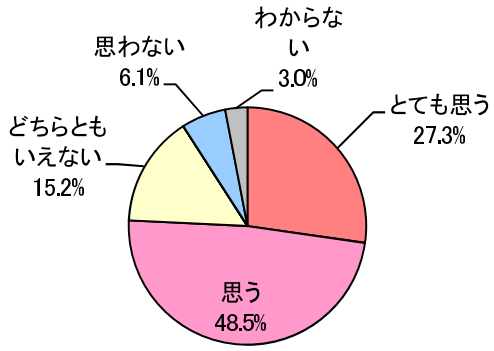


学習ステップ２：公共交通を利用したいと思う

問 2. 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムに乗りたいと思いましたか？（N=33）

項目	件数	割合
とても思う	9	27.3%
思う	16	48.5%
どちらともいえない	5	15.2%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	2	6.1%
わからない	1	3.0%
合計	33	100.0%

75.8%

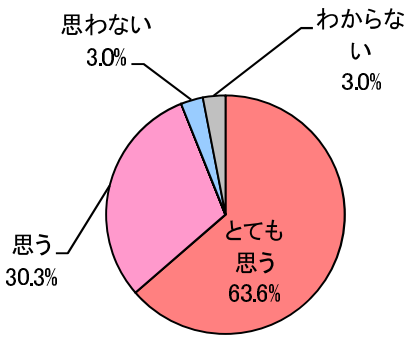


学習ステップ３：環境や社会のことを考え、公共交通の大切さを理解する

問3. 授業をうけて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いましたか？（N=33）

項目	件数	割合
とても思う	21	63.6%
思う	10	30.3%
どちらともいえない	0	0.0%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	1	3.0%
わからない	1	3.0%
合計	33	100.0%

93.9%



ⅱ）検討部会でのご意見

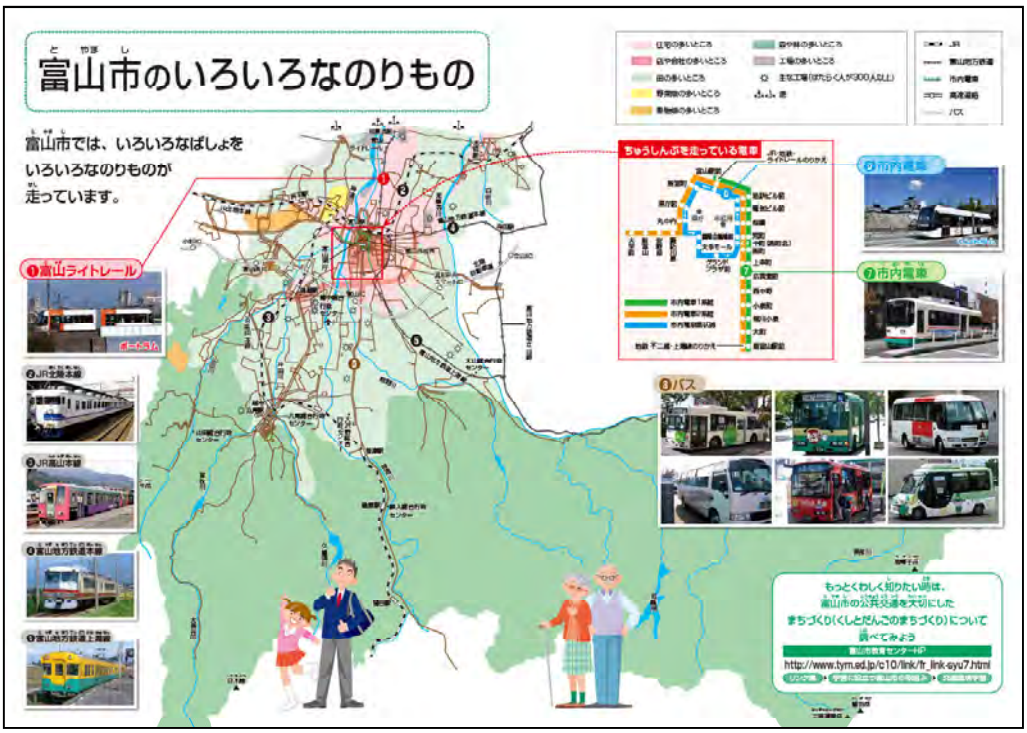
・今回の授業では、「地球温暖化を防ぐためには自家用車の利用をひかえる」という結論に向けて既に道筋が決まっており、児童が自ら考えられる部分が少ないように感じた。
・資料で取り上げられている地球温暖化の事例を児童は身近に感じることができていない。二酸化炭素量の話においても、何万トンという数字の意味はわかるが、それが自分達の生活に与える影響までは感じられていない。
・環境の知識を身につけることではなく、環境について児童が課題を追及することが重要である。アヴィレを入口として、富山市の施策について自分で考える構成にすることが考えられる。
・二酸化炭素量削減の必要性が児童も理解している。削減のためにできることを考える際、1日10分クルマをひかえることによる二酸化炭素量の削減効果を強調すると良い。

③完成版

※別紙参照

（7）副読本への掲載

平成26年度版の3・4年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』に、富山市モビリティ・マネジメント教育に関する内容を掲載する。

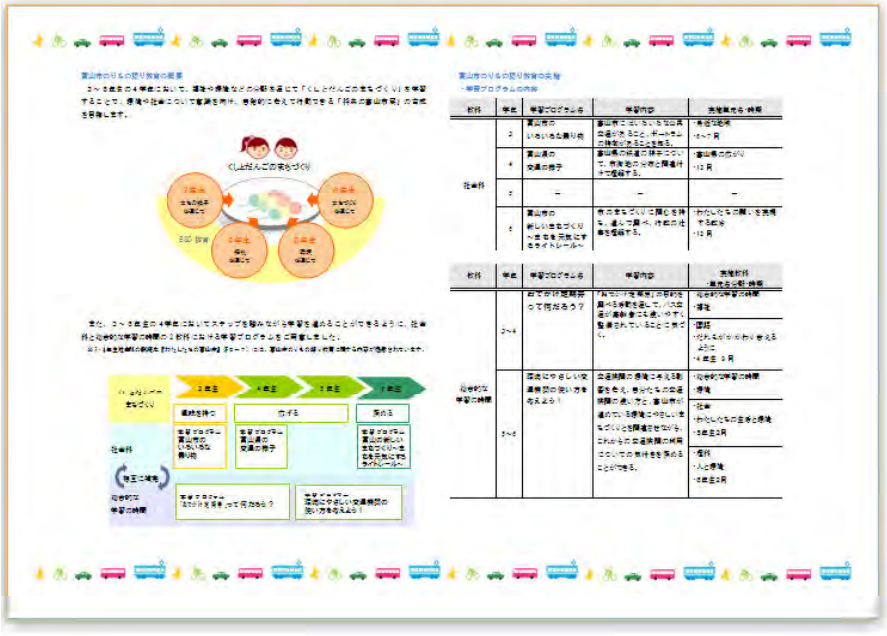


掲載内容（見開き2ページ）

（８）PR チラシの作成

教員が取り組むきっかけをつくるため、学習プログラムの概要や教科との関連付けを掲載した PR チラシを作成する。作成した PR チラシは、富山市 HP へ掲載するとともに、校長会での配布や、市内全小学校への郵送を行う。

Ａ３　外面



Ａ３　中面

７．検討項目２：教員への普及啓発　【報告事項】

富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラムを市内全域で継続的に実施するために、さまざまな方法で教員に事業をＰＲする。以下の３つの方法で普及啓発に取り組んだ。

知っていただき興味をもってもらう	方法１ ワークショップの開催	市内全小学校の教員を対象としたワークショップを開催し、モビリティ・マネジメント教育推進事業や学習プログラムを幅広く知っていただく。
▼		
知っていただき実施につなげる	方法２ 社会科と総合的な学習の時間の部会でのPR	学習プログラムを実施する教員に知っていただき実施につなげる。
▼		
ファンになってPRしていただく	方法３ 教員の先進地視察	実際の授業風景を見て、モビリティ・マネジメント教育への理解を深めていただき、他の教員にPRをしていただく。

普及啓発の３つの方法

（１）ワークショップの開催

①公開授業の開催に合わせたワークショップの開催

公開授業の開催に合わせたワークショップを開催した。公開授業に合わせてワークショップが開催され、検討部会のメンバーである教員に加え、公開授業が実施された学年と同じ学年を受け持つ社会科部会や総合的な学習の時間部会の教員数名が参加した。

開催日時	開催場所	参加者数	公開授業
平成 25 年 5 月 22 日（水）	五福小学校	17 名	社会科 3 年生
平成 25 年 10 月 9 日（水）	東部小学校	13 名	総合 3～4 年生
平成 25 年 10 月 29 日（火）	八尾小学校	11 名	社会科 4 年生
平成 25 年 11 月 12 日（火）	呉羽小学校	12 名	総合 5～6 年生
平成 25 年 12 月 2 日（月）	五福小学校	13 名	社会科 6 年生

平成 25 年 5 月 22 日(水)

平成 25 年 10 月 9 日(水)

平成 25 年 10 月 29 日(火)

平成 25 年 11 月 12 日(火)

平成 25 年 12 月 2 日(月)

②市内全小学校教員を対象としたワークショップの開催

堀川小学校で持続発展教育（ESD）の実践発表会が行われ、富山市モビリティ・マネジメント教育に関する公開授業や研究協議会が開催された。研究協議会において、富山版モビリティ・マネジメント教育に関する取り組み紹介等を行った。

1　日時：平成２５年１１月１日（金）13:10～16:40

2　日程

12:40	13:10	13:50	14:15	15:00	15:15	16:35	16:40
受　付 12:40～13:00 【正面玄関】 【４年玄関】	児童集会 【体育館】	移動・休憩	公開授業 【各会場】	移動・休憩	研究協議会 指導助言 【各会場】		校長 挨拶

3　内容

(1)　児童集会（13:10～13:50）

児　童　集　会　の　テ　ー　マ	会　場
みんなの力を合わせよう	体育館

○　児童集会のねらい

各委員会やお世話してくださっている方の仕事を知ることにより、これまでの自分の取組みを振り返り、くらしをよりよくするために力を合わせることができる。

(2)　公開授業（14:15～15:00）

部会	教育課程	学年	授業者	単元名	授業会場
1	総合的な 学習の時間	４年	政二　亮介	富山市の公共交通	(中央棟３階) 図書室
2	総合的な 学習の時間	６年	柴山　秀範	ユネスコスクール －　わたしができること　－	(中央棟４階) 視聴覚室

(3)　研究協議会（15:15～16:35）

部会	司　会　者	指導助言者	協議会場
1	滑川市立寺家小学校 教頭　広田　積芳　先生	富山大学人文学部 准教授　大西　宏治　先生	(中央棟３階) 図書室
	協議題 仲間の考えを契機に自分と公共交通とのかかわりを顕在化させる過程で、自分にとっての公共交通の見方や考え方をどのようにみつめることができたか。		
2	富山市立古里小学校 教頭　荒田　修一　先生	富山大学人間発達科学部 教授　松本　謙一　先生	(中央棟４階) 視聴覚室
	協議題 よりよい未来に向かって、身近なことから自分ができることを聞き合うことを通して、ユネスコスクールの一員として大切にしていきたいことをどのようにみつめることができたか。		

１） 公開授業

総合的な学習の時間（４年） 単元名 富山市の公共交通

(1) 単元の趣旨

富山市の公共交通機関の種類や交通網の様子から、既習の知識や経験をもとにしながら気になることを、調査・見学したり、資料の活用をして調べたりする中で、自分や社会における問題を見いだし、解決に向けて取り組んでいくことで、富山市の公共交通の役割や在り方を考えていく。

また、仲間の考えや様々な立場の思いや願いから、今後の富山市の公共交通とまちづくりとの関係についても理解を深めていく。その過程で、環境や社会、経済などの側面から富山市の目指す新たなまちづくりへのかかわり方や自分のくらしの中で利用する交通手段を見直すなど、地域社会の一員としての態度が養われていくと考える。

(2) 総合的な学習の時間の目標とＥＳＤで育てたい力との関連

		総合的な学習の時間の目標				
		追究の方途	自分自身		他者や社会	
		課題を設定し、自分の考えをもち、解決に向けて取り組む	これまでの自分自身の在り方	これからの自分自身の在り方	仲間や様々な立場の方とのかかわり	社会的事象の意味や関係
ＥＳＤで育てたい力	ア	・ 公共交通の利用者や公共交通が走る地域の様子など関連付けながら、公共交通の役割について問題を発見し、考えていくことができる。	・ 公共交通と自分とのかかわりを想起し、その役割や意味を考えることができる。	・ 公共交通の役割や価値を見いだし、今後の公共交通との付き合い方を考えることができる。	・ 仲間の考えや様々な立場の思いや願いから、公共交通の役割や価値を考えることができる。	・ 利用する年齢や職業、地域の様子の実態から公共交通の役割や価値を考えることができる。
	イ	・ 将来を見通し、社会問題や様々な立場の思いや願いから、富山市の公共交通の役割や目指すまちづくりとの関係を見いだすことができる。		・ 公共交通の充実に向けて、自分がどのようにかかわっていくかを具体的な方法で表現していこうとする。		・ 公共交通と富山市のまちづくりとの関係を環境や社会、経済の側面から理解することができる。
	ウ	・ インタビューやアンケートをとるなど、課題解決に向けた対象や方法を選び、かかわっていくことができる。			・ 仲間や様々な立場の考えから多面的にとらえ、富山市の公共交通とまちづくりとの関係に対する見方・考え方を顕在化する。	
	エ	・ 公共交通とまちづくりとの関係ついて理解を深めることで、公共交通の役割や充実を考え、富山市のまちづくりに積極的にかかわったり、生かそうとしたりする。	・ 課題解決に向けての方法を粘り強く計画したり、実行したりしていくことができる。	・ 公共交通の役割や価値を理解し、自分の生活に合わせて交通手段を考えながら利用することができる。	・ 公共交通を利用する人々の年齢、職業、そのくらしぶりなどを理解し、様々な立場の人を考えながら、共に生活していこうとする。	

2）研究協議会

研究協議会では、参加した先生方から以下のようなご意見が出された。

・児童のモチベーションが高かった。自分の足で調べ活動を行い、自分の気持ちとして公共交通が大切であると感じていた。
・調べ活動として児童自身が問題意識を持ったことが重要である。児童の疑問に持った点を大切にしている。児童自身が気になる点は、児童の生活に関わりのある点である。調べ活動の方法は、どのような調べ方が良いかを児童と相談して決定した。市電近くに住んでいる児童は、市電に愛着を持っている。しかし、その児童は市電に乗車するという行動にまでは至っていなかった。（授業者）

公開授業

研究協議会

富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業について

1．モビリティ・マネジメント教育推進事業概要

（1）モビリティ・マネジメントとは

モビリティ・マネジメント(Mobility Management、略称 MM)とは、道路や環境、みるいは個人の健康等の問題に配慮して、過度に自動車に頼る状態から公共交通や自転車などを『かしこく』使う方向へと自発的に転換することを促す、一般の人々や様々な組織・地域を対象としたコミュニケーションを中心とした持続的な一連の取り組みのことを意味する。具体的には、コミュニケーション施策を中心として、様々な運用施策、システムの導入や改善、それらの実施主体の組織の改編や新たな組織の創出などを実施しつつ、持続的に展開していく一連の取り組みを意味するもの。

日本モビリティ・マネジメント会議より

（2）モビリティ・マネジメント教育とは

私たち一人ひとりの移動手段や社会全体の交通を『人や社会、環境にやさしい』という観点から見直し、改善していくために自発的な行動を取れるような人間を育てることを目指した教育活動のこと。（＝交通環境学習）

モビリティ・マネジメント教育 教育実践検討委員会より

（3）モビリティ・マネジメント教育推進事業の目的

自動車依存が高い富山市では、生活に身近な公共交通が衰退を続けた結果、自動車を自由に使えない人々にとって大変暮らしにくい街となっている。誰もが暮らしやすい街にするためには、環境や社会について意識を向け、クルマと公共交通をバランスよく利用できるように小学生という早い段階から意識醸成を図ることが効果的である。

このため富山市では、小学校3～6年生を対象に、交通と福祉や環境に関する意識の醸成を促すため富山版交通環境学習プログラムを確立し、学習を展開している。一昨年度から3ヵ年は、交通エコロジー・モビリティ財団の支援を受け検討を行い、平成26年度から07企画的な授業の実施を目指す。

平成24年度　富山市立五福小学校で開催された交通環境学習の様子

2．学習プログラムの企画・実施について

市内の小学校教諭が主体となり、学習プログラムを検討。また、学校関係者、学識・有識者のご協力のもと、学習プログラムの確立に向けた模擬授業を企画・実施し、モビリティ・マネジメント教育の普及に取り組んでいる。

（1）平成２３年度の取り組み

①「くしとだんごのまちづくり」（市職員、株計画情報研究所）

②「富山の交通とくらし～富山市のおでかけバスって知ってる？」

（玉川大学　教授　寺本　尚　氏）

（2）平成２４年度の取り組み

①「くしとだんごのまちづくり」（富山市立五福小学校　藤井佳人　教諭）

②「おでかけ定期券って何だろう？」（富山市立東部小学校　舟川宗吾　教諭）

③「富山県の交通の様子」（富山市立速星小学校　津幡和英　教諭）

④「富山の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～」

（富山市立五福小学校　藤嶋広樹　教諭）

（3）平成２５年度の取り組み

①「富山市のいろいろなのりもの」（富山市立五福小学校　松村清重　教諭）

②「おでかけ定期券って何だろう？」（富山市立東部小学校　光里　誠　教諭）

③「富山県の交通の様子」（富山市立速星小学校　古井保子　教諭）

④「環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう」（１１月１２日(火)実施予定）

⑤「富山の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～」

富山市教育センターと富山市のホームページに、使用した教材や指導案を掲載しています。

富山市教育センター
「リンク集」→「学習に役立つ富山市の取組み」内
ホームページアドレス　http://www.tym.ed.jp/c10/Link/fr_link-syu7.html

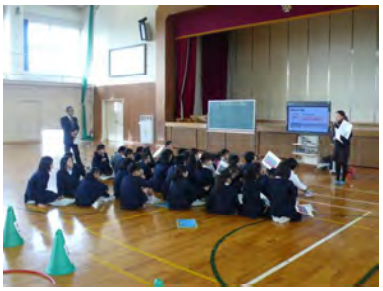
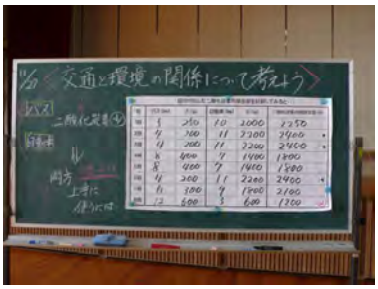
富山市　「交通政策課からのご案内」→「モビリティ・マネジメント」

お問い合わせ先　交通政策課　℡４４３－２１９５

富山版モビリティ・マネジメント教育に関する取り組み紹介資料

（２）教員の先進地視察

○金沢市立新神田小学校における金沢版交通環境学習

視察者	渡辺純恵（検討部会メンバー、富山市立東部小学校教諭） 富山市職員
実施日時	平成 25 年 11 月 27 日（水）10:35～12:15
実施学年	5 年生 1 クラス（37 名）
授業実施者	教員　1 名 金沢市歩ける環境推進課職員　3 名 コンサルタント　2 名
授業内容	○1限目　金沢市の交通について、交通すごろく 　金沢市におけるバスについてスライドを見た後、交通すごろくのゲームを通じて環境や社会に配慮したより良い交通手段の選択方法について考える。  ○2 限目　交通と環境に関する学習 　地球温暖化と交通の関係についてスライドを見た後、すごろくゲームで選択した交通手段による二酸化炭素排出量を計算させ、エコ活動として車の利用を控えることが効果的であることを考える。 

（３）その他

①富山市教育委員会との連携

「富山市学校教育指導方針」の持続発展教育（ESD）のページに富山市のりもの語り教育に関する情報を掲載する。

②校長会でのＰＲ

平成 24 年度に引き続き、平成 25 年度も 5 月の校長会でのＰＲを実施した。当初、3 月にも実施予定であったが、年度明けの 4 月の校長会での PR に変更する。

③富山市教育センターHP での情報発信

富山市教育センターの HP 上で、富山版交通環境学習に関する説明や学習プログラムのパッケージ一式について情報発信を行う。

８．検討項目３：保護者を含めた市民への啓発活動　【報告事項】

（１）とやまレールライフ・プロジェクトとの連携

とやまレールライフ・プロジェクトと連携し、各種メディアを活用して富山市モビリティ・マネジメント教育に関する情報発信を行った。とやまレールライフ・プロジェクトのホームページや Facebook（フェイスブック）を活用して公開授業等の取り組み内容の発信を行った。

ホームページを活用した情報発信

Facebook を活用した情報発信

（２）まちなかの各種施設との連携

富山市民が公共交通を身近に感じ、普段のクルマの使い方を見直す機会となることを目指し、まちなかの各種施設や公共交通機関と連携して子どもと保護者を対象とした「とやま公共交通ふれあいデー」を開催した。

①チラシ

②実施風景

交通すごろく 1

交通すごろく 2

交通すごろく 3

チャックパーク

紙芝居朗読会 1

紙芝居朗読会 2

路面電車 100 周年記念展示
・専門学芸員による解説

MM教育の取組展示

鉄道模型の展示

中井精也氏による講演会

ミニトーク 1

ミニトーク 2

セントラム乗車＆写真撮影会 1

セントラム乗車＆写真撮影会 2

セントラム乗車＆写真撮影会 3

③新聞掲載記事

１）９月３０日（月）　北日本新聞

■公共交通賢い利用考える

「とやま公共交通ふれあいデー」が29日、富山市民プラザで開かれ、家族連れらが紙芝居やゲームなどを通じて＝写真、車と公共交通の賢い利用法について考えた。

公共交通の利用促進を図ろうと市交通政策課が初めて企画。子どもたちは車と市電環状線「セントラム」の利便性を学ぶか、「交通すごろく」を楽しんだほか、新幹線や観光列車「ダブルデッカーエキスプレス」が走る鉄道模型に見入った。

転芝居では、バスで席を譲り合う乗客の心温まる物語を紙芝居で聞かせた。鉄道写真家、中井精也さん（東京）による講演会と撮影講習会もあった。

２）９月３０日（月）　富山新聞

鉄道模型やゲーム

公共交通に触れる

富山でふれあいデー

富山市交通政策課の「とやま公共交通ふれあいデー」＝写真＝は29日、同市民プラザで初めて開かれた。来場者は鉄道模型の展示や交通すごろくを楽しみ、市内電車やバスの便利さ、車両の魅力に触れた。

とやま鉄道模型ぐらぶ（富山市）が用意したサンダーバード、はくたか、ダブルデッカーエキスプレスなどの機模型も並んだ。鉄道写真家中井精也さん（東京）と福田裕彦富山地方鉄道専務、京田憲明市都市整備部長によるトークも行われた。

平成２５年度
第２回　富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会
議事録

日　時：平成 26 年 2 月 20 日（木）10：30～12：00

場　所：富山市役所 8 階　805 会議室

委員：

所属	氏名
金沢大学 理工研究域 環境デザイン学系　教授	高山　純一
玉川大学 教育学部 教育学科　教授	寺本　潔
筑波大学 大学院 システム情報系　准教授	谷口　綾子
富山市立五福小学校　校長	柳内　誠治
富山市小学校教育研究会 社会科部会　部長	青山　寿夫
富山市小学校教育研究会 総合的な学習の時間部会　部長	堀江　修
富山市教育委員会 学校教育課　主幹指導主事	吉藤　重弘
富山市ＰＴＡ連絡協議会　顧問	水野　雅人
国土交通省 北陸信越運輸局 交通環境部 環境課　課長	佐藤　収一

オブザーバー：

所属	氏名
交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部　部長	加藤　信次
交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部 交通環境企画課　課長代理	岡本　英晃

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課　課長	黒瀬　裕治
富山市 都市整備部 交通政策課　係長	東福　光晴
富山市 都市整備部 交通政策課　主査	室田　知美
富山市 都市整備部 交通政策課　主事	宮城　由希子
株式会社 計画情報研究所　研究員	大西　友世
株式会社 計画情報研究所　研究員	大西　哲平

次　第：

１．開会

２．議事

（１）支援制度終了後の実施計画の策定について

（２）協議会規約の全部改正について

３．報告事項

（１）学習プログラムの企画・実施について

（２）教員への普及啓発について

（３）保護者を含めた市民への啓発活動について

４．その他

５．閉会

議事録：

１．開会

黒瀬（富山市 都市整備部 交通政策課　課長）

本日はお忙しいなかご出席いただき、ありがとうございます。また日頃より、富山市の行政についてご理解ご協力をいただいていることに対してお礼申し上げます。

富山市は、平成 26 年度の第 5 回 EST 交通環境大賞の大賞・国土交通大臣賞を受賞することとなった。平成 26 年 2 月 21 日（金）に東京で授賞式があり、森市長と私が出席する。富山市は、第 1 回 EST 交通環境大賞でも特別大賞を受賞している。今回の受賞は、その後の中心市街地公共交通沿線居住推進事業や自転車市民協働利用システム事業、モビリティ・マネジメントに関する各種事業の実績が評価された。また、富山駅高架下の LRT 空間整備への期待も含まれているとのことであった。モビリティ・マネジメントに関する各種事業への評価の詳細としては、特に交通環境学習が大きく評価されたとのことであった。皆様のご協力により受賞することができた賞である。

本日は、これまで作成を進めてきた学習プログラムを、多くの小学校で実施していただく方法などについて、皆様のご意見をいただきたい。

２．議事

高山会長

平成 26 年度の第 5 回 EST 交通環境大賞おめでとうございます。

本日の予定は、議事が 2 件、報告事項が 3 件とその他となっている。いずれもこれまで検討・協議を重ねてきた事項であるが、重要な事項であるため改めて慎重に協議したい。

（１）支援制度終了後の実施計画の策定について

事務局（東福）

（資料説明：「平成 25 年度　第 2 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会資料」3～6 頁）

高山会長

本年度をもって、交通エコロジー・モビリティ財団の支援制度は終了する。富山市モビリティ・マネジメント教育をどのようにして継続していくかは、今後の重要課題である。事業の継続はどの自治体でも直面する課題である。富山市としての対策案が東福氏より提示された。皆様のご意見を伺いたい。

佐藤委員

富山市のりもの語り教育の最終的な目的として“くしとだんごのまちづくり”の実現が掲げられている。“くしとだんごのまちづくり”とはどのようなものであるか、改めて確認したい。

事務局（東福）

富山市では公共交通と公共交通沿線居住推進地区を軸としたコンパクトなまちづくりをすすめている。公共交通を“くし”、公共交通沿線居住推進地区を“だんご”と見立てて“くしとだんごのまちづくり”と呼称している。

次世代の富山市民である児童に対する富山市のりもの語り教育は、“くしとだんごのまちづくり”を実現するための重要な要素である。富山市のりもの語り教育の普及により、児童が将来大人になった際、自家用車に依存せず公共交通を上手に取り入れたライフスタイルを実現することが期待される。

寺本委員

資料 4 ページ下段に掲載されている新組織「富山市のりもの語り教育推進協議会」について懸念がある。小学校教育研究会の部会長は数年おきに交代する役職であり、また部会長の任務も負担が大きい。部会長に新組織の部会長を依頼しても、どの程度の任務を行えるか未知数である。平成 26 年度以降は、社会科、総合的な学習の時間の双方が研究集会で富山市のりもの語り教育の実践発表を行い、その成果を各部会の実践報告会で発表するくらいの取組みが必要だ。富山市のりもの語り教育推進協議会のみで活動していては事業の持続的な発展は望めない。教員に新組織の取組みを PR するには、実践報告会が鍵となる。

本日は、社会科部会、総合的な学習の時間部会から部会長の先生方が参加している。少なくとも 1 年に 1 校の授業実践が必要であると考えるが、実現することは可能か。

青山委員

寺本委員の指摘通り、新組織の部会長としての任務は小学校教育研究会の部会長にとって大きなプレッシャーとなる。1 年に 1 校の授業実践の実現については、4 月の校長会で実践校の募集と決定を行うなど、意識的に取組む必要がある。

高山会長

新組織をけん引する人物がいなければ、事業の持続的な発展は望めない。

堀江委員

平成 25 年度の 1 年間、小学校教育研究会の総合的な学習の時間部会長として富山市のりもの語り教育に携わった。富山市のりもの語り教育は、児童にとって学びがいのある内容であると感じた。小学校教育研究会では平成25年度に4回の研修を行い、そのうち1回は“おでかけ定期券って何だろう？”の模擬授業を行った。このような地道な活動により、富山市のりもの語り教育のよさを教員に広めていくしかない。事業の持続的な発展についても、学習プログラム開発に携わった教員と部会長がしっかり引き継ぎを行っていくしかない。私自身も、平成 26 年度も引き続き部会長を務めるかは未定である。後任者が決まれば丁寧な引き継ぎを行わなければならないと考えている。

水野委員

富山市は、北陸新幹線開業や路面電車南北接続を今後に控えている。いくらモビリティ・マネジメントを推進しても、公共交通が不便であれば利用者は増えないだろう。“くしとだんごのまちづくり”で言えば、くしがしっかりしていないとだんごにはならない。富山市には、富山地方鉄道や富山ライトレールと協力して、さらに公共交通の利便性を高める取組みをお願いしたい。また、新組織には、交通機関関係者にも参加してもらうとよいのではないか。

高山会長

将来的に、新組織をどのようにして、意欲のある教員に引き継いでいくかが課題である。当初は、学習プログラムの開発に携わった当初メンバーの教員に参加していただくとよい。その後、当初メンバーの教員の経験や思いをどうやって新しいメンバーの教員に伝えていくかが重要である。この件については、小学校教育研究会の各部会と富山市教育委員会、富山市交通政策課の 3 者が協力していく必要がある。特に、交通政策課は指導的役割をもつ必要があるだろう。

加藤（交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部　部長）

交通エコロジー・モビリティ財団としても、当初メンバーの人事異動による組織の弱体化を懸念している。モビリティ・マネジメントのような事業は人に依存する部分が大きく、熱意のあるメンバーに替わり関心の薄いメンバーが参加するようになり、やがて事業が中止となる例もある。組織の支柱となるようなメンバーが必要である。検討していただきたい。

高山会長

私としては、柳内委員に新組織の特別顧問を引き受けていただきたい。これまでの経緯を把握しており、熱意と人望もあるため適任である。後任者の育成や事業の安定を考え、最低 5 年は務めていただいたい。

柳内委員

平成12年に開催された2000年とやま国体の準備で児童への水球の普及活動に携わったが、その際は水泳協会が活動を支えた。しかし富山市のりもの語り教育推進協議会には、活動の支えとなる組織がない。教育委員会や校長会が支えとなればよいが、難しい。特に校長会は、行政から税や自転車に関する指導を求められることへの不満があるため、今以上の要求は難しい。平成26年度以降も何らかの協力は行いたいが、特別顧問に就任しても、元校長というだけでは何の権限もない。アドバイス程度しかできないだろう。

教育委員会や校長会の協力を得られるかどうかは、森市長と富山市職員の熱意にかかっている。

高山会長

校長会の協力を得るのは難しいが、ぜひ実現させたい。富山市には失敗を恐れずに取り組んでほしい。

黒瀬（富山市 都市整備部 交通政策課　課長）

先般、富山市のりもの語り教育の普及について校長会会長にお願いをした。その際、校長会として行動するためには、教育長からの命令が必要との指摘があった。富山市としても富山市のりもの語り教育をはじめとするモビリティ・マネジメント事業には力を入れているが、市長が教育長に命令するのは強権的とみなされる恐れがあり難しい。できるだけ努力はしていきたい。

柳内委員

教育長か学校教育課長からの命令があれば学校として動くことができるが、交通政策課長からのお願いでは現場の教員は動くことができない。ぜひ粘り強く交渉していただきたい。

高山会長

平成26年度以降の富山市のりもの語り教育推進協議会の仕組みについては、委員諸君の理解が得られた。教育委員会や校長会の協力について、事務局には努力していただきたい。

（２）協議会規約の全部改正について

事務局（東福）

（資料説明：「平成25年度　第2回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会資料」7頁）

柳内委員

持続発展教育（ESD）の取組みで有名な富山大学の松本謙一教授を会長に据えるとよい。松本氏は教員からの人気も高い。

堀江委員

持続発展教育の取組みと連携するのはよい。小学校教育研究会は年々参加者が減少しており勢いがないが、持続発展教育は人気があり勢いがある。

柳内委員

小学校教育研究会の部会長には、富山市のりもの語り教育推進協議会の会長職は荷が重たい。

青山委員

小学校教育研究会の部会長は異動があるため、部会長の他に長期間にわたって継続して参加するメンバーがいるとよい。そのようなメンバーがいれば部会長の負担も少なくなる。5 年間程度は交代をしないメンバーが会長になる仕組みを作らなければ、事業の発展は見込めない。

柳内委員

松本氏は異動することもないため、会長に適任である。

寺本委員

松本氏は適任であるが、多忙であり、会長職を引き受けてもらえるかは疑問だ。富山大学の大西宏治准教授も適任である。しかし大西氏は人文系であり教育系ではないため、松本氏を大西氏がサポートするような体制が望ましい。本事業の永続的な発展には富山大学との協力体制は不可欠である。

高山会長

本事業の永続的な発展のためには、最初の 5 年間の運営が重要である。柳内委員に何らかの形で運営に携わっていただきたい。

谷口委員

富山市のりもの語り教育推進協議会メンバーとして富山市交通政策課の職員が入っていない。事務局として支援するだけでなく、富山市交通政策課の肩書のある職員が協議会メンバーとして参加するべきである。

事務局（東福）

谷口委員の指摘は正当である。富山市の交通行政におけるモビリティ・マネジメント事業の重要さも増している。富山市交通政策課職員の富山市のりもの語り教育推進協議会への参加を検討する。

高山会長

協議会規約の全部改正については意見が多く出た。本日は承認とせず、関係機関と調整の上、結論は委員長に一任していただく。

３．報告事項

（１）学習プログラムの企画・実施について

事務局（東福）

（資料説明：「平成 25 年度　第 2 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会資料」8～28 頁、「富山市のりもの語り教育のすすめ」チラシ）

寺本委員

「富山市のりもの語り教育のすすめ」チラシ内に“ESD 教育”という表記があるが、ESD とは持続発展教育の略称であるため、“ESD”の後に“教育”をつける必要はない。

柳内委員

「富山市のりもの語り教育のすすめ」チラシ内の剱田氏の肩書は“教務主任”ではなく“教諭”である。

加藤（交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部　部長）

各学年での児童への意識変化アンケート問 1 について、“変わらない”という回答は、授業を受けた結果の意識変化という認識でよいか。その場合、もともと公共交通が好きだった児童が“変わらない”の回答件数に含まれていることになる。

事務局（東福）

授業を受けた結果の意識変化という認識でよい。

加藤（交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部　部長）

公共交通が好きかどうかの絶対量ではなく、公共交通を好きになったかの変化量についての質問という認識でよいか。

事務局（東福）

設問の狙いとしては、変化量についての質問である。

加藤（交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部　部長）

変化量についての回答が資料に掲載されている内容なら、大変大きい成果である。

堀江委員

児童への意識変化アンケートの内容について疑問がある。総合的な学習の時間の目的は児童の生きる力を伸ばすことであり、電車好きの児童を増やすことではない。意識変化アンケートの設問がこのような内容では、教員の学習プログラムを実施しようという気持ちに悪影響である。富山市のりもの語り教育の、総合的な学習の時間の学習プログラムでは、非常に多くの情報を児童に提示する。学習プログラムの検討では、児童に一方的に情報を押し付けるのではなく、児童が情報を求めるのに応じて提示するような内容になるように工夫をしてきた。総合的な学習の時間の成果を計るための設問としては、“自分の課題をもてましたか”や、“頑張りたいことが見つかりましたか”といった内容が望ましい。

高山会長

堀江委員の指摘は非常に重要である。行政側の思いと教員側の思いにずれが生じて

いる場合、行政側の思いを押し付けることなく調整を行うよう、注意が必要である。

寺本委員

この意識変化アンケートは、児童にとって回答しやすいものになっており、教員にとっては物足りない。総合的な学習の時間では、複合的な現実課題を自分に引寄せて考えることがポイントになっている。まちづくりについて考える場合も、“授業を受けてまちが好きになった”というレベルの結果ではなく、自分で情報を収集し、解決策を考えられるようになることが求められる。総合的な学習の時間の学習プログラムとして、富山市のりもの語り教育の“くしとだんごのまちづくり”の内容は、絶好のテーマである。堀江委員の指摘を受けて意識変化アンケートの内容をグレードアップしてほしい。

高山会長

大人が考える以上に児童の思考レベルは高い。児童の思考レベルを信じて意識変化アンケートの内容をグレードアップさせてほしい。

谷口委員

この意識変化アンケートを心理指標で分類すると、“好きになりましたか”は態度、“乗りたいと思いましたか”は行動についての問いかけである。この意識変化アンケートを教育の目線でアップグレードしたものについて非常に興味がある。完成した際にはぜひ内容を知らせてほしい。

（２）教員への普及啓発について

事務局（東福）

（資料説明：「平成 25 年度　第 2 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会資料」29～35 頁）

（３）保護者を含めた市民への啓発活動について

事務局（東福）

（資料説明：「平成 25 年度　第 2 回富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会資料」36～39 頁）

高山会長

金沢市でもモビリティ・マネジメント教育の取組みを行っているが、普及の取組みは難航している。富山市はよくやっている。今後の展開としては、“全国初”や“世界初”となる取組みを行うことで、マスメディアへの露出を増やしていくとよい。

４．その他

事務局（東福）

平成 26 年 3 月 5 日（水）発行の富山市広報に、富山市のりもの語り教育の紹介を

1 ページ掲載する。掲載予定の原稿を本日配布しているのでご参照いただきたい。

５．閉会

加藤（交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部　部長）

皆様には交通エコロジー・モビリティ財団の事業に 3 年間取り組んでいただき、感謝申し上げる。よいものができあがった。平成 26 年度以降の組織形態など課題もあるが、道筋は見えている。平成 25 年度までの取組みで、平成 26 年度から実施する普及に向けた取組みのスタートラインに立つことができた。交通エコロジー・モビリティ財団としても、普及に向けた取組みの第一歩は応援したいと考えている。平成 26 年度に実施予定のセミナー開催費用は支援させていただく。今後、新しい自治体が交通エコロジー・モビリティ財団の支援でモビリティ・マネジメント教育の取組みをはじめていくため、自治体どうしの横のつながりが重要になってくる。

以上

4. 検討部会

（1）第 1 回検討部会

①検討会資料

2013/5/22
計画情報研究所

3 年生社会科　学習プログラム

富山市のいろいろな乗り物

■学習のねらい
富山市にはいろいろな公共交通があることやポートラムの特徴を知り、公共交通に興味を持つ。

■対象学年
3 年生

■教科単元
社会科　身近な地域

■時間数
1 時限

■準備物
児童用パンフレット
○×クイズ解答用の教員資料

■授業概要
公共交通と土地利用が結びついていて、富山市にはさまざまな公共交通があることや富山市を代表するポートラムの特徴について知ることにより、自分たちの住む地域や公共交通への愛着が深まることが期待される。

■授業の展開例

	学習活動	指導上の留意点
15分	1.公共交通と土地利用が結びついていることをおさえる ■指示 ・児童用パンフレットの地図と写真を見てみましょう。 ■発問 1 ・富山市のようすが分かる地図を見て乗り物はどこを走っていますか？ 市の真ん中や外側、山手や海側などの言葉を使って説明して下さい。 ■発問 2 ・富山市にはどんな種類の乗り物が走っていますか。 ■発問 3 ・なんでこんなにたくさんの種類の乗り物があるのでしょうか。(いつこれらの乗り物を使いますか。) ※土地利用と路線図の両方を示した地図が必要。	・公共交通は、店や会社の多いところ、住宅の多いところに走っていることや海側や山側にも走っていることに気づくように促す。 ・店や会社の多いところ（中心部）にはセントラムやバス、その周辺の住宅の多いところ（郊外 1）には路面電車やバスが走っており、その周辺の田の多いところ（郊外 2）ではバスだけしか走っていないところもあることに気付くように促す。 ・中心部に近い程、乗り物に乗ったり降りたりする人が多くなることを児童に伝える。 ・乗り降りする人の多さによって、乗り物の大きさを変えていること、遠くに行くため、クルマを運転できない人(高齢者、高校生、子ども、免許を持っていない人など）も行きたい場所に行けるように公共交通が整備されていることをおさえる。
5分	2.くしとだんごのまちづくりについて知る（児童用パンフレットで説明）	・店や会社の多いところや、住宅の多いところを誰でも使える公共交通でつなぎ、車が無くても移動できるまちを目指していることを児童に伝える。
15分	3.ポートラムの特徴を知り興味をもつ ■発問 ポートラムについてどのようなことがわかりましたか？どのようなことを感じましたか？(児童用パンフレットで説明後)	・児童用パンフレット最後のクイズにも回答させる。 ・ポートラムの乗車する機会に、説明内容を確認するように促してもよい。
10分	4.富山市のいろいろな乗り物についての感想をノートにまとめる	

○×クイズ解答用の教員資料

クイズ1 ○

パスカでのしはらい

パスカの
読みとりき

パスカでのしはらい

【教員用の説明文】

ポートラムを降りるときに、「パスカ」というカードを使うことで、小銭を用意しなくても支払いができます。

「パスカ」には、城川原駅や富山駅にある機械を使って、お金を入れておきます。

クイズ2 ✕

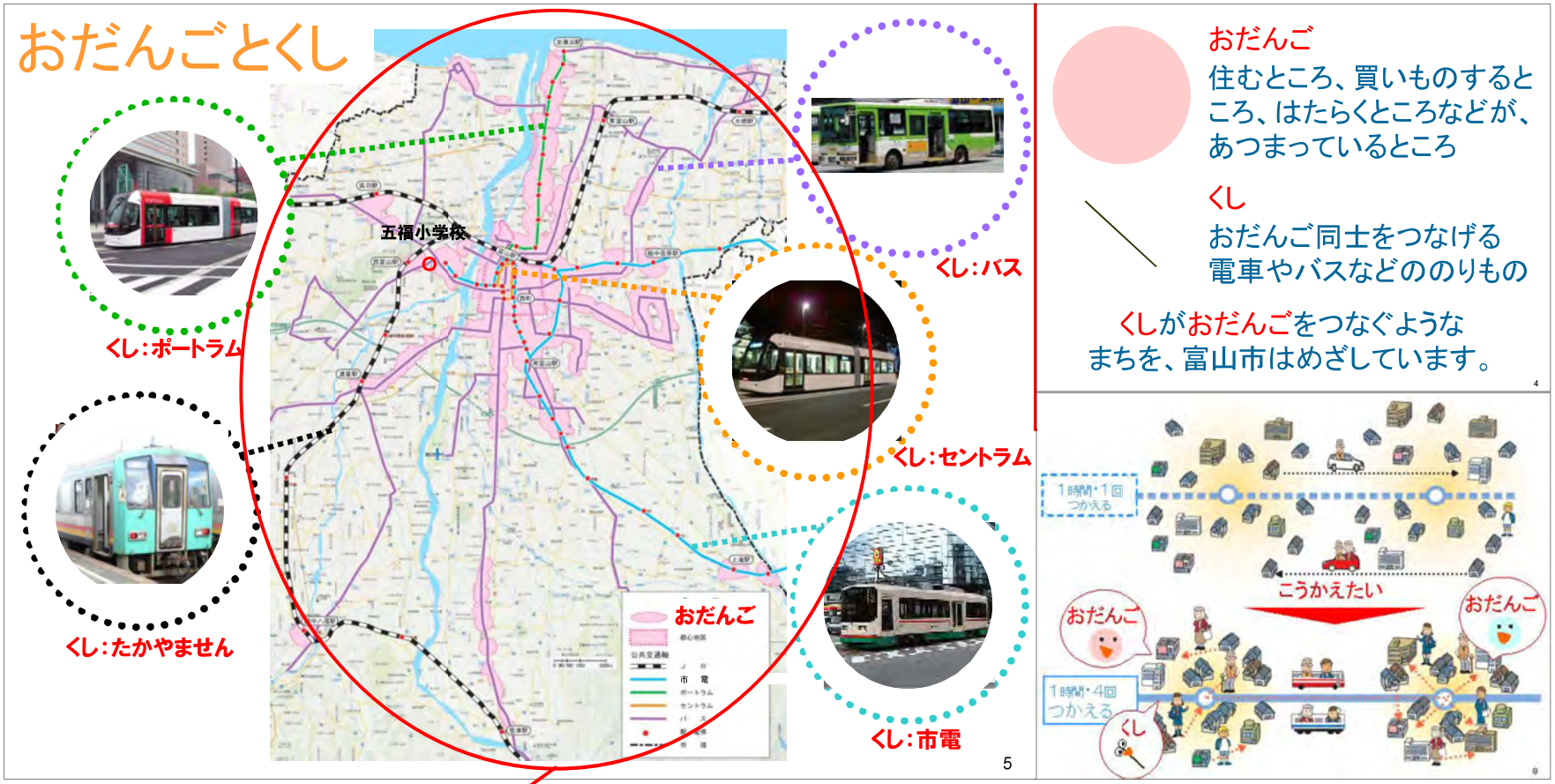
ポートラムの休むところ

車(しゃ)りょうきち

【教員用の説明文】

城川原駅には、ポートラムの車両基地があります。夜になって運行が終わると、ポートラムは車両基地に入って休みます。

◆3～4 年生社会科副読本「わたしたちの富山市」 掲載案



土地利用図に公共交通路線図を入れた地図に変更

②議事要旨

第１回富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業　検討部会

議事要旨

日　時：平成 25 年 5 月 22 日（水）15：30～16：40

場　所：五福小学校　音楽室

出席者：

所属	氏名
五福小学校 校長、実践校	柳内　誠治
五福小学校 教諭、実践校	松村　清重
保内小学校 教諭、小教研 社会科部会	劔田　秀則
八尾小学校 教諭、小教研 社会科部会	津幡　和英
呉羽小学校 教諭、小教研 総合部会	堀　　泰洋
東部小学校 教諭、小教研 総合部会	渡辺　純恵
五福小学校 教諭、実践校	藤嶋　広樹
樫尾小学校 校長、小教研 総合部会	堀江　修
堀川小学校 教諭	石田　和義
堀川小学校 教諭、小教研 社会科部会	政二　亮介
大庄小学校 教諭、小教研 社会科部会	吉田　優子

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課 課長	黒瀬　裕治
富山市 都市整備部 交通政策課 係長	東福　光晴
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	室田　知美
富山市 都市整備部 交通政策課 主事	宮城　由希子
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西　友世
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西　哲平

次　第：

１．協議事項

（１）学習プログラム「富山市のいろいろなのりもの」について

（２）副読本への掲載内容について

２．今後のスケジュール

１．協議事項

（１）学習プログラム「富山市のいろいろなのりもの」について

○授業実施によって発生した課題とその対応

１）3 年生社会科での「くしとだんごのまちづくり」学習について

・「くしとだんごのまちづくり」の内容は、平成 23 年度から 3 年生向けに学習内容を検討してきた。4 年生の授業ではこの内容には触れないこともあり、3 年生の授業で取り扱う必要がある。（柳内）

・学習内容のボリュームとしては本プログラム前半部の「いろいろな乗り物があることを知る」で 1 時限を使ってもよい。後半部の「くしとだんごのまちづくり」については、3 年生には難しい内容であるため、不必要だったと思う。（松村）

・「自家用車があれば公共交通は不要か？」の発問に対し、数名の児童から 3 年生なりの生活経験に応じた回答があった。この部分をもう少し膨らませれば、「くしとだんごのまちづくり」を取り扱わなくても、公共交通への児童の等身大の理解が深まるのではないか。（吉田）

・乗り物とまちづくりのつながりをどのように児童に説明するかが課題である。3 年生の 5 月頃の発達段階では、いろいろな乗り物の中のいくつかにしぼって利便性に注目するといいのではないか。自分が乗って便利または不便に思った話が児童の中から出てくれば、児童なりに公共交通の利便性についての理解が深まるのではないか。（政二）

・児童は公共交通の種類や土地利用に応じた路線整備といった現状の理解はできるが、「くしとだんごのまちづくり」は将来のことである。現状と将来を同時に扱う内容は 4 年生でも理解が難しい。また、児童が現状を理解した上で、将来に向けてどのような取り組みを行うとよいか、自発的に考えることが望ましい。しかし、「くしとだんごのまちづくり」という形で答えを与えてしまうと、単なる知識としてしか児童には受け入れられない。（剱田）

⇒まず生活体験の共有を行い、そこからいろいろな乗り物すなわち公共交通があるということ、公共交通は高齢者などの車を運転できない人達も乗ることができる乗り物である（福祉面）ということを学び、その一例としてポートラムを取り上げて知識をつけるという流れで、1 時限で行いたい。（柳内）

２）「くしとだんごのまちづくり」学習の実施時期について

・児童用パンフレットは、3 年生が地図の読み方を習う前の段階で扱う資料としては土地利用や乗り物の色分けなど情報量が多く、3 年生には読み取りが難しいのではないかと感じた。児童が資料を理解しやすいよう、本日 1 限目の社会科で白地図を土地利用別に塗り分ける授業を行った。そのような事前の準備が必要である。子どもたちは、思ったより資料の内容を理解できていたが、資料を読めない子にとっては退屈な授業だったのではないか。（松村）

・3 年生社会科では、5 月は校区について学習している段階である。現在の児童用パンフレットでは情報量が多く、児童にとっては 5 月時点では理解することが難しい資料である。3 年生向けとしてはおもしろい内容ではあるのだが、授業の実施時期が少し早い。（政二）

・「富山市のいろいろなのりもの（を知ろう）」という大テーマと、「くしとだんごのまちづくり」、「ポートラムのすごいところ」という小テーマには方向性のズレがある。全体のつながりが

弱いため、大半の児童は最後に取り上げる「ポートラムのすごいところ」に意識が引き寄せられ、「富山市のいろいろなのりもの（を知ろう）」という大テーマがおろそかになってしまう。「くしとだんごのまちづくり」は、無理を承知で入れている。ただし、授業の実施時期を7月頃にすれば児童が本プログラムの内容を理解できる可能性がある。（柳内）

・6年生社会科では教科書にライトレールが載っているため、「くしとだんごのまちづくり」について授業で取り扱うことができる。「くしとだんごのまちづくり」については、6年生社会科での学習だけでもよいのではないか。児童が資料の読み取りをできるようになってから学習に取り組むほうがよい。（藤嶋）

・3 年生は社会科初習の年であり、地図の読み取りについても共通理解はまだない。土地の高低や土地利用の違いなどを理解しているという土台ができていないと、児童用パンフレットの内容を児童が理解することは難しい。3年生5月の段階では、本プログラム前半部の「いろいろな乗り物があることを知る」までの理解で妥当なのではないか。（津幡）

・3 年生の社会科では、地図と写真を照らし合わせながら理解を進めていく。本プログラムの内容は、地図と写真の学習を終えた後に実施したほうがよいのではないか。（政二）

３）資料の理解を深めるための授業時間数について

・本プログラム前半部の「いろいろな乗り物があることを知る」において、3 回の発問に対し15分の時間配分は短い。子どもたちからの発言も多く、3回の発問の部分は時間をかけても面白い。（松村）

・現状では資料の内容が多く、児童の体験を引き出すことが時間的に難しい。今から資料を検討し直すことはスケジュール的に難しいので、2時限とすることも考えられる。（柳内）

・2時限とする場合、1時限目の「いろいろな乗り物があることを知る」はよいが、2時限目の「くしとだんごのまちづくり」「ポートラムのすごいところ」は知識を得るための講義となる。3年生であまり高度な知識への理解は期待できないため、2時限に分ける必要はない。（剱田）

⇒まず生活体験の共有を行い、そこからいろいろな乗り物すなわち公共交通があるということ、公共交通は高齢者などの車を運転できない人達も乗ることができる乗り物であるということを学び、その一例としてポートラムを取り上げて知識をつけるという流れで、1 時限で行いたい。（柳内）（再掲）

４）その他

・ライトレール、ポートラム、セントラム、路面電車、市電といった、類似した用語について教師側は言葉を吟味して使用することが必要である。（政二）

・資料ではポートラムを大きく取り上げているが、それぞれの校区で身近な公共交通を取り上げるようにすることが考えられる。（吉田）

・児童用パンフレット表面右下の挿絵を有効活用し、各年代の人達がどのように移動を行なっているかを児童が想起しやすいようにすれば、実体験の引き出しもスムーズに行え、公共交通の重要性や「くしとだんごのまちづくり」への理解も進むのではないか。（黒瀬）

（２）副読本への掲載内容について

・平成 24 年度は既存の乗り物の写真を地図上に載せるなどの小修正にとどまっており、具体的な掲載内容は平成 25 年度の課題である。（剱田）

・児童用パンフレットは、富山市の制作物であるため、副読本に盛り込んでいただいても著作権などの問題はない。写真については富山市が精査する。（東福）

・副読本はあくまでも社会科の資料であるため、乗り物の写真などは載せられるが、富山市の交通政策の内容を載せることは難しい。あくまで個人的な意見だが、本日資料の掲載案の右側上段「おだんご・くし」、右側下段「こうかえたい」は、掲載は難しいと考えている。富山市交通政策課の交通環境学習ウェブサイトのアドレスを副読本に掲載するといったような方法も考えられる。（剱田）

２．今後のスケジュール

（１）公開授業開催予定

１）社会科

・10 月 29 日　　社会科 4 年生（八尾小学校）
平成 24 年度の授業を改定して公開授業を行う。

・12 月第 1 週　　社会科 6 年生（五福小学校）
平成 24 年度の授業を改定して公開授業を行う。

２）総合

・10 月上旬　総合 3～4 年生（東部小学校）
平成 24 年度の授業を改定して 4 年生のクラスで公開授業を行う。

・11 月　　総合 5～6 年生（呉羽小学校）
環境をテーマとした学習プログラムを企画し、6 年生のクラスで公開授業を行う。

（２）推進協議会開催予定

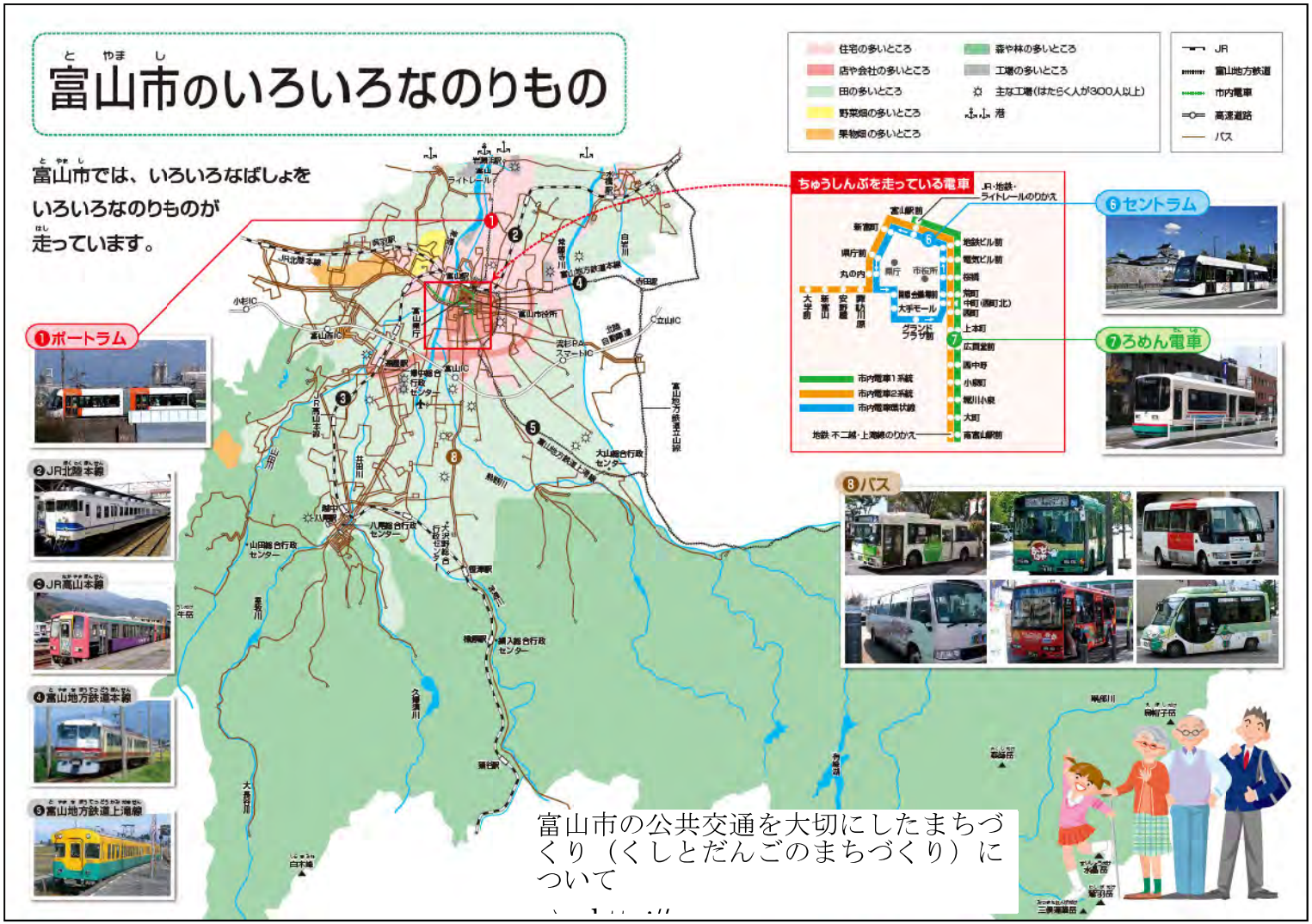
・７月末頃に推進協議会を行い、公開授業の実施結果の報告を行う。

以上

（２）第２回検討部会

①検討会資料

◆3～4 年生社会科副読本「わたしたちの富山市」 編集委員会了承の掲載案



※バス路線図は、全て掲載すると児童が見る資料としては情報量が多くなりすぎるため、運行頻度の高いものだけを掲載するか検討中。

②議事要旨

第２回富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業　検討部会

議事要旨

日　時：平成 25 年 10 月 9 日（水）15：30～16：50

場　所：東部小学校　会議室

出席者：

所属	氏名
呉羽小学校 教諭、小教研 総合部会	堀　　泰洋
東部小学校 教諭、小教研 総合部会	渡辺　純恵
東部小学校 校長、実践校	古木　繁行
樫尾小学校 校長、小教研 総合部会	堀江　修
芝園小学校 教諭、小教研 総合部会	相川　仁
新庄北小学校 教諭、小教研 総合部会	笹原　克彦
東部小学校 教諭、実践校	光里　誠
堀川小学校 教諭	杉林　千里

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課 係長	東福　光晴
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	室田　知美
富山市 都市整備部 交通政策課 主事	宮城　由希子
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西　友世
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西　哲平

次　第：

１．協議事項

（１）３・４年生総合的な学習の時間プログラムについて

（２）５・６年生総合的な学習の時間プログラムについて

２．報告事項

（１）副読本掲載の進捗状況について

（２）富山市堀川小学校ＥＳＤ実践発表会について

３．今後のスケジュール

４．その他

１．協議事項

（１）３・４年生総合的な学習の時間プログラムについて

〇授業実施によって発生した課題とその対応

・昨年度の学習プログラム実施では、児童用パンフレットの内容について意見が出ていた。昨年度の児童用パンフレットは統計資料が多いため小学校 4 年生の児童にとって読み取りが難しく、ワークシートの解説まで行うと予定時間内で学習が終わらないという問題があった。今年度は何のためにおでかけ定期券があるのかについて自分の予想をたてる時間をなくし、また一斉指導を導入してスライドを用いたおでかけ定期券の説明を行った。（渡辺）

・今回の学習プログラム実施では、時間を少々オーバーした。ペア学習の時間を教員が打ちきることが難しく予定より多く時間がかかった。おでかけ定期券の裏面記載事項についての発問をしないなど、時間を節約する方法はあった。また、教員による説明を聞く時間が多く、児童にとっては退屈な時間が多かったと思う。おでかけ定期券に中心市街地活性化の意図もあるという点は児童に伝わっておらず、工夫の余地がある。（光里）

・授業の前半は単調で、児童も退屈している様子だった。ペア学習は活発に行われていた。何のためにおでかけ定期券があるのかについて児童に調べさせる活動はよいが、時間がかかる。「自由に車を使えない人は、どれくらいいるの？」の発問は間延びした。数字を読み取るだけの発問は不要だと感じた。それに対して「自由に車を使えない人は、どうやって出かけるの？」、「『おでかけ定期券』を使って、どこまでお出かけできるの？」の 2 問の発問はよかった。（渡辺）

・教員がおでかけ定期券の使い方の説明をする際、郊外間の移動が出来ない点に時間をかける必要はないのではないか。中心市街地や市民病院に出かける際におでかけ定期券を使えるということが理解できればよい。それ以上のことは、児童から質問があれば教員が答えればよい。（笹原）

・100 円でバスに乗れて便利だということだけでなく、中心市街地や市民病院への行き来だけが 100 円ということを伝えたかった。（渡辺）

・今回の実施では、7 分間を予定していた学習活動 1 に 18 分かかっていた。昨年度の時間が長かったという課題について、何のためにおでかけ定期券があるのかについて自分の予想をたてる時間をなくし、一斉指導で教員がかみくだいて説明するという内容で対応する予定だった。しかし、実際は学習活動 1 の進行に予定の倍以上の時間がかかってしまった。それがその後の授業の進行の遅れの原因である。教員が発問に緩急をつけ、重要でないものは短時間で扱う必要がある。（古木）

・ワークシートの 1 から 4 がクリアできていなかった印象がある。「2.『自由に車を使えない人は、どうやって出かけるの？』で調べましょう。」に関連し、中心市街地に出かける利点についての発問は、本学習プログラムの内容から飛躍していると感じた。ワークシートの 1 から 4 の回答を丁寧に行い、ワークシートの 5 の回答が児童から出てくるように授業を組立てられるとよかった。バスの利便性などについては、本時に続く 2 時限目で取り扱う項目にすればよいだろう。（古木）

・ワークシートを使えばどの学校でも実施できるというのが本学習プログラムの肝であるため、その目的に沿った構成にするべきだ。ワークシートを使う 30 分間が本学習プログラムを成功さ

せられるかどうか重要な部分である。（古木）

・資料「授業の展開」の「(2)本時の展開」で、資料で発問の内容、扱い方を明確にしたほうがよいのではないか。実際に学習プログラムに取り組む教員は、学習の内容をしっかり把握して実施するのではなく、まず授業展開例のとおりに実施することが多いと考えられる。発問の内容、扱い方を明確にすることで実施する教員にとっても使いやすい学習プログラムとなる。（堀江）

・いかにワークシートに取り組む 30 分間を充実させるかが重要である。昨年度の学習プログラム実施では、授業の展開がワークシートへの記入内容の答え合わせのようになってしまった。そのため今年度は一斉指導を取り入れた学習プログラムを実施している。しかし、時間内にワークシートの 4 まで到達できなかったため、資料「授業の展開」の「(2)本時の展開」の、最後の「3 課題についての自分の考えをまとめる。(8 分)」での理解度の確認が出来なかった。（古木）

・2 時限で授業を終えるためには、組み立てを十分考えなければならない。自分の近くにいた児童が色々なことをつぶやいていた。この児童のように自分の考えたことを声に出して周囲に投げかけることも非常に大事である。（堀江）

・授業の展開を予定通りに実施していくことは大事である。ただし、力量のある先生であれば、授業の展開のなかの全ての発問を使う必要はない。今回の学習プログラムで言えば、「自由に車を使えない人は、どれくらいいるの？」、「『おでかけ定期券』を使っている人は、どう思っているの？」の発問はとばし、「自由に車を使えない人は、どうやって出かけるの？」、「『おでかけ定期券』を使って、どこまでお出かけできるの？」の発問だけでもよいだろう。そういった選択肢も提示する授業展開例であるとよい。（堀）

・現在の発問の内容について、「自由に車を使えない人は、どうやって出かけるの？」の発問と「『おでかけ定期券』を使って、どこまでお出かけできるの？」の発問の間に児童にとって高いハードルがあると感じた。（古木）

・「『おでかけ定期券』を使って、どこまでお出かけできるの？」の発問でつまづいた児童は、中心市街地の意味がわかっていないようであった。児童に中心市街地が便利であることを気づかせる導入が必要だった。（笹原）

・社会科 3 年生の学習で中心市街地については既習のはずであるが、配慮したい。（渡辺）

・ワークシートの 3 の（1）、(2) の回答を丁寧に行えば、中心市街地の意味について振り返り学習が出来るだろう。（古木）

・児童にとって中心市街地が身近ではない。大人であれば市役所があるなど中心市街地と自身とのつながりが考えられるが、児童にとってはなじみが薄い。社会科 3 年生で既習とは言っても、なぜ中心市街地に人を呼びたいかなどを改めて学習する必要がある。説明だけになってしまっては児童にとって退屈だが、何らかの形で触れる必要がある。（相川）

・スライド 10 で自由に自家用車を使えない人の 38.8%がバスで移動しているというデータがあるが、この人たちがどのバス路線を使っているかわかる資料はないのか。その資料から、中心市街地へ向かう人が多いことがわかれば、中心市街地へ向かうニーズが大きいということを数字から学ぶことができる。また、「自由に車を使えない人は、どうやって出かけるの？」、「『おでかけ定期券』を使って、どこまでお出かけできるの？」の 2 つの発問をまとめることができ、時間の短縮にもなる。（杉林）

・どのバス路線が多く使われているかはわかるが、データはないかもしれない。（東福）
・中心市街地の意味・役割については、くしとおだんごのまちづくりについての理解を進めたい富山市としても児童によく理解してほしい点である。ただ、過去の議論の中では、あまりまちづくりについて強調すると富山市モビリティ・マネジメント教育の狙いからずれるという指摘があった。（東福）
・くしとおだんごのまちづくりについては、富山市モビリティ・マネジメント教育の柱であるため、強調するべきである。くしとおだんごのまちづくりについてよく理解していなければ、バスの利用促進についての理解が深まらない。（相川）
・くしとおだんごのまちづくりについて説明を行うのであれば、その分現在の学習プログラムの内容を削る必要がある。スライド９は削れるのではないか。（笹原）
・中心市街地は、児童にとってなじみが薄く実感がない。そのため、福祉に関する学習については理解できるが、都市政策に関する学習については理解が難しい。「『おでかけ定期券』を使って、どこまでお出かけできるの？」の発問に関して、学習プログラムに 1 時限を追加してくしとおだんごのまちづくりについて学ぶ必要があるのではないか。（古木）
・児童用パンフレットの「東福さんのお話」のコーナーで、くしとおだんごのまちづくりとお出かけ定期券についてのつながりに触れるとよいのではないか。児童にとって、富山市のまちづくりについて知ることは非常に興味深く感じられるだろう。（堀江）
・本学習プログラムでは福祉とまちづくりがテーマとなっているが、公共交通活性化というテーマもある。現状ではおでかけ定期券の利用がまだ少なく、もっと使ってほしいという問題提起もあるのだが、本時限に公共交通活性化について盛り込むのは難しいのではないか。（東福）
・本時限については福祉とまちづくりについてをテーマとし、公共交通活性化については次の時限で取り扱うとよいのではないか。1 時限に 2 つのテーマを盛り込むと、児童がついてこられなくなる。（古木）
・「自由に車を使えない」と「自由に使える車がない」という表現には、意味の違いがある。どちらかに統一したほうがよい。（杉林）
・資料の意図としては「自由に使える車がない」がより適切なので、こちらに統一する。（渡辺）
・時限数を増やしたほうがよいのではという意見があったが、学習プログラムとしては 2 時限の構成としたい。児童用パンフレットの説明を修正する点、資料「授業の展開」の「(2)本時の展開」で優先させる発問を明記して流れをわかりやすくする点、スライド 13 にあたる中心市街地についての学習に関して再考する点の３点を修正したい。（渡辺）

（２）５・６年生総合的な学習の時間プログラムについて

・総合的な学習の時間５・６年生向けの学習プログラムは、本年度が開発１年目である。授業内容に関する検討会は今回が 2 回目。1 回目では環境分野に焦点を当て、交通すごろくを取り入れた学習プログラムを提示した、検討の結果、高学年の活動によりふさわしい調べ活動の内容を入れることが望ましいという結論になっていた。今回は「我が家の交通 CO_2 排出量調査」という個人調査を取り入れ 2 時限構成の学習プログラムとした。児童が取り組みやすい CO_2 排出量調査の方法については検討課題であり、富山市全域で取り組める学習プログラムにふさわしい

内容を考えていきたい。（堀）

・現在検討中の CO_2 排出量調査方法は、文部科学省の実践事例より引用した交通ダイアリーである。平日と休日 1 日ずつ、どの交通手段をどれだけ使ったかを記録し、1 週間の交通関連 CO_2 排出量をチェックするものである。この内容であれば取組みが容易で、担当教員の負担も少ないと思われる。（堀）

・授業展開例としては、1 時限目は富山市民の交通手段の実態と交通関係の CO_2 排出量とそれが環境に及ぼす影響について学習し、CO_2 排出量調査を宿題とする。2 時限目は CO_2 排出量調査結果をもとに、環境にやさしい交通機関の利用について考え、また富山市の環境にやさしいまちづくりについて学習する。（堀）

・児童は学習のテーマを身近な問題であると捉えればまじめに取り組む。CO_2 を減らす必要性を児童にどのように身近に感じてもらうかが重要である。CO_2 排出量の増加が世の中で問題になっているから、という理由では弱い。（相川）

・他都市の事例では、地球温暖化の進行により生物の活動圏域が変化したり、農作物の耕作面積や量が減少したりする問題を取り上げている。（大西友）

・例えば、国別に定められた CO_2 排出枠の中で、どの活動分野に CO_2 排出量をどう割り振るかという観点で見るとよいのではないか。自家用車からの CO_2 排出量を抑制して物流分野に割り当てるなどが考えられる。お父さんが自家用車の利用を週に 1 日減らさなければコンビニに商品が届かなくなるとなれば、児童が学習のテーマを身近に考えられるのではないか。（相川）

・CO_2 が増えることによる影響で、物流が滞るというのはかなり間接的な影響に思える。（笹原）

・わが国の CO_2 排出枠の中で、どの分野に重点的に割り振るのかを考えてほしい。自家用車からの排出を抑えることを考える中で公共交通がクローズアップされてくる。（相川）

・その内容を 2 時限で扱うことは可能なのか。非常に大きなテーマであると感じる。（堀）

・本学習プログラムでは、大気汚染や地球温暖化に関わる諸問題の一部分である CO_2 排出について切り取って扱えばよい。（相川）

・児童が CO_2 排出量増加の問題についてわかりやすく理解できる資料はあるか。（堀江）

・わが国全体の CO_2 排出量の中で、各部門別の CO_2 排出量がどのように変化してきたかという資料がある。家庭部門、運輸部門からの CO_2 排出量が増加しており、自動車依存が原因であると読み取ることができる。また、都市別の資料で富山市が他都市より自動車関連の CO_2 排出量が多いというデータもある。児童にわかりやすい資料にするには加工が必要になる。（東福）

・2 時限で行うには現在検討中の学習内容は多いため、交通ダイアリーの取組みは不要なのではないか。（笹原）

・交通ダイアリーの取組みを行わないのであれば、本学習プログラムは教員にとって取り組みやすいものになる。総合的な学習の時間の取組みとして探求的要素が必要であるという視点から、交通ダイアリーの取組みを入れた。必要でないのであれば取り組まなくてもよい。（堀）

・各小学校で学習プログラムを実施していただくことを考えると、教員にとって指導が難しい取組みが含まれていると実施していただけなくなる懸念がある。（堀江）

・探究的要素としては、児童が家族に対して、CO_2 排出量削減に関する取組みで生活が変化することをどう感じるかをヒアリングするという内容ではどうか。（笹川）

・自家用車以外の交通手段を検討せずに自家用車を使用し続けることへの児童の疑問を導き出し、公共交通の必要性への気づきにつながればよい。（相川）
・児童が家族にヒアリングを行うと、現在の公共交通が不便であるため、利用者が増えず事業者が増便できないというジレンマを感じてもらうこともできるだろう。（笹川）
・富山市の公共交通網をさらに充実させていきたいという富山市の課題とつながるため、富山市モビリティ・マネジメント教育の学習のねらいと非常に合っている。（東福）
・公共交通の維持に家計がいくら負担しているかというような資料もあるとよい。（笹原）
・今回検討した学習プログラムの構成であれば、社会科 5 年生での学習内容につながっていくだろう。（相川）
・本日いただいた意見を踏まえて修正する。交通ダイアリーのような難しい調査でなく、児童が家族に日常生活についてヒアリングするのであれば、学習プログラムを実施する教員も取組みやすい。（堀）
・2 時限目の授業展開例で取り上げる、富山市の環境にやさしいまちづくりに関する取組みの事例としては何がよいか。（堀）
・ポートラム・セントラムの取組みや低床バス、EV バスの導入についてが考えられる。これだけでも情報としては多いので、くしとおだんごのまちづくりについては触れなくてもよいと思う。（東福）
・資料が重要であるため、富山市と調整して準備する。交通カレンダーの取組みは削除し、児童による家族への日常生活についてのヒアリングを取り入れる。学習プログラムのタイトルは「環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう！」のままとする。公開授業は本学習プログラムの 2 時限目とする。（堀）

２．報告事項

（１）副読本掲載の進捗状況について

・資料の副読本掲載案の内容で、富山市社会科副読本編集委員会で了承された。乗り物の情報を取り込んだ紙面となっており、富山市モビリティ・マネジメント学習の取組みとして今後 PR していきたい。（東福）

（２）富山市堀川小学校ＥＳＤ実践発表会について

・平成 25 年 11 月 1 日（金）に、ＥＳＤ（持続発展教育）実践発表会が堀川小学校で開催される。富山市モビリティ・マネジメント教育として取組みの紹介を行う予定である。総合的な学習の時間 4 年生の公開授業として、堀川小学校の政二先生が授業を行う。公開授業後に研究協議会が開催される。（東福）

３．今後のスケジュール

（１）公開授業開催予定

１）社会科

・10 月 29 日　　社会科 4 年生（八尾小学校）
平成 24 年度の授業を改定して公開授業を行う。

・12 月 2 日　　社会科 6 年生（五福小学校）
平成 24 年度の授業を改定して公開授業を行う。

２）総合的な学習の時間

・11 月 12 日　　総合的な学習の時間 5～6 年生（呉羽小学校）
環境をテーマとした学習プログラムを企画し、6 年生のクラスで公開授業を行う。

４．その他

・本日の公開授業のテレビ取材について、NHK は本日平成 25 年 10 月 9 日（水）18 時 10 分のニュースで、ケーブルテレビは平成 25 年 10 月 19 日（土）から平成 25 年 10 月 25 日（金）まで「ご近所チャンネル見んまいけ」で放送される。（東福）

以上

（３）第３回検討部会

○議事要旨

第３回富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業　検討部会

議事要旨

日　時：平成 25 年 10 月 29 日（火）14：45～16：45

場　所：八尾小学校　会議室

出席者：

所属	氏名
五福小学校 校長、実践校	柳内　誠治
保内小学校 教諭、小教研 社会科部会	劔田　秀則
八尾小学校 教諭、小教研 社会科部会	津幡　和英
五福小学校 教諭、実践校	藤嶋　広樹
八幡小学校 教諭	田島　悟
八幡小学校 教諭	西野　勇樹

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課 係長	東福　光晴
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	室田　知美
富山市 都市整備部 交通政策課 主事	宮城　由希子
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西　友世
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西　哲平

次　第：

１．協議事項

（１）４年生社会科の学習プログラムについて

（２）３年生社会科の学習プログラムについて

（３）６年生社会科の学習プログラムについて

２．報告事項

（１）副読本掲載の進捗状況について

（２）富山市堀川小学校ＥＳＤ実践発表会について

３．今後のスケジュール

１．協議事項

（１）４年生社会科の学習プログラムについて

①授業実施によって発生した課題とその対応

・本授業の授業者は諸事情により、津幡から古井先生に変更となった。古井先生は大卒 2 年目の新任教員であり、社会科の担当は平成 25 年度が初めてである。
古井先生の考えを反映させ、平成 24 年度の授業内容から大きな変更を行なった。楽しい授業を行うという点に主眼を置き、社会科にモビリティ・マネジメント教育の要素を取り入れた。社会科の単元の課題として設定した「高岡市へ校外学習に行こう！」に関連して、富山県の地形、人口分布、交通について学ぶという構成となった。
高岡市へ行く交通手段（電車、路線バス、貸切バスなど）について、時間、コストなどの様々な点から検討を行った。児童に人気があったのは電車であった。富山市モビリティ・マネジメント教育の目的と照らし合わせ、各交通手段の二酸化炭素排出量の資料などを用い、授業を行なった。
今後、社会科で特色のあるまちとして富山市旧八尾町、高岡市、立山町、氷見市を取り上げるため、高岡市を校外学習の訪問先とした。富山市内の各小学校で本学習プログラムを実施する場合は、それぞれの学校に合わせた訪問先を選択できる。
鉄道を利用した経路を考える際には鉄道路線が富山市を中心に放射状に広がっている理由を考えるなど、社会科の内容を逸脱しないように注意して授業を行なった。（津幡）

・社会科におけるモビリティ・マネジメント教育の取り入れ方という視点、また、本日の授業を学習プログラムとして富山市内各小学校で実施できるようにするという視点から、議論を行いたい。単元「高岡市へ校外学習に行こう！」の時限数としては、9 時限は適当か。（柳内）

・7～8 時限が妥当であり、少し多いと感じるが、逸脱はしていない。（津幡）

・社会科 4 年生では交通について取り上げる機会は少ない。古井先生は取り入れ方を工夫したと思う。自分が校外学習を行う際は本授業ほど時間をかけないので、このようなやり方もあるのだと参考になった。ただし、時限数が多すぎるのではないかという疑問はある。（西野）

・単元全体で 9 時限の配分のうち、本授業までに 6 時限を使ってしまうのは疑問である。富山県の広がり、交通網、都市の位置などを学ぶ内容は非常によく考えられており、参考にしたい。
社会科 4 年生の内容には富山県の地形、主な産業、交通網、特色ある地域の人々の生活、外国との関わりなどがある。今回の授業内容は校外学習の準備という位置付けで行う以外にも、自分たちの地域と他の地域のつながりを学ぶという位置付けで行えれば、実施方法に広がりが得られるのではないか。（田島）

・モビリティ・マネジメント教育の内容を校外学習に組み込んで考えるのは面白いと感じた。八尾小学校以外でも、児童が自分で目的地への行き方を考えるという取組みはモビリティ・マネジメント教育につながる。ウェブサイトにも、校外学習と組み合わせた実践方法として掲載するとよいと思う。（藤嶋）

・校外学習に行くための交通手段を考えるという流れは必然性が感じられるのでよい。自分たちが住んでいる場所から目的地に行く方法を考えるという手法は斬新である。
ただし、モビリティ・マネジメント教育の観点としてはマイカーも選択肢に入るとよいが、校

外学習という枠組みの中では自家用車という選択は出てこないだろう。また、貸切バスでの移動を予定している場合は、様々な意見が出ても結局貸切バスになるのだというしらけが児童に生まれないか心配である。（剱田）

・自家用車と公共交通を比べるという視点が欠けるのは問題である。パンフレットの中に各交通手段の二酸化炭素排出量の資料があるので、その資料の解説で自家用車と公共交通の二酸化炭素排出量の違いを取り上げることができるが、それが限界だろう。
また、本授業での検討を反映した交通手段で実際に校外学習を行うことも重要である。（柳内）

・八尾小学校では平成 25 年 11 月 13 日（水）に、電車を利用した校外学習を行う予定である。越中八尾駅を集合解散場所とし、駅への交通手段も八尾コミュニティバスを活用する。（津幡）

・今回の授業では電車、バスの時刻表、タクシーの料金表を資料として児童に配布した。今回の授業を他の小学校で実施する場合、これらの資料はそれぞれの小学校に合わせて用意する必要がある。そのため、今回の学習プログラムを富山市内各小学校で実施することは難しい。（津幡）

・今回の授業は参考事例として紹介する程度にとどめるのがよいだろう。児童用パンフレットについては、平成 24 年度からの変更点はあるか。（柳内）

・児童用パンフレットは平成 24 年度から大きく変更となっている。授業ではあまり児童用パンフレットを使用しなかったが、公共交通の利用者に 50 代が多いことを読み取った児童もいた。児童の視野を広げるためには、授業では使用しない資料もあってもよい。（津幡）

・平成 24 年度実施の内容は、「富山県の交通」という学習テーマであり、学習プログラムとして富山市内各小学校で取り組むことを想定した内容となっていた。学習プログラムとしては平成 24 年度実施のものを採用し、今回の授業は参考事例として紹介する。
参考事例として紹介するにあたり、平成 25 年度の八尾小学校 4 学年の学年目標として学習指導案でも使われている「かがやき」という表現は、混乱を避けるため資料から抜く。（柳内）

・平成 24 年度実施の際は、社会科の学習内容と乖離しないようにしながら、モビリティ・マネジメント教育の内容を取り入れようとした。結果としてはモビリティ・マネジメント教育の内容である公共交通についての学習に 35 分かかり、社会科の学習内容である白地図への鉄道路線記入は 10 分しかあてられなかった。前半部分を若干短くする変更が必要と考える。（津幡）

・学習プログラムを 2 時限にすることは可能か。（柳内）

・可能であるが、2 時限構成の学習プログラムにすると、モビリティ・マネジメント教育の内容が 1 時限、社会科の交通に関する学習内容が 1 時限となる。その場合、社会科の学習内容の 1 時限だけが実施されるという可能性がある。この点も考慮して、平成 24 年度は 1 時限構成とした。（津幡）

・平成 24 年度実施の内容は学習プログラムとして富山市内各小学校で実施できる見通しがある程度立っており、平成 25 年度も検討したい。平成 24 年度実施の内容は、社会科では 12 月に行うカリキュラムである。2 時限構成の学習プログラムを津幡先生が作成し、八幡小学校西野先生と五福小学校の先生が平成 25 年度の 12 月に実施し、藤嶋先生と柳内で検証したい。時間がない中で、できる限りやりたい。（柳内）

②富山市モビリティ・マネジメント教育の目的について

・本日の授業では、児童にどのような人間になって欲しいのかがわからなかった。環境について考える人間か、公共交通を積極的に利用する人間か、どちらを想定しているのか。（西野）
・富山市モビリティ・マネジメント教育では、自家用車に依存せず、多様な交通手段を自発的に選択できる人間を育てることを目的としている。（東福）
・授業でモビリティ・マネジメント教育としての具体的な目標を掲げると、本来の教科の目標と乖離するというジレンマがある。（柳内）
・自分たちが住むまちをどのようにしていきたいかを考えることが、小学校における富山市モビリティ・マネジメント教育の目指すところであると思う。（柳内）

③富山市議会および富山市役所他部局との連携について

・社会科副読本にも掲載させていただくことになった。富山市交通政策課は富山市モビリティ・マネジメント教育の普及に精力的に取り組んでいるが、議会や他部局との連携はどのようになっているか。（田島）
・富山市では森市長がトップとして、公共交通を軸にすえたコンパクトなまちづくりを推進している。交通政策課だけでなく、福祉や環境の部局も、コンパクトなまちづくりを推進するために努力している。（東福）
・自分たちが住むまちをどのようにしていきたいかを考えることが、小学校における富山市モビリティ・マネジメント教育の目指すところであると思う。（柳内）

（２）３年生社会科の学習プログラムについて

・平成 25 年度 5 月に五福小学校松村先生が学習プログラムを実施した。その際、時間内に指導を終えるのが難しいなどの問題点があり、保内小学校剱田先生に学習指導案の修正を依頼していた。本日は剱田先生の修正案を検討する。（柳内）
・1 時限では時間内に指導を終えるのが難しいとの意見があったので、2 時限構成の学習プログラムとした。その上で、社会科の学習の要素を取り入れるよう配慮した。1 時限目では、「公共交通」という言葉を理解できるようにした。「公共」という言葉は 3 学年の他教科で既習である。「公共交通」とはたくさんの人が利用する乗り物であるという定義をまず押さえ、次に公共交通と土地利用の関係について学び、人口密集地を鉄道が結んでいることを児童用パンフレットから読み取ることを課題とした。児童が自分で読み取ることが出来なければ指導教員がサポートする構成とした。

  2 時限目では、1 時限目で学習した公共交通の事例として、JR 富山港線とポートラムを児童用パンフレットを用いて比較する内容とした。JR 富山港線廃線による影響の予想を通して、富山市の公共交通を軸としたまちづくりを学ぶ構成とした。（剱田）
・学習指導案の変更点を踏まえ、社会科 6 年生の児童用パンフレットにある「富山港線とライトレールを比較してみよう」を、社会科 3 年生の児童用パンフレットにも掲載するとよい。（柳内）
・社会科 3 年生の児童用パンフレット中面の構成を変更し、中面左側を「富山港線とライトレールを比較してみよう」、中面右側を「くしとだんごのまちづくり」にしてはどうか。（大西友）

・社会科３年生児童用パンフレット中面右側下段「○×クイズにちょうせん！」は必要か。（剱田）
・児童を授業に引きこむ目的には有効である。（大西友）
・社会科 3 年生児童用パンフレット中面右側はポートラムを大きく取り上げ過ぎで、広告記事のように感じる。この部分を減量して、社会科 6 年生児童用パンフレット「富山港線とライトレールを比較してみよう」を掲載してはどうか。
児童用パンフレットを作成する際は、A3 両面の体裁にする必要があるわけではない。資料の分量に合わせ、A3 と A4 の組み合わせで複数枚という体裁でもよいのではないか。（柳内）
・平成 25 年度 5 月の五福小学校松村先生による学習プログラム実施では、時間が足りない様子を強く感じた。2 時限構成にしたことで取り組みやすくなったと考える。社会科 6 年生児童用パンフレット「富山港線とライトレールを比較してみよう」を社会科 3 年生児童用パンフレットに掲載するという件については、社会科 3 年生児童用パンフレット中面右側下段「○×クイズにちょうせん！」もあってもいいのではないかと感じる。（藤嶋）
・2 時限構成でよい。クイズは児童用パンフレットに掲載するのではなく、授業のコーナーとしてあってもよいのではないか。（津幡）
・社会科副読本に掲載する富山市モビリティ・マネジメント教育に関する資料は、社会科 3 年生児童用パンフレット外面からバス路線の表記を整理し、情報を読み取りやすくしたものである。また、富山市モビリティ・マネジメント教育についての情報を掲載するウェブサイトの URL を表記する。（剱田）
・社会科 3 年生児童用パンフレット外面と社会科副読本掲載資料では、剱田先生の発言の通り異なる部分があるため、社会科３年生児童用パンフレット外面は必要である。（柳内）
・社会科 6 年生児童用パンフレット「富山港線とライトレールを比較してみよう」を、社会科 3 年生児童用パンフレット中面左側から右側上段に追加する。社会科 3 年生児童用パンフレット中面左側「くしとだんごのまちづくり」については、上段部分をコラム（東福さんのお話）として中面右側下段に掲載する。社会科３年生児童用パンフレット中面右側「『くし』のひとつであるポートラム」は削除する。（剱田）
・JR 富山港線がなくなった理由については、社会科 3 年生でも社会科 6 年生と同様に扱うのか。（東福）
・社会科３年生では、JR 富山港線がなくなった理由については児童に考えさせるのではなく、教師が理由を説明する。（剱田）

（３）６年生社会科の学習プログラムについて

・本日提示する学習指導案は、3 時限目が未完成である。もう少し内容を減らしたいと考えている。平成 24 年度の学習プログラム実施の結果を踏まえ、社会科６年生の教科書を活用し、教科書に掲載されていない資料を児童用パンフレットに掲載するように変更したい。
1 時限目はライトレールが作られた経緯から、政治参加という社会科の内容を学習できる構成とした。2 時限目はライトレール利用者が増えた理由を、JR 富山港線との比較を通して学ぶ内容とした。3 時限目は富山市の新しいまちづくりについて学ぶ内容とする予定である。児童用パンフレット中面右側下段のタイトル「ライトレールには、どのような願いが込められている

のだろう？」は変更する。
児童用パンフレットの体裁は、児童に資料を提示したいタイミングにあわせ、複数枚に分割したい。修正案は 11 月上旬に提出する。（藤嶋）

・平成 24 年度の実施の際、JR 富山港線の利用者数の減少についての資料を、富山市から提供されたデータを元にグラフを自作して使用した。この資料を可能であれば児童用パンフレットに掲載したい。（藤嶋）
・社会科 6 年生の単元「わたしたちの願いを実現する政治」の中で社会科 6 年生の学習プログラムを実施する想定となっている。全 9 時限の 8～9 時限目に「これからの富山市について考えよう」というテーマで学習する単元の 1～3 時限目にモビリティ・マネジメント教育の学習プログラムを実施するのはやりにくいのではないか。（柳内）
・公共交通だけが富山市の将来にとって重要なテーマというわけではないため、公共交通を取り上げるところから始まって「これからの富山市について考えよう」に結びつけるのは難しい。平成 24 年度の学習プログラム実施の際もやりにくいと感じた。社会科 6 年生の教科書では補助教材としてライトレールが掲載されており、取り上げること自体は不自然ではない。（藤嶋）
・単元「わたしたちの願いを実現する政治」で、1～3 時限目と 8～9 時限目の連続性はあるか。間の 4～7 時限目に富山市ではなく国の仕組みを取り上げるので、分断されているように感じる。4～7、1～3、8～9 という順番で授業を行うのもよい。
平成 24 年度は、単元「わたしたちの願いを実現する政治」の 8～9 時限目はどのような内容で実施したか。（柳内）
・グループワークを行い、これからの富山市のまちづくりについて、公園整備などのアイデアを児童が出すという内容で実施した。（藤嶋）
・8～9 時限目は、社会参画について考える上で重要である。視点をミクロからマクロへ移動する訓練は必要であり、富山市について考えることと国や地球のことについて考えることはつながっていると児童に気づいてもらいたい。（津幡）
・富山駅再開発や路面電車南北接続は、未来の事象である。これらをテーマに、どうなったら便利だろうということを考えたり、税や議会の働きを考えたりすることも出来るのではないか。（剱田）
・社会科 6 年生の教科書に準じた指導も踏まえ、単元「わたしたちの願いを実現する政治」は富山市の未来への願いを児童が出し合って結べばよいのではないか。（柳内）
・間口が広すぎても児童にとっては取り組みにくい。1～3 時限でライトレールについて学ぶことを生かし、交通についての未来への願いを出し合うという流れでもよい。交通を切り口にしても、福祉やまちづくりについても考えることができる。（剱田）
・ゲストティーチャーの話としては、ライトレールを実現させるに当たって行政が果たした役割というテーマが考えられる。（東福）
・JR 富山港線からライトレールに変更するにあたり必要となった費用や、その費用に占めた税金や寄付金の割合の資料があるとよい。児童もお金には興味を示す。（剱田）

２．報告事項

（１）副読本掲載の進捗状況について

・資料の副読本掲載案の内容で、富山市社会科副読本編集委員会で了承された。乗り物の情報を取り込んだ紙面となっており、富山市モビリティ・マネジメント学習の取組みとして今後 PR していきたい。（東福）

（２）富山市堀川小学校ＥＳＤ実践発表会について

・平成 25 年 11 月 1 日（金）に、ＥＳＤ（持続発展教育）実践発表会が堀川小学校で開催される。富山市モビリティ・マネジメント教育として取組みの紹介を行う予定である。総合的な学習の時間 4 年生の公開授業として、堀川小学校の政二先生が授業を行う。公開授業後に研究協議会が開催される。（東福）

３．今後のスケジュール

（１）公開授業開催予定

１）社会科

・12 月 2 日　　社会科 6 年生（五福小学校）
平成 24 年度の授業を改定して公開授業を行う。

２）総合的な学習の時間

・11 月 12 日　　総合的な学習の時間 5～6 年生（呉羽小学校）
環境をテーマとした学習プログラムを企画し、6 年生のクラスで公開授業を行う。

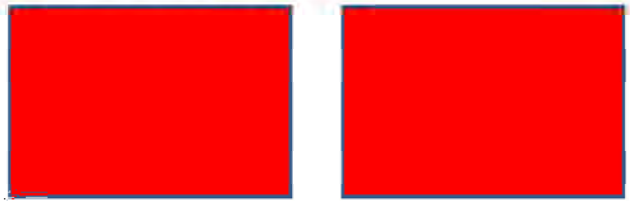
以上

・教材データのご提供

各学習プログラムにおいて、以下の教材をご用意しました。下記ＵＲＬからどなたでも自由にデータをダウンロードできます。授業実施の際にご活用ください。

○指導案
○ワークシート　※総合的な学習の時間の学習プログラムのみ
○児童用パンフレット
○板書例

参考：社会科６年生　児童用パンフレット（Ａ３サイズ）



学習プログラムデータのダウンロード（富山市教育センターＨＰ内）

http://www.tym.ed.jp/c10/link/fr_link-syu7.html

【 問合せ先 】　富山市交通政策課　TEL：０７６－４４３－２１９５

平成２６年４月　富山市交通政策課、富山市教育委員会

富山市交通環境学習のすすめ

持続可能な社会のための交通環境学習

富山市交通環境学習とは

富山市交通環境学習は、環境や社会について意識を向け、自発的に考えて行動できる「将来の富山市民」を育成するための小学生を対象とした教育です。

例）交通に着目して考えた場合：地球温暖化防止や交通弱者のための公共交通維持を考え、過度にクルマに依存するのではなく、クルマと公共交通をかしこく使った交通行動をとることができる市民を育成する。

また、持続発展教育（ＥＳＤ教育）と非常に近い考え方をしているため、富山市におけるＥＳＤ教育の目玉であると言えます。

※『富山市学校教育指導方針』の持続発展教育（ＥＳＤ）のページ（Ｐ●）には、富山市交通環境学習に関する内容が掲載されています。

富山市交通環境学習を実施する必要性

富山市では、将来に向けて３つの大きな課題（注１）があると考えています。それらの課題を解決するため、「くしとだんごのまちづくり（注２）」を進めています。

富山市交通環境学習は、環境や福祉等について意識を向け、持続可能な社会のために自発的に考えて行動できる「将来の富山市民」育成に効果的な教育であると言えます。

注１：富山市の将来に向けた課題３つ

①車を自由に使えない市民にとって、極めて生活しづらいまち
②割高な都市管理の行政コスト
③中心市街地の空洞化による都市全体の活力低下と魅力の喪失
富山市の抱える３つの課題は、日本全体が直面する今後のさらなる少子高齢化によって深刻化すると考えられます。

注２：富山市のすすめる「くしとだんごのまちづくり」

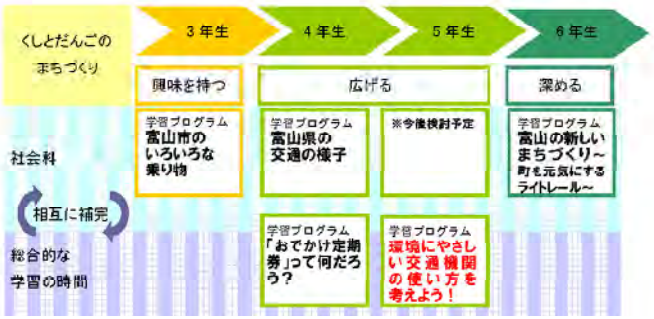
「くしとだんごのまちづくり」とは、鉄軌道をはじめとする公共交通（くし）を活性化させ、その沿線に住居・商業・文化等の都市の諸機能（だんご）を集積させることによる、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりのことです。

富山市交通環境学習の概要

３～６年生の４学年において、福祉や環境などの分野を通じて「くしとだんごのまちづくり」を学習することで、環境や社会について意識を向け、自発的に考えて行動できる「将来の富山市民」の育成を目指します。

また、３～６年生の４学年においてステップを踏みながら学習を進めることができるように、社会科と総合的な学習の時間の２教科における学習プログラムをご用意しました。

※３・４年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』（P●～●）には、富山市交通環境学習に関する内容が掲載されています。



富山市交通環境学習の実施

・学習プログラムの内容

教科	学年	学習プログラム名	学習内容	実施単元名・時期
社会科	3年生	富山市の いろいろな乗り物	富山市にはいろいろな公共交通があること、ポートラムの特徴があることを知る。	・身近な地域 ・6～7月
	4年生	富山県の 交通の様子	富山県の鉄道の様子について、市街地の分布と関連付けて理解する。	・富山県の広がり ・12月
	5年生	－	－	－
	6年生	富山市の 新しいまちづくり	市のまちづくりに関心を持ち、進んで話し合い、行政の仕事を理解する。	・わたしたちの願いを実現する政治 ・12月

教科	学年	学習プログラム名	学習内容	実施教科 ・単元名分野・時期
総合的な学習の時間	3～4年生	おでかけ定期券って何だろう？	「おでかけ定期券」の目的を調べる活動を通して、バス交通が高齢者にも使いやすく整備されていることに気づく。	・総合的な学習の時間 ・福祉 ・国語 ・だれもがかかわり合えるように ・4年生 9月
	5～6年生	環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう！	●●●●●●●●●●●●●●●●	・総合的な学習の時間 ・環境

②議事要旨

第４回富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業　検討部会

議事要旨

日　時：平成 25 年 11 月 12 日（火）14：50～17：30

場　所：呉羽小学校　会議室

出席者：

所属	氏名
五福小学校 校長	柳内　誠治
東部小学校 教諭、小教研 総合部会	渡辺　純恵
呉羽小学校 教諭、実践校	堀　　泰洋
樫尾小学校 校長、小教研 総合部会	堀江　修
芝園小学校 教頭、小教研 総合部会	相川　仁
堀川小学校 教諭、小教研 総合部会	柴山　秀範
岩瀬小学校 教諭、小教研 総合部会	三日市　寛

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課 係長	東福　光晴
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	室田　知美
富山市 都市整備部 交通政策課 主事	宮城　由希子
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西　友世
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西　哲平

次　第：

１．協議事項

（１）５～６年生総合的な学習の時間の学習プログラムについて

（２）３～４年生総合的な学習の時間の学習プログラムについて

（３）ＰＲチラシについて

２．報告事項

（１）富山市堀川小学校ＥＳＤ実践発表会について

３．今後のスケジュール

１．協議事項

（１）５～６年生総合的な学習の時間の学習プログラムについて

〇授業実施によって発生した課題とその対応

・総合的な学習の時間の環境分野として、高学年にふさわしい内容の授業を目指した。探究活動を取り入れようとしたが、CO_2排出量調査など大がかりなものは採用せず、自家用車からのCO_2排出を削減するための取組みについて家族へのアンケートを行うことにした。CO_2排出量削減に実際に取組むには家族の協力が不可欠であるということを児童に理解させたかった。
時間配分が予定通りにはいかなかった。地球温暖化については児童がすでに知っていたので、簡単に済ませればよかった。また、CO_2排出量削減のためのアイデアがあまり児童から出てこなかった。これはアイデアを出すための時間が足りなかったためと思われるので、時間配分通りに進んでいればよりアイデアが出ていただろう。（堀）

・今回の「環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう！」では、地球温暖化を防ぐために自家用車の利用を控えようという結論までがあらかじめ用意されており、一本道のように感じられ、児童が自ら考えられる部分が少なく感じた。例えばアヴィレに着目し、アヴィレを整備した富山市の意図はどのようなものだったかを考えるといった展開がよいと思う。（柴山）

・2 時限という限られた時間で授業を行うため、児童の興味関心をどれだけ集められるかが大事である。資料の読み取りは堀先生がうまく補助していたが、児童にとっては難しいようだった。情報量は必要最低限になっているので、設問や指導で児童の理解を促すしかない。
児童の予想では、富山市のCO_2排出量が減少しているという回答が多かった。実際は富山市のCO_2排出量は増えており、ここで疑問に思った児童を授業に引き込むことができた。
児童用パンフレットは書き込みスペースなどが工夫されており、使いやすい。（三日市）

・富山市のCO_2排出量のデータが平成 17 年のものであり、古い点が気になる。データの古さに気がついている児童もいた。新しいデータがあれば採用したい。（堀）

・富山市のCO_2排出量のデータの出典は平成 24 年に策定した富山市環境未来都市計画の中にある平成 2 年と平成 17 年の富山市のCO_2排出量の比較資料であり、これより新しい資料は作成していない。（東福）

・富山市モビリティ・マネジメント教育の推進のために更新が必要な資料だ。富山市には新しいデータを用意してもらいたい。（柳内）

・柴山先生の言うように富山市の施策の意図に注目した展開にすると、環境ではなくまちづくりをテーマとした授業となる。
今回の授業を児童が身近に感じられないのは、資料で取り上げられている地球温暖化の事例が身近でないからだ。水害や獣害は児童に身近とは言えない。CO_2排出量に関する部分でも、年間何万トンという数字の意味はわかるが、それが自分たちの生活に与える影響は感じられない。児童が身近に感じられる資料があるとよかった。また、児童用パンフレット外面右側下段の書き込みスペース「ここで、地球温暖化について考えたことをまとめてみよう」は、「地球温暖化が生活にもたらす影響について考えたことをまとめてみよう」のほうがよい。（渡辺）

・環境とエネルギー問題にまたがる大きなテーマで、2 時限におさまるよう授業を実施できたのは堀先生の手腕による所が大きいだろう。柴山先生が言うように、授業の結論があらかじめ用

意されており、一本道のように感じられる部分はあった。しかし、総合的な学習の時間の授業であるからといって必ずしも自分で課題を探求する内容である必要はなく、今回のように知識を吸収する内容であってもよい。今回の授業は知識を吸収する目的ではシンプルでよい授業だった。（柳内）

・自分で課題を探求するためには、児童にとっての身近さ、切実感が必要だ。地球温暖化という大きなテーマを公共交通利用促進という身近なテーマに結びつけるのが今回の授業の狙いであった。しかし、1日10分自家用車の利用を控えることが比較的有効な手段であるというデータを見ても、児童からはCO_2排出量を削減するための取組みとして、自家用車の利用を控えるという選択肢は出てこなかった。なぜ児童の意識が自家用車の利用を控えるという選択肢へ向かなかったのか、検討する必要がある。

今回の授業で児童の関心が最も高かったのは、富山市のCO_2排出量が全国平均を上回っているという点であった。富山市のCO_2排出量が全国平均を上回っていることへの関心から、富山市の各家庭が出すCO_2の内訳に注意が向き、その資料で最も割合が大きい家電製品の利用を控えるべきという意見に結びついたのではないか。

平成25年10月9日の検討部会でも発言したが、日本が持つCO_2排出枠を産業や物流に割り当てるために自家用車の利用を控えるべきという筋書きは、児童にとって身近に感じられる産業・物流という話題ともつながりがあるため、よいと考える。（相川）

・児童は自分で自家用車を運転しているわけではないので、CO_2排出量削減のために自分ができることを考えると、自家用車よりも家電製品に注意が向く。CO_2排出量削減のために自分の周りの大人に働きかけられることという問いかけにするとよい。（柳内）

・富山市モビリティ・マネジメント教育の授業を何回か拝見したが、2時限で行うのは難しいと改めて感じた。今回の授業も、堀先生でなければこれほどうまくは出来なかっただろう。児童が富山市モビリティ・マネジメント教育の重要性を理解するためには、2時限では足りない。

総合的な学習の時間の特徴は自分で課題を探求することであり、今回の授業についても環境の知識を身につけることでなく、環境について自分で課題を探求することが重要である。今回の児童用パンフレットは主にデータを提示する構成となっている。柴山先生が言うように、アヴィレを入口として富山市の施策について自分で考えるような構成がよいだろう。（堀江）

・総合的な学習の時間の中で、富山市モビリティ・マネジメント教育の長時間にわたる単元を作ったほうがよいという話をしたこともあったが、実施される機会が減ることが予想され、難しいと考えた。

平成25年度までの学習プログラム実施は実践事例として富山市交通政策課ウェブサイトに掲載し、平成26年度以降に実施する先生の資料となる。

今回の児童用パンフレットでは、外面では各家庭の取組みをテーマとしているのに対し、中面では急にテーマが富山市の取組みとなるため、違和感がある。（柳内）

・外面で家庭からのCO_2排出の最も大きな原因が自家用車であることを学び、中面で富山市の公共交通を中心としたまちづくりを紹介する。つながりはあるが、強調したほうがよい。例えば$CO_2$1tとはどれくらいの重さであるかをわかりやすく例示するなどするとよい。（相川）

・CO_2排出量削減の必要性は児童もわかっている。CO_2排出量削減のためにできることを考える際、

1日10分クルマをひかえることのCO_2排出量削減効果を強調するとよい。（渡辺）

・渡辺先生が言うように授業の組立てを行えば、効果があるだろう。（堀）

・他都市では、あるものから排出されるCO_2の量を、ペットボトル何本分というような表現方法をとっている例もある。（大西友）

・平成24年度に路面電車の学習をした際、富山地方鉄道の作成した路面電車利用促進のポスターをみた児童は、即座に路面電車の重要性を理解していた。児童に必要なデータはCO_2が何gというデータではなく、わかりやすい事例だと思う。（柴山）

・授業の結びとしては、CO_2排出量削減のための取組みは一筋縄ではいかないが、富山市の様々な施策により前進しているという夢を児童に持たせたい。（堀）

・堀先生が言うような内容は平成25年度の学習指導案には含まれていない。平成26年度以降に実施する先生に理解してもらえるよう、学習指導案に明記したほうがよい。（柳内）

・本日提出の学習指導案のまま2時限目の授業を行い、児童の反応を確認して、変更点を改めて検討したい。（渡辺）

・総合的な学習の時間の学習プログラムについて検討する機会は今回が最後である。平成25年度は土台を完成させ、平成26年度以降の発展に期待したい。土台作りは、堀先生に頑張ってもらいたい。（柳内）

・児童用パンフレットは、デザインの修正を行い、他の児童用パンフレットと同様の仕上がりにする。小見出しへの番号の付与など、使い勝手がよいものにする。（大西友）

・2～3人の先生に、総合的な学習の時間5～6年生の学習プログラムを追加実施してもらいたい。（柳内）

・追加の実施を行う際は、児童用パンフレットの使い方を一部変更することを認めてもらいたい。観光交通を入り口として環境について考えていくような授業の組立てであれば、追加の実施を引き受けられる。（堀江）

・平成26年度の学習プログラム実施の際は、交通から環境について学ぶ組立てで行うことも検討すればよい。（渡辺）

・児童用パンフレットのページを分割すれば、授業の組立てを変えて学習プログラムを実施することもできるだろう。（東福）

（２）３～４年生総合的な学習の時間の学習プログラムについて

・平成25年10月9日に、学習プログラムの2時限目を実施し、修正点について検討した。今回は学習プログラムの1時限目について、修正点を検討していただきたい。

まず、「学習指導案の授業の展開（1時間目）」の「(2) 本時の展開」の1段目において、最初の2つの発問は軽く扱う旨を記載した。

また、「(2) 本時の展開」の2段目において、単調な数字の読み取りを少なくし、グループや全体で話し合い、考えを深める時間を設けた。おでかけ定期券の便利なところについての学習は、不要という意見もあったが、1時限目と2時限目のつながりの関係から残した。

また、細案のスライド5番において、中心市街地及び市民病院へのお出かけについて100円でバスに乗車できるということを簡潔に説明するようにした。

また、細案のスライド 9 番を追加し、何のためにおでかけ定期券ができたのかを考えるにあたりパンフレットを活用することを促すようにした。
児童用パンフレットについては、一部表記を変更した。外面左側で「路面電車」と「市内電車」の表記ブレが残っており、「市内電車」に統一する。（渡辺）

（３）ＰＲチラシについて

・配布は平成 26 年度当初の定例校長会で配布する。また、平成 26 年度夏休みに開催予定のフォーラムでも配布する。（東福）
・富山市モビリティ・マネジメント教育学習プログラムの開発に携わった先生のクレジットは、ＰＲチラシへの掲載は見送り、富山市交通政策課交通環境学習ウェブサイトへの掲載を検討する。
総合的な学習の時間の学習プログラムについて、関連する教科を明記したい。堀先生と渡辺先生から、別途ご連絡をいただきたい。（大西友）

２．報告事項

（１）富山市堀川小学校ＥＳＤ実践発表会について

・平成 25 年 11 月 1 日（金）に、ＥＳＤ（持続発展教育）実践発表会が堀川小学校で開催された。富山市モビリティ・マネジメント教育として取組みの紹介を行なった。総合的な学習の時間 4 年生の公開授業として、堀川小学校の政二先生が授業を行なった。公開授業後に研究協議会が開催された。（東福）

３．今後のスケジュール

（１）公開授業開催予定

・12 月 2 日　　社会科 6 年生（五福小学校）
平成 24 年度の授業を改定して公開授業を行う。

（２）推進協議会開催予定

・平成 26 年 2 月頃

以上

（５）第５回検討部会

○議事要旨

第５回富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業　検討部会

議事要旨

日　時：平成 25 年 12 月 2 日（月）14：40～18：00

場　所：五福小学校　会議室

出席者：

所属	氏名
五福小学校 校長、実践校	柳内　誠治
保内小学校 教諭、小教研 社会科部会	劔田　秀則
八尾小学校 教諭、小教研 社会科部会	津幡　和英
五福小学校 教諭、実践校	藤嶋　広樹
八幡小学校 校長、小教研 社会科部会	青山　寿夫
五福小学校 教諭、授業者	中山　美香
公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団 部長	加藤　信次
公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団 課長代理	岡本　英晃

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課 係長	東福　光晴
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	室田　知美
富山市 都市整備部 交通政策課 主事	宮城　由希子
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西　友世
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西　哲平

次　第：

１．協議事項

・６年生社会科学習プログラムについて

２．今後のスケジュール

１．協議事項

・６年生社会科学習プログラムについて

①授業実施によって発生した課題とその対応

・ 授業の展開（1 時間目）について、(2)本時の展開の学習活動 5 の話し合いの時間が少ないと感じた。充分な時間があれば児童の体験の掘り起こしが期待できる部分でありながら、淡々と進めるしかない。学習活動 1 の公共施設に関する学習は本学習プログラムにおいては重要な部分ではないので、この部分を省いて話し合いの時間を捻出してはどうか。

(2)本時の展開の学習活動 5 の指導上の留意点について、富山港線を守る会や富山市役所、富山市議会の活動について説明する時間が用意できなかった。議会制民主主義の仕組みについては未修であるため、児童はどのようにして住民の願いが叶ったか理解できていないと思われる。

授業の進行上、教科書に記載された資料を児童に提示するタイミングを調整する必要があった。紙の教科書ではタイミングの調整ができないため、デジタル教科書を使用した。

授業の展開（2 時間目）について、資料の補足説明に時間がかかった。(2)本時の展開の学習活動 1 の資料読み取りの時間が 10 分では足りず、児童用パンフレットの「ライトレール沿線のまちづくり」の部分まで到達した児童が少なかった。富山ライトレールの利用目的で観光と答えた児童が少なかったことからも、資料を読み取りきれなかったことがうかがえる。

今後、授業の展開（3 時間目）では、富山市が富山ライトレールを活用して福祉と環境を軸としたまちづくりを進めていることについて、話し合いを通して学習する予定である。（中山）

②学習プログラムの変更案についての検討

②-1　1 時限目の検討

・ 本学習プログラムは 3 時限目の学習内容が最も重要であり、3 時限目につながる導入部分として 1、2 時限目を構築する必要がある。（津幡）

・ 1 時限目は、JR 富山港線から富山ライトレールに変わることでどのようなよいことがあったのかを考えると、3 時限目につながる。（柳内）

・ 1 時限目では、富山ライトレールとは何か、なぜ作られたのかを学習することになっている。富山港線を守る会と富山市議会の活動を念頭に、住民の願いが政治によって実現されるプロセスを示す意図があった。（藤嶋）

・ 住民の願いが政治によって実現されるプロセスについて 1 時限目で扱うのは、時間の関係で難しい。2 時限目以降に振り替えたほうがよい。（柳内）

・ 1 時限目で扱う、富山ライトレールに込められた願いとは、高齢者の移動手段を確保することだけではない。むしろ、通勤通学のために必要であるという願いが先にあり、高齢者のために必要という願いは付加的なものなのではないか。（津幡）

・ 通学という観点は児童にとって身近であるため、大事である。自動車を自由に使えない人達には学生や高齢者がいるということがわかれば、3 時限目の学習内容につながる。（東福）

・ 児童用パンフレットの 1 枚目下段「ライトレールの利用者数」の読み取りで、利用が増えている年代や時間帯に注目することで、富山ライトレールの利用者である自動車を自由に使えない人達とはどのような人達であるかに気づくことができる。50～60 代の利用者が増えていることから、

高齢者の願いが込められていたことがわかる。（大西友）

- 高齢者にこだわるのは危険である。富山ライトレールの利用者は高齢者だけではなく、あくまで自動車を自由に使えない人達というくくりでみたほうがよい。
  また、児童にとっては、今あるものができた理由を考えるのは難しい。今あるものがどのように役に立っているかを考えるほうが自然で取り組みやすい。その上で、どのように役に立っているかについて考えた結果の答え合わせをする資料があるとよい。ゲストティーチャーによる授業を行うか、もしくは児童用パンフレットの「東福さんのお話」で解説するのがよい。（剱田）
- 住民の願いが政治で実現される過程のイメージを児童に提示する必要がある。（藤嶋）
- どうすれば住民の願いが叶うのか、本単元の 6 時限目以降に調べ学習をするとよい。（剱田）
- 教科書を活用して、どうすれば住民の願いが叶うのかの調べ学習を行ってはどうか。（藤嶋）
- 教科書の富山ライトレールに関する記述はいずれなくなる可能性がある。本学習プログラムを長く活用していただくため、教科書に頼らない構成としたほうがよい。（青山）
- 本単元の 4、5 時限目も、1～3 時限目と一体として、富山市モビリティ・マネジメント教育の学習プログラムとして扱うとよい。富山市の特徴に関わる学習内容である。（柳内）
- 富山港線を守る会、富山市議会の活動に関する内容は 4、5 時限目に移し、1～3 時限目では扱わなくてもよい。2 時限目の学習内容であった、富山ライトレールの利用者数が増えた理由についての予想を 1 時限目にもってくればよい。（青山）
- 教師用資料には、富山港線存続を求める署名数などの具体的な資料を載せておくとよい。（津幡）
- 富山港線存続について反対派もいたと考えられる。富山港線存廃問題の経緯についてはあまり具体的に扱うのではなく、住民の願いが実現したという事実のみ扱えばよい。（剱田）
- JR 富山港線存廃問題について学び、次になぜ富山ライトレールが作られたのかを考えるという順番で進めるのがよい。（青山）

②-2　2 時限目の検討

- 2 時限目は富山ライトレールの利用者が増えた理由を考えるという内容であるが、この内容では授業を実施する必要があるか疑問である。（柳内）
- 富山ライトレールの利用者が増えた事を学習できないか。（東福）
- 1 時限目の学習課題は、なぜ富山ライトレールが作られたのかを考えることであり、資料を使わず予想する内容となっている。2 時限目では、資料を使って確かめる内容とすればよい。（柳内）
- 1 時限目に全く資料がないと児童は考えることができない。JR 富山港線が富山ライトレールになった経緯を説明することで、鉄道がなくなると困る人達の願いがかたちとなったということがわかる。1 時限目はこのことがわかるまでを扱えばよい。
  2 時限目は、住民の願いがかなった結果、具体的にどのようなことが起こったかを確かめる時間としてはどうか。自動車を自由に使えない人達にどのようなメリットがあったかを確かめる内容であれば、本日の公開授業とも近い内容となる。（剱田）
- 富山市内全域で学習プログラムを実施してもらうためには、富山ライトレール沿線地域の概要を児童に伝える資料が必要である。わかりやすく、情報をしぼったものでよい。（青山）
- 2 時限目は富山ライトレールができたことでどのようなメリットがあったかを資料を使って確か

める内容としたい。
使う資料としては、児童用パンフレットの「富山港線とライトレールを比較してみよう」から電停の比較と社内の様子の比較を除いたものにする。児童用パンフレットの体裁は、電停と車内の様子を左面から除き、時刻表を左面に移動する。「ライトレール沿線のまちづくり」の森家観覧者数推移の棒グラフは、富山ライトレールができたことのメリットとして扱う。（藤嶋）

- 人物イラストに吹き出しをつけて話させるデザインで、高齢者、子供、観光客にそれぞれどのようなメリットがあったのかをわかりやすく伝えたい。（剱田）
- 富山市が自動車を自由に使えない人達にやさしいまちづくりを行っているということを、児童にわからせたい。（青山）
- 児童用パンフレットの「富山港線とライトレールを比較してみよう」の写真から、富山市が自動車を自由に使えない人達にやさしいまちづくりを行っているということが読み取れればよい。例えば、パスカの写真から、高齢者が毎回小銭を用意しなくてもよいことなどが読み取れる。
高齢者、子供、観光客の吹き出し付の人物イラストを各２組用意し、富山ライトレールの開業前と開業後でどのような変化があったかを読み取れる資料としてはどうか。吹き出しの中は空白にしておき、児童にイラストの人物の気持ちを記入させるとよい。（剱田）
- 開業前は不満な表情、開業後は満足した表情というような工夫があるとよい。（青山）
- 森家観覧者数の増加は、富山ライトレールの開業との関連はあるのか。（青山）
- 富山ライトレールの開業と岩瀬のまちづくりの効果によるもので、関連はある。（大西友）
- 森家観覧者数推移の棒グラフに、JR 富山港線・富山ライトレールの利用者数を折れ線グラフで追記すれば、関連性が児童にもわかりやすくなる。（津幡）
- 富山市が自動車に依存しないまちづくりを目指したという点については、３時限目で取り扱うとよい。（青山）
- 住民の願いと富山市の施策の意図は別である。富山市の施策の意図は、児童に予想させるのではなく、授業の中で提示するほうがよい。授業で取り扱うタイミングは、３時限目の終わり頃でよい。（剱田）
- 自動車の利用が増え続けて公共交通の利用が増えなかった場合、将来的には公共交通を維持できなくなるという点について、児童に考えさせることはできないか。将来的には誰しも自動車に乗れなくなり、公共交通を使わざるを得なくなる。このことは児童も考える必要はある。実体験から考えるのは難しいため、何らかの資料が必要である。（柳内）
- 児童用パンフレットの「東福光晴さんのお話」で考えることができる。（青山）

②-3　３時限目の検討

- ３時限目は、富山市の現状が抱える問題を児童に考えさせたい。児童用パンフレットの「富山市の『くしとだんごのまちづくり』」を資料として使用する。（藤嶋）
- 「くしとだんごのまちづくり」を説明した上段部分と、富山市の意図を説明した「東福光晴さんのお話」の部分が重要である。富山市は富山ライトレール以外にも公共交通が便利になるような施策を行っている。それを模式的に表したものが、中段左側にある「富山市が目指しているまち」の部分である。（東福）

- 「くしとだんごのまちづくり」については、富山市のまちづくりの大元となる考え方であるということについてひと通りの知識が備わればよい。
  「くしとだんごのまちづくり」について考える前提として、自動車を自由に使えない人の割合、自家用車保有台数の増加は、事実としてしっかり学んでもらいたい。（東福）
- 「くしとだんごのまちづくり」についての知識を得た上で、自分達の地域で公共交通を使いやすくするにはどうすればよいかを児童に考えさせるとよい。（青山）
- 富山市は市域が広く、公共交通が運行されていない地域や、不便な地域がある。富山市中心部の小学校だけでなく、富山市全域で取り組める内容を意識して学習プログラムの検討をする必要がある。コミュニティバスを取り上げるのがよい。（柳内）
- 富山ライトレールについて学んだ上で、富山ライトレール沿線以外にも自動車を自由に使えない人達が住んでいるということに気づかせる。それらの地域ではどのような施策が必要かを考えれば、コミュニティバスや高山線増便などにつなげられる。
  1、2 時限目では富山ライトレールに着目した学習を行い、3 時限目では富山市全域で考えられるよう一般化し、「くしとだんごのまちづくり」の学習につなげていくという流れがよい。（剱田）
- 住民が意識して公共交通を利用しなければ、いずれは廃止になるという現実を伝えるのも大事である。（柳内）
- 社会科 5 年生の学習プログラムで、路線バスの利用者数が急減しているという資料を提示している。そのような事を学ぶのは大事である。（津幡）
- バスに乗らなくても生活できるので、バスに乗らないという選択が将来の不便につながるということを児童に理解させることは難しい。（柳内）
- 自分達が住む地域にもライトレールを作るにはどうすればよいかということを考えるのはよい。児童がまちづくりを考えるきっかけとなる。
  議会制民主主義の仕組みについての学習は、本日検討している 3 時限の中に盛り込むのは違和感がある。児童にとっても考えが飛躍してしまう。（青山）
- 児童用パンフレットの「くしとだんごのまちづくり」の上段右側にある地図をみて、富山市の目指すまちづくりとはどのようなものかを児童に予想させる。1、2 時限目の授業で学んだ知識をもとにすれば、充分予想可能である。その上で、「東福光晴さんのお話」の部分で、富山市が人と環境にやさしいまちづくりを目指しているのだということを確かめる。
  3 時限目の学習課題は、「富山市の新しいまちづくりについて考える」としたい。（剱田）
- 現在の児童用パンフレットのページの分割では、富山市の目指すまちづくりの予想のための資料と確認のための資料が一緒に配布される。ページを分割するなど児童用パンフレットの体裁を調整する必要がある。（柳内）
- 児童用パンフレットの「くしとだんごのまちづくり」の上段右側にある地図内の凡例で、公共交通沿線居住推進地区についての説明が必要である。（津幡）
- 児童用パンフレットの「くしとだんごのまちづくり」の中断左側の「富山市が目指しているまち」で、「こう変えたい」という表現はなくしたほうがよい。（剱田）

２．今後のスケジュール

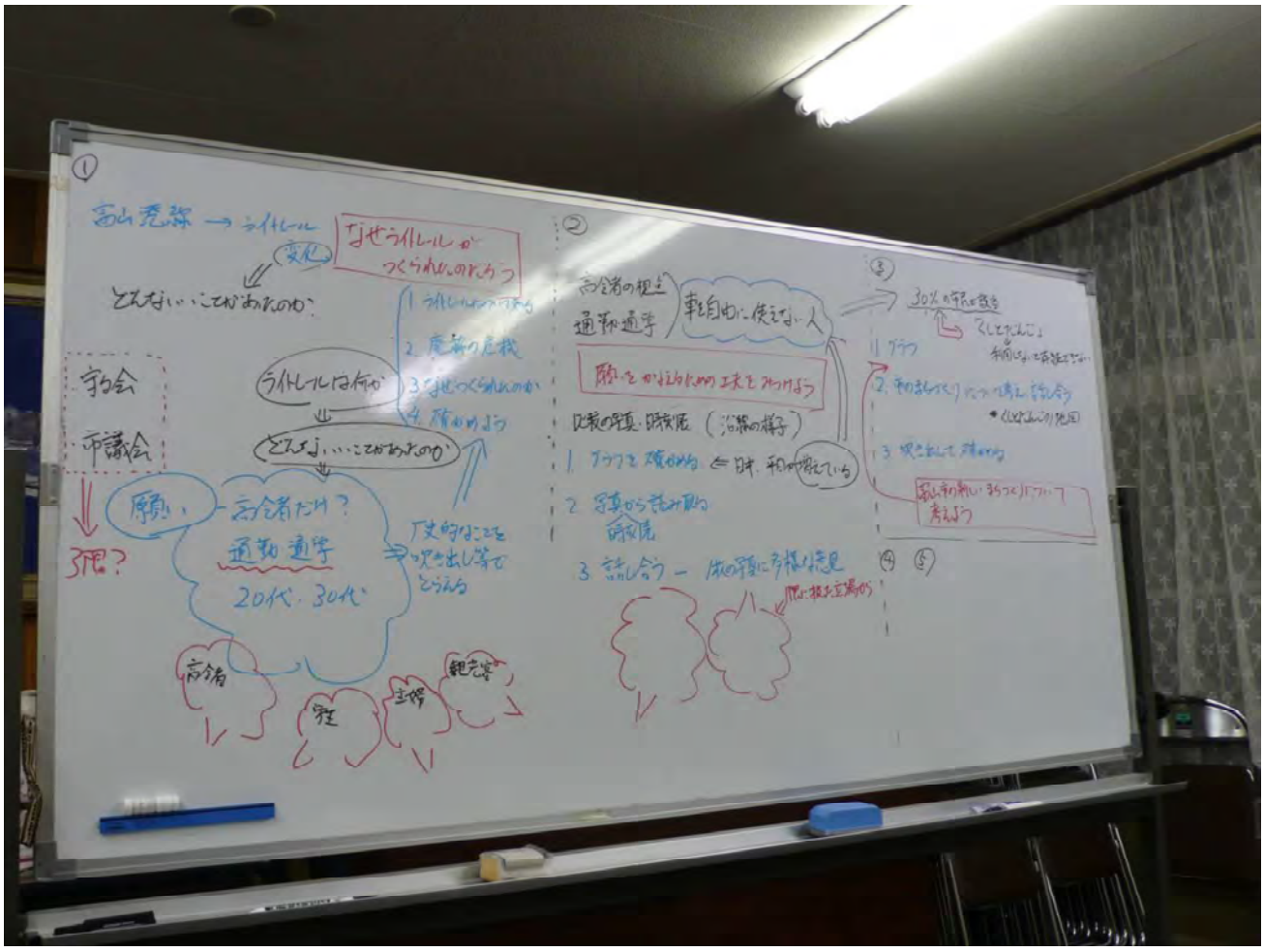
（１）検討部会開催予定

・ 平成 26 年 1 月中旬以降
　平成 25 年 12 月 2 日の議事の続きを行う。

（２）推進協議会開催予定

・ 平成 26 年 2 月頃

３．添付資料（板書写真）



以上

（６）第６回検討部会

○議事要旨

第６回富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業　検討部会

議事要旨

日　時：平成 26 年 1 月 24 日（金）15：00～18：00

場　所：富山市役所　自治振興会室

出席者：

所属	氏名
五福小学校 校長、実践校	柳内　誠治
八幡小学校 校長、小教研 社会科部会	青山　寿夫
保内小学校 教諭、小教研 社会科部会	釼田　秀則
八尾小学校 教諭、小教研 社会科部会	津幡　和英
五福小学校 教諭、実践校	藤嶋　広樹

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課 係長	東福　光晴
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	室田　知美
富山市 都市整備部 交通政策課 主事	宮城　由希子
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西　友世
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西　哲平

次　第：

１．協議事項

（１）３年生社会科学習プログラムについて

（２）４年生社会科学習プログラムについて

（３）６年生社会科学習プログラムについて

（４）平成２４年度以降の実施体制について

２．今後のスケジュール

１．協議事項

（１）３年生社会科学習プログラムについて

- 平成23年度は富山市職員による出前授業を行い、平成24年度は小学校教諭による授業を行った。平成24年度までの成果をもとに改定をくわえたものが、平成25年度の学習プログラムである。平成25年度も数回検討を行っており、今回は最終確認となる。（柳内）
- 五福小学校では平成23年度、平成24年度に富山ライトレールの見学を行った。しかし、全ての小学校が見学を行えるわけではない。見学での体験を補えるような仕組みはあるか。（柳内）
- 資料を用いて座学で補うことになる。富山ライトレールの見学を希望する小学校があれば、富山市が富山ライトレールと調整を行うことは可能である。（東福）
- コラム“東福光晴さんのお話”について、東福氏は今後異動もあるが、その場合はどうするのか。（柳内）
- 架空の人物名を使用する案もあったが、以前の検討で実在の人物名の方がよいという意見があり、東福氏の了解を得て掲載した。（大西友）
- 社会科副読本と3年生社会科児童用パンフレット外面はほぼ同じ内容だが、両方作成するのか。（柳内）
- 3年生社会科児童用パンフレットの外面と中面はセットなので、社会科副読本とは別に、3年生社会科児童用パンフレットも両面をダウンロードできるように用意する。（剱田）
- これまで児童用パンフレットの図表内の凡例にはふりがなを付けていなかったが、児童が自分で学習できるようふりがなを付けたほうがよい。（剱田）
- 地図内の地名など全てにふりがなを付ける必要はないが、凡例にはふりがなを付けたほうがよい。（柳内）
- 未修漢字については、ひらがなにしてしまうと意味がわかりにくくなることもあるので、漢字にふりがなを付けるほうがよい。（剱田）

（２）４年生社会科学習プログラムについて

- 4年生社会科については、公開授業の際に1時限では時間が不足したため、授業の構成を2時限に組み直した。（津幡）
- “授業の展開例（2/2時）”＞“(2) 本時の展開”＞“学習活動”内の“指示”に記載してある、JR各線を書き込んだ地図、富山県内全ての鉄道を書き込んだ地図の2点の資料を用意してほしいが可能か。（津幡）
- 平成25年度に八尾小学校古井先生の依頼で作成した資料に近いので、これをもとに教員用資料として作成し、ダウンロードできるようにする。（大西友）
- 各学年の児童用パンフレット内の図表には北陸新幹線や富山駅周辺の整備は反映されていない。このままダウンロードできるようにすると、平成27年春には内容が古い資料になってしまう。新幹線のルートを書き加えたほうがよい。（柳内）
- 平成27年春開業予定と但し書きをして、各学年の児童用パンフレットに追記する。（大西友）
- 富山駅周辺の写真は、新幹線開業時のイメージ図に差替えたほうがよいか。（大西友）
- 路面電車南北接続時のイメージ図があるが、平成30年頃のイメージ図であり、資料として使う

のは早過ぎる。現状の写真を新しいものに差替えて掲載すればよい。富山市の富山駅事務所に写真の提供を依頼する。（東福）

- 社会科副読本掲載資料についても、新幹線ルートとふりがなを記入したものに差替えることになるが、差替えはいつまで可能か。（大西友）
- 資料の内容が大幅に変更になるわけではないので、2 月 21 日（金）の最終チェックまでに差替えればよい。（剱田）
- 社会科副読本には本資料以外にもたくさんの地図が載っており、新幹線ルートの掲載については、1 月 29 日の副読本編集委員会で検討する。（青山）
- 4 年生社会科の教員用資料には、新幹線のルートを記載する。（大西友）

（３）６年生社会科学習プログラムについて

①前回からの変更点

- 時間の配分を変更した。政治に興味を持ってもらうために、まず市レベルの取組みとして富山ライトレールを取り上げ、次に国レベルの政治について学び、最後に再び身近な富山市について考えるようにした。単元全体の流れの中で、富山ライトレールができるまでの過程については富山市モビリティ・マネジメント教育の学習プログラムから除外し、9 時限の単元の 4 時限目で学ぶこととした。

  1 時限目は富山港線について知り、それが廃線の危機にあったということを学ぶ。なお“授業の展開（1 時間目）」＞“(2) 本時の展開”＞“学習活動”内には“＜観光客の立場＞”と書いてあるが、JR 富山港線時代には観光客はあまりいなかったと考えられるので、この部分は“＜会社員の立場＞”に変更する。

  2 時限目では、富山ライトレールではどのように住民の願いを聞き入れているのかという工夫を、図表から読み取っていく。

  3 時限目は自由に使える車がない人についての資料を取り上げ、富山市のまちづくりについて考える。くしとおだんごのまちづくりについても学び、富山市モビリティ・マネジメントの要素が多く含まれる。

  児童用パンフレットの構成変更について説明する。1 ページ目には、“なぜ、ライトレールがつくられたのだろう？”という小間を設け、利用者のコメントを入れた。コメントの内容が適当かどうか検討していただきたい。

  2 ページ目の JR 富山港線と富山ライトレールの比較では、車両、運賃支払、乗降口、時刻表を残した。

  3 ページ目ではまず“自由に使える車がない人の割合”の小間と、“富山市の新しいまちづくりについて考えよう”の小間で、富山市がどのようなまちづくりをしようとしているかを考える。“富山市の新しいまちづくりについて考えよう”の凡例内“公共交通沿線居住推進地区”の表記は、“これから住んでほしい地区”に変更した。

  4 ページ目では、3 ページ目で考えた内容の確認として、くしとおだんごのまちづくりについて考える。利用者のコメントを掲載して、児童の理解を助けるようにした。（藤嶋）

②検討

- 1 時限目では公共交通を残してほしいという住民の願いが取り上げられており、2 時限目では住民の願いを叶えるための工夫として利便性の向上が取り上げられている。1 時限目と 2 時限目の住民の願いが一致していない。（剱田）35:50
- 児童用パンフレット 1 ページ目の利用者のコメントで、JR 富山港線の不便さを取り上げるか迷ったが、取り上げなかった。（藤嶋）
- JR 富山港線時代は、運行本数の少なさやその他の不便さから利用者が減少していった。富山ライトレールに合わせてもう少し便利になってほしいという意見は、利用者の中に潜在的にあったと考えられる。また、ただ残すだけでは利用者の減少を食い止めることはできないため、利便性を向上させるという富山市の意図があった。（東福）
- 鉄道が残ってほしいという住民の願いに、ただ残すだけでなく、さらに活性化させて“くしとだんごのまちづくり”の“くし”にしたいという富山市の意図が合わさり、JR 富山港線と富山ライトレールの違いが生まれたということを、児童にうまく伝える必要がある。（剱田）
- JR 富山港線と富山ライトレールの違いから、富山市のまちづくりの非常に高度な意図まで思考をめぐらすことになるが、児童にそれが可能かどうか疑問である。（柳内）44:26
- 運行本数が少なく混み合っていて大変だったというような住民のコメントがあれば、1 時限目と 2 時限目がつながる。そのようなコメントを想像で作ってもよいかどうか疑問だ。（剱田）
- 資料に載せたい文言通りの発言の記録がなければ資料に載せられないということはない。全くの捏造というわけではなく、潜在的にあったと考えられる要望であるので、問題はない。（青山）
- 富山ライトレール検討時の住民アンケートの意見でも、全く同じではないが、近いものはあった。（大西友）
- 富山港線が廃線の危機にあったということは、児童はどのようにして理解すればよいか。利用者の減少と廃線の関係性を説明する必要があるが、小学校 6 年生には難しい。“なぜライトレールがつくられたのだろう”ではなく、“ライトレールができてよかったことは何だろう”という問いかけのほうが、児童には取り組みやすい。（青山）
- 児童が、廃線の危機があったことに自分で気付くことは難しいため、事実を伝えるしかない。鉄道が残ってどんないいことがあったかいうことは、児童も考えやすい。（藤嶋）
- 実際には廃線になっていないため、廃線について考えるのは、児童の苦手な仮定の話になる。昔の JR 富山港線と今の富山ライトレールを比べることは、児童にとってわかりやすい取り組みである。（剱田）
- 剱田先生の意見では、住民の願いとは鉄道を残したいという大きな願いであり、その大きな願いの中のひとつにさらに便利になってほしいという願いがあったということになり、1 時限目と 2 時限目がつながる。（青山）
- これまでの意見を合わせて、児童用パンフレット 2 ページ目下段の見出しは、“住民の願いを叶えるために、ライトレールに活かされている工夫を見つけよう”としてはどうか。（青山）
- 2 時限目は、利便性を高める取り組みによって利用者が増えたということからはじまる。“利用者が増えた理由を考えよう”でもよいのではないか。上の“ライトレールの利用者数”のグラフ

と資料を組み合わせることで、日中の利用者数の増加などに気が付くことができる。まず児童用パンフレット 2 ページ目上段のグラフだけを提示して利用者の増加を読み取らせ、次に下段の JR 富山港線と富山ライトレールの違いから利便性の向上を読み取るといった進め方も考えられる。児童の生活体験も活かしやすい進め方である。（剱田）

- JR 富山港線と富山ライトレールの違いの読み取りで、車両、運賃支払、乗降口、時刻表の 4 点について必ず考えたいのであれば、それぞれの項目に番号を付けたほうが、意識して取り組める。（青山）
- 車両の違いを考えるにあたり、外観の違いについてだけでなく、車内の様子について触れるのもよい。また、後の資料で観光客の利用を取り上げるのであれば駅舎の装飾などについても触れるとよい。（剱田）
- 富山ライトレールを紹介する動画があれば、それを観ながら車両や運賃支払、乗降口の違いを考えることができるのではないか。授業の進行速度の調節もしやすくなるだろう。（青山）
- 富山ライトレール事業を説明するためにまとめた動画はあるが、あくまで事業説明用の動画であるため、小学校の授業での使用には不適である。（東福）
- 動画資料は、実際に授業で使用する際には不便なことも多く、必要ないだろう。（柳内）
- 営利企業である JR 西日本が廃線の意向であったところ、富山市が存続のために行動した。この点は住民の願いを叶えるために行政が動いた例として取り上げるべきであるが、2 時限目と 3 時限目のどちらで取り上げるのがよいか。（柳内）67:24
- 富山港線存続における富山市の働きについては、地方自治が未修の 6 年生の児童には難しいという理由により、前回の検討部会では掲載を見送ることとなった。（青山）
- 3 時限目は“くしとだんごのまちづくり”について取り上げることになっているが、2 時限目の内容がはっきりしていない。“住民の願いを叶えるための工夫を見つけよう”の内容では、なぜこのような工夫をしたのか児童はわからないのではないか。（柳内）
- 住民の願いとは、公共交通を残してほしいという願いであり、利便性を向上させてほしいという願いではなかったと考えられる。そのため、“住民の願いを叶えるための工夫を見つけよう”の学習内容に違和感が生じている。1 時限目で富山ライトレールができてよかったことを考え、2 時限目で富山ライトレール開業後に利用者が増えたデータを示して、なぜ増えたのかを考えれば、利便性の向上により利用者が増えたということがスムーズに理解できるのではないか。また、このようにして住民の意思や予算について考えながら学ぶことは、児童が地方自治について学ぶ際も役立つ。（剱田）
- 6 年生で初めて富山ライトレールについて学習する児童は、今回の児童用パンフレットの資料だけでは富山ライトレールについて基本的な内容がわからないのではないか。JR 富山港線時代の資料はなくてもよいが、現在の富山ライトレールについての資料は、車内の様子など、もっと資料が多くてもよい。（剱田）
- 1 時限ほど時間が増えることになるため難しいが、本授業は、順番としては地方自治についての学習の後であるとよい。（青山）
- 地方自治についての学習にからめて住民運動について学ぶ際は、住民の中にも様々な意見があることを考慮し、それを小学校 6 年生でも理解できるように伝える必要がある。富山港線について

も、存続賛成、反対のいずれかが正しかったわけではないということを児童に理解させる必要があり、困難なテーマである。（剱田）

- 2時限目の学習内容は、“住民の願いを叶えるための工夫を見つけよう”ではなく、“利用者の願いを叶えるための工夫を見つけよう”に変更すると、1時限目で扱う、公共交通を残してほしいという住民の願いと、2時限目で扱う、利便性を向上させてほしいという利用者の願いというように分けて考えることができるようになり、1時限目と2時限目がスムーズにつながる。（柳内）
- “住民の願い”にあまりにも強く注目しているため、地方自治などと連携が必要な内容となっている。児童が資料から発見する“利用者の願い”に注目したほうが、すっきりとした授業の構成となる。（津幡）
- 教科書で、“住民の願いを実現するための政治”というテーマが示されていたため、同様の学習課題とした。“利用者の願い”でも問題はない。（藤嶋）
- “住民の願い”を“利用者の願い”に置き換えると、授業の構成がすっきりする。（剱田）
- 富山ライトレールの現在の利用者について考えるほうが、児童も取り組みやすい。（柳内）
- 児童用パンフレットとしては現在の構成を踏襲することとし、富山ライトレールの車内の様子や、新駅の写真を用意するとよい。JR 富山港線時代の資料は必要ないが、比較すると理解がより進む資料である場合は、用意するとよい。（剱田）
- JR富山港線時代の写真はあまり残っておらず、比較資料は用意が難しい場合もある。（大西友）
- 1時限目、2時限目については、内容がすっきりとした。3時限目について、“富山市の新しいまちづくりについて考えよう”という学習課題は少し漠然としており、児童が自分たちで考えるのは難しい。この部分は単純な知識の伝達にしてもよい。（柳内）
- 1・2時限目の富山ライトレールについての学習と、3時限目の富山市の新しいまちづくりについての学習は、一見つながりがないように感じられる。富山ライトレールに代表される公共交通が、富山市の新しいまちづくりに密接な関わりがあるということをしっかりと示す必要がある。（青山）
- 2時限目における富山ライトレールの利便性向上についての学習から発展し、富山市が車に乗れない人が増えてくることを想定したまちづくりを行っているということに気づかせられれば、2時限目と3時限目がつながる。ただし、児童がこのことに気づけるよう、発問は工夫する必要がある。（柳内）
- 公共交通の利便性向上の取組みは、富山ライトレールに限らず、JR 高山本線や路線バスなどでも行っている。富山ライトレールの他にもいろいろな取組みを行っているのはなぜかという事を考えれば、富山市の新しいまちづくりについて気づくことができるのではないか。（青山）
- 3時限目では、富山市の新しいまちづくりについて気づくためには、その意図についても気づく必要があるが、児童には難しい。富山市の新しいまちづくりについて単純な知識の伝達をする授業にすることはできないか。（柳内）
- 児童用パンフレット4ページ目の“富山市が目指しているまち”の部分が、富山市のあたらしいまちづくりの意図の説明となっているが、これは予備知識無しでは学習できない難しい内容である。本学習プログラムでは1・2時限目で理解のための予備知識を得てきているので、なんとか“富山市が目指しているまち”の部分まで到達したい。（東福）

- 3時限目の冒頭で東福氏など富山市職員のゲストティーチャーに来てもらい、富山市のあたらしいまちづくりの意図の説明をしてもらうという方法も考えられる。2時限目から3時限目へつなぐ部分になるので、ゲストティーチャーの発言シナリオには工夫が必要となるが、富山市の意図を伝える手段としては最も有効である。（青山）1:38:02
- 児童の気持ちに寄り添って考えると、JR 富山港線と富山ライトレールの違いから何かを考えるのは、非常に難しいと言わざるをえない。この部分についても、児童から答えを引き出すのではなく、ゲストティーチャーにより答えを解説するようにするとよい。（柳内）
- 現在の1・2時限目の流れでは、児童はJR富山港線と富山ライトレールの違いがどのようにして生まれたのか疑問に感じるだろう。賢い児童だけは富山市の意図に気づくことができるだろうが、望ましい流れではない。より多くの児童が理解できるようにするためには、1・2 時限目の内容を振り返る時間を3時限目に設ける必要がある。（津幡）
- 1・2 時限目の内容を振り返っても、児童からは「わからなかった」という回答しかでてこないだろう。3 時限のなかで学習プログラムを終える必要があるため、3 時限目で児童が自分たちで富山市の意図に気づくようにするのは難しい。ゲストティーチャーや資料による答えの解説が必要である。（柳内）
- 1・2時限目の学習内容についてふりかえりの発問を3時限目に行い、「わからない」という回答を期待するという授業の展開は、検討部会に参加していない先生方には受け入れがたい。多くの先生にとって取り組みやすい学習プログラムを作る必要がある。1・2 時限目の内容と 3 時限目の内容をうまくつなげる必要があるという点には同意する。（青山）1:48:58
- 1・2 時限目から 3 時限目につなげるためには、“公共交通”という言葉がキーワードである。3時限目の冒頭に、1・2時限目では公共交通について学び、3時限目では公共交通を中心とした富山市のあたらしいまちづくりについて学ぶ事を、確認する必要がある。（剱田）
- キーワードとしては、“公共交通を使った、人と環境にやさしいまちづくり”という言い方ができれば、富山市の考えるくしとだんごのまちづくりの説明として適切である。（東福）
- “富山市はどのようにライトレールなどの公共交通を利用したまちづくりをすすめていくのだろう”という発問はどうか。（青山）
- ゲストティーチャーの講話もしくは資料からの読み取りで富山市の新しいまちづくりについて確認する内容なので、“富山市の新しいまちづくりの考え方を確かめよう”といった問いかけ方がよい。富山ライトレール以外の公共交通利用促進の例を取り上げることは、富山市の新しいまちづくりの理解のためによい。（剱田）1:55:00
- 公共交通とはどのようなものかということを、まず児童に理解させる必要がある。富山ライトレールや路線バスを公共交通であるということを理解した上で、くしとだんごの地図では公共交通はどの部分を走っているかを考えればよい。（柳内）
- 児童の理解には役立つかもしれないが、3 時限目の 45 分間に盛り込むには、時間の制約があり難しい。2時限目の最後に加えるとよいのではないか。（青山）
- 3時限目で突然“くしとだんごのまちづくり”という言葉が出てくると、児童の理解に時間がかかる。公共交通を活用した人と環境にやさしいまちづくりを富山市では“くしとだんごのまちづくり”と呼んでいるという流れで教えれば、理解しやすいだろう。富山市のあたらしいまちづく

りのうち、公共交通を活用した“くしとだんごのまちづくり”を取り上げるのであるから、なぜその部分を特に取り上げたのかわかるようにする必要がある。（釼田）

- 2 時限目の終わりで、富山ライトレールや路線バスが公共交通であるということを確認し、3 時限目のはじめで、公共交通を活用した富山市の新しいまちづくりを学習するという流れであれば、児童もスムーズに理解できる。（柳内）
- 現在の 3 時限目の授業の展開では、まず 1 番目に自由に車を使えない人について学習することになっており、2 番目にくしとだんごの地図から富山市の意図の読み取りを行うことになっている。1 番目は現在についての内容であり、2 番目は将来についての内容であるので、児童には理解が難しいだろう。（釼田）
- 3 時限目を 45 分で終えるためには、単純な知識の伝達をする指導も必要であるし、また資料の点数を絞ることも必要である。柳内先生の言うように、2 時限目の終わりで公共交通であるということを確認し、3 時限目のはじめで公共交通を活用したまちづくりを学習するという流れは児童にわかりやすい。3 時限目の最後に、東福さんのお話のコーナーなどで“くしとだんごのまちづくり”を学習する時間も加えるとよい。（青山）
- 青山先生の言うように、単純な知識の伝達をする指導は必要である。ただし、得た知識を使って児童が自分で考えることも必要である。（柳内）
- 富山ライトレールの沿線では、沿線居住がある程度進み、くしとだんごのようなまちができつつある。富山ライトレール沿線のようなまちづくりを、他の公共交通沿線でも進めて行きたいという富山市の意図を理解してもらえればよい。（東福）
- 3 時限目ではまず、東福さんのお話のコーナーで“くしとだんごのまちづくり”という言葉を使わずに富山市の新しいまちづくりを説明する。次に、公共交通沿線居住推進地区の地図を用いて富山市の新しいまちづくりについて考える時間を設ける。最後に、もう一度東福さんのお話のコーナーで、“くしとだんごのまちづくり”について説明する。このような流れではどうか。（藤嶋）
- 東福さんのお話のコーナーで単純な知識の伝達をする場合でも、具体的なデータによる裏付けがあるとよい。どのようなデータが考えられるか。（青山）
- はじめの東福さんのお話のコーナーでは、“富山市のくしとだんごのまちづくり”ではなく“富山市の公共交通を利用したまちづくり”と言い換えられる。その上で、公共交通沿線居住推進地区の地図から富山ライトレール以外の公共交通の路線を削除したものを児童に提示し、公共交通の路線を書き込ませる。このようにすれば、公共交通沿線居住推進地区と公共交通路線の関わりから、富山市の公共交通を利用したまちづくりを児童に理解させる構成になる。（柳内）
- 3 時限目の構成は、藤嶋先生の発案の流れを採用する。（青山）
- 公共交通沿線居住推進地区の地図は、富山市の地形通りの地図ではなく、デフォルメしたものでよい。デフォルメされた地図であれば、柳内先生の言うような書き込み作業を行う際にも作業がしやすく、くしとだんごのような見た目によって理解もしやすい。（青山）
- 児童の気づきがある授業構成が求められているようだったので書き込み作業を提案したが、個人的には単純な知識の伝達をする授業構成のほうがよいと考える。平成 25 年度は学習プログラムの完成が求められているが、いいアイデアが出ない部分は単純な知識の伝達をする授業構成としておき、平成 26 年度以降の改正にまかせることも検討したい。（柳内）

- 虫喰い文など、簡単な作業を当てはめておくこともできる。（青山）
- 3時限目で扱う公共交通沿線居住推進地区の地図について、現状はこの図のようにはなっていない。現状の図を提示することができれば、比較によって課題を発見することができる。（柳内）
- 現状は、公共交通沿線居住推進地区の外側にも大勢の人が住んでいるため、地図全体が着色されるようなイメージとなる。（東福）
- 公共交通が通っていない部分に居住している人はどうすればよいのかという課題も、児童から出てくる可能性がある。（柳内）
- 柳内先生の発案した地図への公共交通路線の書き込み作業に追加して、現状の路線網に一本追加するならどこに線を引くかという問いかけをすれば、公共交通が通っていない部分に居住している人はどうすればよいかについても考えることができる。（青山）2:33:25
- 富山ライトレールについての学習と、富山ライトレールを用いた学習を行えるとよい。富山市の“あたらしい”まちづくりを学ぶのであるから、何が新しく、何が新しくないかを、富山ライトレールを活用して児童に提示してはどうか。その場合、新しい部分は“人と環境にやさしいまちづくり”であり、新しくない部分は、“自家用車の保有率が全国2位である”ということなどである。3 時限目の学習課題としては“富山市のあたらしいまちづくりについて考えよう”とし、新しくない部分として現状の学習をし、東福さんのお話のコーナーで人にやさしい、環境にやさしいまちづくりとは何かについて学ぶ流れとする。公共交通沿線居住推進地区の地図は、小学校6年生で学ぶには高度な内容であるため、取扱いが難しい。児童用パンフレット4ページ目上段左側のイメージ図を用いて、大まかな理解が得られれば充分である。（剱田）
- 公共交通沿線居住推進地区の地図が難しいという意見があるので、代替案を考えたい。昨年度の授業実践では、児童に富山市の現状を表す資料を複数提示し、児童は資料から読み取れることを組み合わせて様々な意見を発表した。中には、公共交通が大事であるという内容の意見を資料から導き出した児童もいた。児童の自由な発想を促すため、くしとだんごのまちづくりについての説明は最後に行った。同様の取組みを学習プログラムにする際、富山市の現状を表す資料としては富山市の人口に占めるお年寄りの割合などを用い、公共交通沿線居住推進地区の地図は最後に説明すればよい。（藤嶋）
- 富山市の意図が児童に伝わりさえすれば、“くしとだんごのまちづくり”という言葉を使う必要はない。（東福）2:40:00
- これまでの意見をもとに、3時限目の授業の展開を整理する。まず、世帯あたりの自家用車保有台数と自由に使える車がない人の割合の資料を使い、車社会であるが、車を使えない人も3割もいるということを理解する。次に、富山市がどのようなまちづくりを目指しているのかについて、資料をもとに児童が意見を出しあう。最後に、富山市が目指しているまちづくりについての解説を行う。（藤嶋）
- 比較検討する資料として、東京の世帯あたりの自家用車保有台数の資料を用いるとよい。なぜ東京は車が少ないのに大勢の人が生活できるのかを考えることで、人にやさしいまちづくりについて考えることができる。環境にやさしいまちづくりについて考えるための資料も必要なので、どのような資料が必要かは検討したい。富山市モビリティ・マネジメント教育学習プログラムの、3・4年生および5・6年生の総合的な学習の時間の資料で使えるものがあれば、援用してもよい。

（劔田）

・ これまでの意見を取りまとめて、藤嶋先生と柳内で最終的な調整を行う。（柳内）

（４）その他

・ 3 年生社会科、4 年生社会科についても、6 年生社会科と同様に単元の中での位置付けを明確にしておいたほうがよい。（柳内）

２．今後のスケジュール

（１）検討部会開催予定

・ 平成 26 年 2 月 28 日（金）　午後 14 時 30 分から
平成 23 年度～25 年度の成果物の報告を行う。
平成 26 年度以降の取り組み方針について報告を行う。

以上

（７）第７回検討部会

○議事要旨

第７回富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業　検討部会

議事要旨

日　時：平成 26 年 2 月 28 日（金）16：00～17：00

場　所：富山市役所　805 会議室

出席者：

所属	氏名
五福小学校 校長	柳内　誠治
八幡小学校 校長、小教研 社会科部会	青山　寿夫
保内小学校 教諭、小教研 社会科部会	劔田　秀則
八尾小学校 教諭、小教研 社会科部会	津幡　和英
呉羽小学校 教諭、小教研 総合部会	堀　　泰洋
東部小学校 教諭、小教研 総合部会	渡辺　純恵
五福小学校 教諭	藤嶋　広樹

事務局：

所属	氏名
富山市 都市整備部 交通政策課 課長	黒瀬　裕治
富山市 都市整備部 交通政策課 係長	東福　光晴
富山市 都市整備部 交通政策課 主査	室田　知美
富山市 都市整備部 交通政策課 主事	宮城　由希子
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西　友世
株式会社 計画情報研究所 研究員	大西　哲平

次　第：

１．報告事項

・交通環境学習完成教材報告

１．報告事項

・交通環境学習完成教材報告

①本日の開催目的について

- “富山市モビリティ・マネジメント教育”は、“富山市のりもの語り教育”に名称変更することとなった。本日は、富山市のりもの語り教育学習プログラムの検討の成果を皆様に報告する。また、平成 26 年度以降の普及に向けたご意見をいただきたい。（東福）
- 当初は社会科の学習プログラム検討と総合的な学習の時間の学習プログラム検討を合同で行っていたが、参加教員の負担軽減のため途中から別々に行うことになった。そのため、初見の資料がある方もおられるだろうが、しっかり確認していただきたい。（柳内）
- 平成 25 年度の完成版学習プログラムを配布した。修正点や検討課題があれば、平成 26 年度以降の新組織へ申し送りをする。（東福）

②学習プログラムの企画・実施について

- 社会科および総合的な学習の時間の複数の児童用パンフレットで、“ひとりを 1㎞ 運ぶために排出されるＣＯ$_2$の量”というグラフが使用されている。各資料でグラフ内の数字が異なっているので、統一すべきである。また、総合的な学習の時間 5～6 年生の児童用パンフレットの同資料には、出典を追記すべきである。（釼田）
- 各学習プログラムの取組みやすさについては、ばらつきがある。総合的な学習の時間の学習プログラムは、いずれも取組みやすいだろう。社会科 3 年生の学習プログラムは、社会科副読本に資料が掲載されているため、取組みやすい。社会科 4 年生の学習プログラムは、想定される授業実施時期がテストなどで多忙な 12 月であるため、取組みにくい可能性がある。社会科 6 年生の学習プログラムは、現行の社会科教科書を補完する内容となっており、実施しやすい。（柳内）

③教員への普及啓発について

- 学習プログラムの冊子は、各小学校に 1 部ずつ配布する予定である。（大西友）
- “モビリティ・マネジメント”という用語は一般の教員には馴染みがなく、取りかかりにくさを感じさせる要因となっていた。“富山市のりもの語り教育”という新名称は、柔らかい印象でよい。

  平成 26 年度以降の学習プログラムの普及啓発については、ユネスコスクール認定校の協力を得るとよい。富山市のりもの語り教育と持続発展教育は共通する部分が多い。校長会の協力を得るためには、教育長または学校教育課長の命令が必要である。

  学習プログラムの冊子の送り先は検討が必要である。校長会で配布した場合、現場教員に行き届かず活用されなくなる恐れがある。学校教育課を通して校長宛に配布するか、教務主任宛に送付するのがよい。（柳内）
- 富山市としては、学習プログラムの冊子を配布して終わりにするのではなく、多くの小学校で学習プログラムを実施していただきたい。平成 26 年度以降は本検討部会に代わる、富山市のりもの語り教育を推進していく新組織を計画している。学習プログラム実践校の教員やオブザ

ーバーの教員などで構成され、学習プログラムの修正や普及促進の役割を担っていただく予定である。本検討部会に参加していただいた教員の皆様には、ぜひ平成 26 年度以降もご協力いただきたい。（東福）

④閉会

・ 平成 23 年 9 月頃に、五福小学校が ESD 実践校であった縁で、本検討部会の会長を引き受けた。小学校教育研究会の部会長から推薦された教員の皆様にお集まりいただき、本検討部会を立ち上げた。教材づくりをするための組織であったが、当初は手さぐりであった。平成 23 年度に玉川大学寺本教授にご協力いただき、五福小学校で模擬授業を行った。富山市の中山氏、東福氏にも出前授業を行っていただき、初年度の検討が始まった。そして本日、2 年半の検討の成果としてこのような冊子が出来あがり、形のあるものができたことを嬉しく思う。
富山市のりもの語り教育は ESD の交通版とも言える。人々が安心して暮らせる明るい社会を作っていくために必要であり、価値のある取組みである。森市長のコンパクトシティ政策ともつながりがあり、富山市の特色がある、全国でも例を見ない事業となった。
平成 25 年度までの検討で土台が完成し、平成 26 年度以降は学習プログラム普及の取組みが重要となる。平成 25 年度までご協力いただいた皆様には感謝申し上げる。PR チラシにも名前が掲載されているように、皆様がこの学習プログラムを作り上げたという事実は今後も残っていくものである。検討開始当初は不安もあったが、結果として他都市に誇れるものが完成した。皆様には校務もある中でご尽力いただきお疲れ様でした。ありがとうございました。（柳内）

以上

富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業
～“くしとだんごのまちづくり”を核とした富山版MM教育学習プログラム～

実施主体
■富山市
■㈱計画情報研究所
■高山純一（金沢大学大学院教授）

とやま レールライフ プロジェクト
TOYAMA RAIL LIFE PROJECT

◆富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業

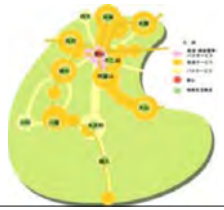
【目的】
小学生3～6年生を対象に、交通と環境に関する意識を高めるため、
富山市版交通環境学習プログラムを確立する。
保護者を含めた市民に対し、啓発活動を展開する。
（交通エコロジー・モビリティ財団の支援を活用）

【内容】
①交通環境学習プログラムの企画・実施
②教科書・副読本への掲載
③教員向けMM教育公開授業の開催
④富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会の開催

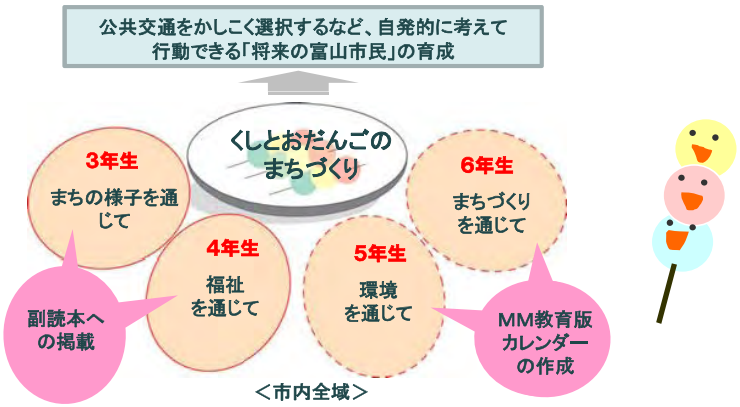
富山市のまちづくりの基本方針
＜概念図＞
富山市が目指すお団子と串の都市構造

串　：一定水準以上のサービスレベルの公共交通

お団子：串で結ばれた徒歩圏



◆富山市モビリティ・マネジメント教育の目指す方向性



①学習プログラムの企画・実施

市内全域での実施を目指す

くしとだんごのまちづくり	3年生	4年生	5年生	6年生
	興味を持つ	広げる		深める
社会科	富山市のいろいろな乗り物〈身近な地域〉 富山市にはいろいろな公共交通があること、ポートラムの特徴があることを知る。	富山県の交通の様子〈身近な地域〉 富山県の鉄道の様子について、市街地の分布と関連付けて理解する。	※検討予定	富山の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～〈住民と政治〉 市のまちづくりに関心を持ち、進んで調べ、行政の仕事を理解する。
相互に補完				
総合的な学習の時間	「おでかけ定期券」って何だろう？ 「おでかけ定期券」の目的を調べる活動を通して、バス交通が高齢者にも使いやすく整備されていることに気づく。		※現在、検討中 平成25年度秋頃に実施予定 ※環境をテーマにした学習プログラムを作途中。	

②教員への普及啓発

	方法1 教員の先進地視察	カレンダーの作成 実際の授業風景を見て、MM教育への理解を深め、他の教員へPR
ファンになってPRしていただく		
知っていただき実施につなげる	方法2 社会科と総合的な学習の時間の部会でのPR	学習プログラムを実施する教員に知ってもらい実施につなげる
知っていただき興味をもってもらう	方法3 ワークショップの開催	市内全小学校の教員を対象としたワークショップを開催し、MM教育推進事業や学習プログラムを幅広く知ってもらう

◆平成24年度　実施学習プログラムの内容

教科	学年	学習プログラム名	実施小学校	実施日
社会	3年生	「くしとおだんごのまちづくり」	富山市立 五福小学校	平成24年5月29・30日
社会	4年生	「富山の交通とくらし」	富山市立 速星小学校	平成25年1月16日
社会	6年生	「富山の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～」	富山市立 五福小学校	平成24年11月29・30日・12月3日
総合的学習	4年生	「おでかけ定期券って何だろう？」	富山市立 東部小学校	平成24年10月10・11日

◆平成25年度　実施学習プログラムの内容

教科	学年	学習プログラム名	実施小学校	実施日
社会	3年生	「くしとおだんごのまちづくり」	富山市立 五福小学校	平成25年5月22日
社会	4年生	「富山の交通とくらし」	富山市立 八尾小学校	平成25年10月29日
社会	6年生	「富山の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～」	富山市立 五福小学校	平成25年12月頃
総合的学習	4年生	「おでかけ定期券って何だろう？」	富山市立 東部小学校	平成25年10月頃
総合的学習	6年生	環境をテーマにしたプログラム	富山市立 呉羽小学校	平成25年11月頃

◆平成24年度学習プログラム実施の風景

富山市立五福小学校：「富山ライトレール乗車体験」（小3）・「まちを元気にするライトレール」（小6）

◆平成25年度学習プログラム実施の風景

富山市立五福小学校：「くしとおだんごのまちづくり」（小3）

◆総合：4年生学習プログラム「おでかけ定期券って何だろう？」

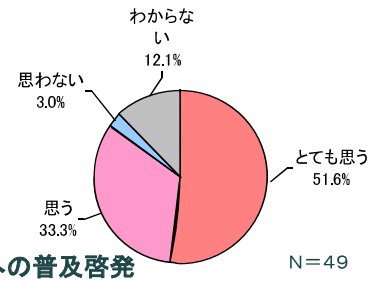
〇日時　　平成24年10月10日(水)・11日（木）
〇学習のねらい：市が発行している「おでかけ定期券」の目的を調べる活動を通して、バス交通がお年寄りにも使いやすく整備されていることに気づく

＜学習プログラム実施の風景＞

新聞記事　（北日本新聞　H24．10．12）

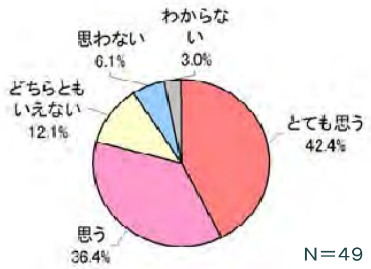
＜児童への事前事後意識変化アンケート実施結果＞

「授業を受けて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いましたか？」



N＝49

「授業を受けて、バス、電車、ポートラムに乗りたいと思いましたか？」



N＝49

◆教員への普及啓発

ワークショップ風景

総合的な学習部会でのPR

教員の先進地視察

6. 第5回EST交通環境大賞の結果について

第５回 ＥＳＴ交通環境大賞の結果について

ＥＳＴ普及推進委員会
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

ＥＳＴ普及推進委員会（委員長：太田　勝敏／東京大学名誉教授）は、「第５回 ＥＳＴ交通環境大賞」（主催：ＥＳＴ普及推進委員会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団、後援：国土交通省、警察庁、環境省、一般社団法人日本自動車工業会、公益社団法人日本バス協会、一般社団法人日本民営鉄道協会）1の各賞を決定しました。

ＥＳＴ交通環境大賞は、わが国におけるＥＳＴの更なる普及のために、地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰するとともに、その取組みを広く紹介し、普及を図るために、平成21年度に創設したものです。

今回は、応募のあった19件の中から、ＥＳＴ普及推進委員会内に設置された審査委員会（審査委員長：太田　勝敏／東京大学名誉教授）における審査を経て、大賞２件、優秀賞１件、奨励賞２件を、それぞれ以下のとおり決定しました。

賞	授賞団体名	主な取組みの名称
大賞 【国土交通大臣賞】	富山市	公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり
大賞 【環境大臣賞】	両備グループ	公共交通利用で「歩いて楽しいまちづくり運動」
優秀賞	日立市	誕生「ひたちＢＲＴ」 ～新しいまちづくりへの第一歩～
奨励賞	秋北バス株式会社＜取組幹事＞ ＜メンバー＞ 株式会社早稲田環境研究所（早稲田大学環境総合研究センター）、株式会社地球健康クラブ、NPO469ｍａネット、富士火災海上保険株式会社 ＜協賛＞ 大館市、能代市、北秋田市、大館市教育委員会、能代市教育委員会、北秋田市教育委員会、大館北秋医師会、能代市医師会	バス＆ウォーク事業

＊第７回EST普及推進フォーラム（平成２６年２月２１日）において受賞予定

【大賞　国土交通大臣賞】富山市　「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」

（概要）

富山市では、これまで過度な自動車依存による市街地の拡散、公共交通の衰退などにより、中心市街地の空洞化が進行しており、その結果、少子高齢化社会の進展により車を自由に使えない市民にとっては極めて暮らしにくい都市構造となっているほか、CO2 排出増等の環境負荷が増大するなどの課題が深刻化する状況にあった。

これらの状況に対応するため、本市では、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集約させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型の環境負荷の少ない「拠点集約型のコンパクトなまちづくり」を推進している。

具体的には、LRT ネットワーク形成、地域自主運行バス事業、自転車市民共同利用システム、モビリティマネジメント等、公共交通を活性化させ、利用を促進するための各種事業に取り組んでいる。

・ 利用者が激減していた JR 富山港線を公設民営の本格的 LRT「富山ライトレール」として整備。運行頻度増加、完全バリアフリー化、フィーダーバスの運行等を行い、開業前と比較して平均利用者数が約３倍となり市民の足として定着

・ 富山駅周辺と中心商業地区のアクセス強化、回遊性向上等を目的に市内電車環状線化事業を実施。開業後は平日・休日とも利用者が増加

・ 呉羽地域や水橋地域等では地域自主運行バスを運行。次世代を見据えた住民参加型の持続可能なバス交通として機能

・ 平成 22 年度から「とやまレールライフ・プロジェクト」を実施。情報誌やラジオ等のメディアを活用し市民や市内企業への利用啓発に努め、交通環境学習の実施など、多角的・戦略的な観点からモビリティマネジメントを展開

・ 平成 22 年３月から自転車市民共同利用システム「アヴィレ」を導入。登録者数が平成 24 年度で３千人を超え公共交通の一つとして機能

・ 将来的な公共交通沿線居住人口を現在の約３割から約４割に増加させ、全体の CO2 排出量を平成 17 年度比で平成 42 年度には 30%の削減を目標としており、公共交通沿線での居住や自動車から公共交通への転換を促進　　等

（授賞理由）

第１回で特別大賞を授賞しておりその時の内容を除き審査した結果、応募された内容のなかで最も総合的に優れ、今後の取組も期待できることが高く評価された。中心市街地・公共交通沿線居住推進事業が実績を上げ、自転車市民協同利用システムの利用が進み、モビリティマネジメント事業等に取組まれるなど、優れた事業が多い。北陸新幹線開業後の富山駅高架下におけるＬＲＴ空間の整備を開始するなど、これからも期待できることから、大賞を授賞することとなった。

7. 富山市のりもの語り教育推進協議会規約

富山市のりもの語り教育推進協議会規約（案）

（設置）

第１条　本市内の小学校における交通環境学習を実施することにより、一人ひとりが社会、環境等にやさしい交通手段を見直し、自発的に行動する人間を育てる教育活動（以下「のりもの語り教育」という。）の推進を目的とする事業を実施するため、富山市のりもの語り教育推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　協議会の協議事項は、次のとおりとする。

(1)　交通環境学習の実施及び学習プログラム内容

(2)　交通環境学習の実施手法

(3)　前２号に掲げるもののほか、のりもの語り教育の推進に関し必要な事項

（組織等）

第３条　協議会は、別表に掲げる委員をもって組織する。

２　委員の任期は、１年とする。

３　委員は、再任されることができる。

（役員）

第４条　協議会に、次の役員を置く。

(1)　会長　　１名

(2)　副会長　１名

２　会長及び副会長の任期は、１年とする。

３　会長は委員の互選により、副会長は会長の指名によりそれぞれ定めるものとする。

（職務）

第５条　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

２　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第６条　協議会の会議は、会長が召集し、会長がその会議の議長となるものとする。

（事務局）

第７条　協議会の事務を処理するため、事務局を置く。

２　事務局に関し必要な事項は、会長が別に定める。

（細則）

第８条　この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附　則

この規約は、平成２６年４月１日から施行する。

別表（第３条関係）

所　属	役　職	氏　名	備　考
学識経験者			
富山市小学校教育研究会社会科の部	部会長		
富山市小学校教育研究会総合的学習の時間の部	部会長		
富山市小学校教育研究会において推薦する者			
富山市交通環境学習実践校の教員			
その他富山市教育委員会が推薦する者			